

# 平成16年度 三重県埋蔵文化財年報

I	組織及び施設	1
1	組織・業務体系	1
2	施設概要	2
II	資料の整理・保管・活用	3
1	整理・保管	3
2	活用	4
3	情報の公開	12
III	埋蔵文化財保護体制の充実	13
1	各種会議・研修会	13
2	埋蔵文化財技術者養成	14
3	埋蔵文化財保護等に関する支援・協力	15
4	文化庁通知「文化財保護法の改正について」	16
IV	平成16年度発掘調査	17
1	発掘調査一覧	17
2	発掘調査の概要	22
V	行政資料	51
1	文化庁通知「文化財保護法の一部を改正する法律等の施行について」 〔文化財保護法新旧対照表〕	51 52
2	文化庁通知「国立大学等の法人化に伴う埋蔵文化財に関する手続きの変更について」	53
3	文化庁通知「市町村合併に伴う文化財保護法に基づく届出等について」	54
4	文化庁通知「行政目的で行う埋蔵文化財調査の標準について」	55
5	「史跡等の現状変更の権限委譲及び現状変更の事務処理について」	56
6	県知事通知「三重県文化財保護条例等の一部を改正する条約」	58
7	教育長通知「三重県文化財保護条例施行規則の一部を改正する規則」	58
8	県内埋蔵文化財数	59
9	県・市町村別の発掘調査件数及び面積の実績	60
VI	付録	61
1	埋蔵文化財教職員研修	61
2	埋蔵文化財市町村職員研修	63
3	三重県埋蔵文化財行政基礎講座	66

2005（平成17）年11月

三重県埋蔵文化財センター

## はじめに

従前から、道路建設や農地改良をはじめ各種の開発事業に伴って、その事業地内に所在して消滅してしまうこととなる埋蔵文化財について、次善の策として発掘調査を実施して記録に残すことが、埋蔵文化財センターの大きな役割のひとつとされてきました。しかし、近年では多くの県民の皆様から出土品や発掘調査並びに研究の成果について公開・活用を望む声が高まってきています。

そこで、三重県埋蔵文化財センターではこれまでの発掘調査や遺物整理・報告書の刊行等にとどまらず、埋蔵文化財にかかわる様々な情報発信、各種の講座や展示会の開催、県内市町村教育委員会との連携や支援・協力に努めているところです。

ここに刊行いたします「平成16年度 三重県埋蔵文化財年報」は、三重県埋蔵文化財センターが行った平成16年度の埋蔵文化財保護にかかる諸事業をはじめ、斎宮歴史博物館や県内市町村が実施した発掘調査の概要等を記録しています。より多くの方々に文化財の大切さやその保護の重要性に対する理解を深めていただくとともに、今後の文化財保護行政を一層充実させて行くうえでお役立ていただければ幸いに存じます。

文末ながら、本書の作成にあたりご協力いただきました県内市町村教育委員会並びに関係各位に感謝申し上げます。

平成17年11月

三重県埋蔵文化財センター

所長 吉水 康夫

# 例 言

- 1 この冊子は、平成16年度における三重県内の発掘調査の概要と三重県埋蔵文化財センターの事業概要をまとめたものである。
- 2 「IV 平成16年度の発掘調査」では、平成16年度の三重県下における発掘調査の概要として、三重県埋蔵文化財センター・斎宮歴史博物館担当の発掘調査成果および、県内市町村担当の発掘調査成果もあわせて収録した。  
なお、各遺跡の発掘調査の概要については、それぞれの発掘調査担当者の協力を得た。
- 3 本冊子の編集は、関係機関及び各位の協力を得て、情報普及グループ（平成16年度）・支援研究グループ（平成17年度）が行った。

# 凡 例

- 1 II・III・IV章にある市町村名等は、事業・発掘調査実施段階での市町村名を記した。合併前の市町村名と合併後の市町村名が同一である場合もあるが、それについては区別はしていない。ちなみに今年度実施された市町村合併は以下の通りである。

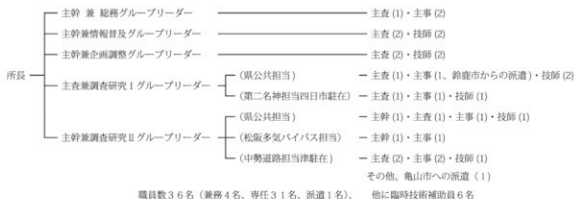
新市町村名	合併旧市町村	合併年月日
志摩市	志摩郡浜島町・志摩郡大王町・志摩郡志摩町・志摩郡阿児町・志摩郡磯部町	2004年10月1日
伊賀市	上野市・阿山郡伊賀町・阿山郡阿山町・阿山郡島ヶ原村・阿山郡大山田村・名賀郡青山町	2004年11月1日
桑名市	桑名市・桑名郡多度町・桑名郡長島町	2004年12月1日
松阪市	松阪市・一志郡桶野町・一志郡三雲町・飯南郡飯南町・飯南郡飯高町	2005年1月1日
亀山市	亀山市・鈴鹿郡岡町	2005年1月11日
四日市市	四日市市・三重郡桶町	2005年2月7日
大紀町	度会郡大宮町・度会郡紀勢町・度会郡大内山村	2005年2月14日

- 2 IV章「1 発掘調査一覧」の本調査一覧にある番号と「2 発掘調査の概要」にある番号は対応している。
- 3 IV章にある市町村担当の調査の調査原因名は、各市町村から提出された原稿をそのまま掲載しているため統一されていない。
- 4 V章「9 県・市町村別の発掘調査件数及び面積の実績」にある市町村の調査原因については、基本的には以下のように分類した。
  - ・「土地改良等」：圃場整備・畑地造成など
  - ・「道路・河川等」：道路・河川など建設・改良工事の他に、ダム建設、それらに関わる側溝工事・舗装工事などの付帯工事、排水路・雨水路工事など
  - ・「ゴルフ場」：ゴルフ場建設事業とそれに付帯する事業を含む
  - ・「団地・個人住宅」：共同住宅・店舗付住宅建設、住宅解体、宅地造成、土地区画整理事業など
  - ・「工場造成地」：比較的大規模な生産施設建設や工場建設に付帯する事業を含む
  - ・「土取り等」：砂利採取など
  - ・「その他」：学術調査、教育施設・福祉施設・公園・その他公共施設関係、上下水道工事・ガス管工事・浄化槽、電柱工事、駐車場整備、店舗など商業施設関係、娯楽施設など、前述の調査原因に当てはまらないもの
- 5 V章の行政通知については、埋蔵文化財に関連すると思われるものを抜粋、掲載している。

# I 組織及び施設

## 1 組織・業務体系

### (1) 組織



### (2) 分掌事務

#### 総務グループ(富宮歴史博物館と兼務)

- |                   |                      |
|-------------------|----------------------|
| 1 公印の管理に関する事      | 6 施設、設備の保守管理に関する事    |
| 2 職員の身分及び服務に関する事  | 7 文書の取扱いに関する事        |
| 3 予算及び経理に関する事     | 8 職員の健康、福利厚生に関する事    |
| 4 給与及び旅費等の支給に関する事 | 9 防災管理に関する事          |
| 5 契約及び入札事務に関する事   | 10 その他、他のグループに属さないこと |

#### 情報普及グループ

- |                           |                              |
|---------------------------|------------------------------|
| 1 埋蔵文化財情報にかかる公開普及に関する事    | 7 三重県埋蔵文化財展等の実施に関する事         |
| 2 出土品並びに各種発掘資料の管理、活用に関する事 | 8 埋蔵文化財センター通信等の刊行に関する事       |
| 3 刊行物の登録・管理、公開活用に関する事     | 9 遺物収蔵倉庫等の管理に関する事            |
| 4 埋蔵文化財センターのホームページに関する事   | 10 出土遺物の1次整理作業並びに整理室の管理に関する事 |
| 5 遺物の保存処理に関する事            | 11 報告書作成・刊行に関する事             |
| 6 GIS並びに遺物台帳に関する事         |                              |

#### 企画調整グループ

- |                            |                             |
|----------------------------|-----------------------------|
| 1 国及び公団等の事業調整に関する事         | こと                          |
| 2 県の公共事業等との調整に関する事         | 9 埋蔵文化財技術の教員研修並びに市町村研修に関する事 |
| 3 受託事業の契約に関する事             |                             |
| 4 県事業にかかる執行委任に関する事         | 10 ブロック別埋蔵文化財保護連絡会議に関する事    |
| 5 市町村事業への指導、支援、協力に関する事     | 11 埋蔵文化財行政基礎講座に関する事         |
| 6 公立埋蔵文化財センター連絡協議会に関する事    | 12 職員の各種研修事務に関する事           |
| 7 発掘調査等の外注にかかる設計及び発注に関する事  | 13 報告書の刊行にかかる基本設計に関する事      |
| 8 民間発掘調査機関等の評価並びに業者選定に関する事 | 14 報告書の作成・刊行に関する事           |

#### 調査研究Ⅰグループ

- |                                     |                                |
|-------------------------------------|--------------------------------|
| 1 北部地域における発掘調査の実施並びに施行管理に関する事       | 5 埋蔵文化財センター研究紀要の編集並びに刊行に関する事   |
| 2 北部地域における開発事業地域の範囲確認調査並びに分布調査に関する事 | 6 遺物整理、報告書等の作成並びに発注事務に関する事     |
| 3 発掘調査の外注にかかる変更設計及び精算に関する事          | 7 埋蔵文化財センター本部での遺物2次整理に関する事(副務) |
| 4 四日市整理所及び朝明倉庫等の維持管理に関する事           | 8 保存科学及び各種分析の技術的分野に関する事        |
|                                     | 9 報告書の作成・刊行に関する事               |

#### 調査研究Ⅱグループ

- |                                    |                                |
|------------------------------------|--------------------------------|
| 1 中南部地域における発掘調査の実施並びに施行管理に関する事     | 5 中勢道路整理所の維持管理に関する事            |
| 2 中南部地域における開発事業地域の試掘調査並びに分布調査に関する事 | 6 埋蔵文化財センター本部での遺物2次整理に関する事(主務) |
| 3 発掘調査の外注にかかる変更設計及び精算に関する事         | 7 遺物整理、報告書等の作成並びに発注事務に関する事     |
| 4 埋蔵文化財技術教職員研修に関する事                | 8 埋蔵文化財専門担当学会に関する事             |
|                                    | 9 報告書の作成・刊行に関する事               |



### (3) 職員一覧

所 長	吉水 康夫		
総務グループ	主幹 (G L)	牧野 明 (斎宮歴史博物館本務)	主事 金森 功 (斎宮歴史博物館本務)
	主査	福井夏美 (斎宮歴史博物館本務)	主事 松本 桂 (斎宮歴史博物館本務)
情報普及グループ	主幹 (G L)	田阪 仁	技師 大川 操
	主査	筒井正明	技師 原田恵理子
	主査	東 敬義	
企画調整グループ	主幹 (G L)	河北秀実	技師 池本浩弥
	主査	宮田勝功	技師 角正芳浩
	主査	田中久生	
調査研究Ⅰグループ	主査 (G L)	森川幸雄	
	県公共担当		
	主査	山口聡嗣	主事 小倉 整 (鈴鹿市派遣)
	技師	穂積裕昌	臨時技術補助員 豊田祥三
	技師	新名 強	
	第2名神担当・四日市市駐在 (四日市整理所)		
	主査	竹田憲治	技師 角正淳子
主事	水本龍治	臨時技術補助員 酒井巳紀子	
調査研究Ⅱグループ	主幹 (G L)	泉 雄二	
	県公共担当		
	主幹	木本勝巳	技師 伊藤裕偉
	主査	中川 明	主事 小山憲一
	松阪多気バイパス担当		
	主幹	五輪史佳	臨時技術補助員 浅生卓司
	主事	大村伸一	臨時技術補助員 瀬野弥知世
	中勢道路担当・津市駐在 (中勢道路整理所)		
	主査	上村安生	技師 山中山紀子
	主査	辻本泰宏	臨時技術補助員 川崎志乃
	主事	船越重伸	臨時技術補助員 坂 佳彦
主事	福島伸孝		

## 2 施設概要

### (1) 三重県埋蔵文化財センター

〔所在地〕 多気郡明和町竹川 503 番地 TEL 0596-52-1732 (代表) FAX 0596-52-7035

HP ｱﾄﾞﾚｽ <http://www.pref.mie.jp/MAIBUN/HP/>

〔面積〕 敷地面積 18,000㎡ 建築面積 4,573㎡ 延床面積 5,077㎡

〔構造〕 鉄筋コンクリート造 1 階 (一部 2 階) 建 \* 建物は斎宮歴史博物館と共用  
 嫡野分室

〔所在地〕 松阪市嫡野川北町 501 番地 電話・ファックスなし

〔面積〕 敷地面積 9,219㎡ (内、約 4,800㎡) 建物面積 4,573㎡ 延床面積 726.25㎡

〔構造〕 鉄骨平屋建 \* 敷地内に中勢道路整理所を併設

### (2) 遺物収蔵庫

桜橋収蔵庫	津市桜橋 2 丁目 126	TEL 059-227-2465
藤方収蔵庫	津市藤方 2283-1	(閉鎖)
高茶屋収蔵庫	津市高茶屋 7 丁目 3 番 46	TEL 059-235-4343
上野収蔵庫	伊賀市丸之内 117	(閉鎖)
朝明倉庫	四日市市中野町 2216 番地	TEL 0593-39-3553

### (3) 現場整理所

四日市整理所	四日市市伊坂町 126-1	TEL 0593-66-2688	FAX 0593-66-2689
中勢道路整理所	松阪市嫡野川北町 471	TEL 0598-42-7960	FAX 0598-42-7961

## II 資料の整理・保管・活用

### 1 整理・保管

#### (1) 資料整理・保管方法

出土遺物は、学術的価値が高く・活用頻度の高いもの（区分A類遺物）を斎宮歴史博物館収蔵庫に、比較的活用頻度の低いもの（区分B類遺物）を各地の収蔵庫（下表参照）に分散保管している。平成10年度から進めてきた遺物の再整理・圧縮作業は全て終了し、収蔵箱数の約4割強の削減を達成すると共に、作業終了後の遺物基本台帳のデータ入力（Excel）もほぼ完了した。

一方、記録保存資料である遺構・遺物の実測図面・写真フィルム類も上記博物館収蔵庫に整理・保管しているが、既に許容量は超過しており、30,000冊を超える受領図書同様に収納場所や方法の抜本的な見直しに迫られている。このうち、大半の書籍については新たに姉野分室での公開を含む移転・整備作業を進めている。

〔平成16年度出土品量(概数)〕

〔収蔵庫保管出土遺物箱数 平成17年3月末現在〕

事業名	出土量 総数*	本調査分		
		箱数	重量	
県事業関係	541	534	1,812.12	
受託事業関係	中勢道路建設事業	124	111	167.8
	第二名神建設事業	0	0	0
	宮川用水改良事業	0	0	0
	松阪多気バイパス建設事業	201	201	858.15
埋蔵文化財センター分計**	866	846	2,838.07	
斎宮歴史博物館分	383	—	—	
合計	1249	—	—	

\*1 数量は、平成16年度末時点の量をコンテナバット(60cm×40cm×16cm)に収納した場合の箱数である。総数は本調査・顕微鏡調査・立会調査分の箱数である。

各年度ごとに正式収蔵時に圧縮・再整理するため、平均して約45%の箱数が実質削減される。

\*2 今年度の本調査面積は32,912㎡、遺物箱数846箱、重量にして2,838.07kgで、100㎡当たり38.9箱、11.6kgであった。

施設名	出土品保管量	
各地収蔵庫	桜橋収蔵庫	7,800
	藤方収蔵庫	(閉鎖)
	上野収蔵庫	(閉鎖)
	高茶屋収蔵庫	8,394
	姉野分室	5,400
受託現場整理所 (一時保管)	四日市整理所	850
	朝明倉庫	1,150
	中勢道路整理所	2,352
埋蔵文化財センター内	収蔵庫1	400
	収蔵庫2	3,573
	仮設収蔵庫	2,607
埋蔵文化財センター分計	32,526	
斎宮歴史博物館	収蔵庫2	12,044
合計	44,570	

#### (2) 科学的保存処理

科学的保存処理のための専任職員は配置されていないが、保存科学室1（木製品専用）にPEG樹脂含浸装置2基、保存科学室2（金属製品専用）には減圧樹脂含浸装置1基が設置されている。また、中勢道路整理所にもPEG含浸装置1基が設置されている。現状では、簡易な処理作業には当該技術研修を終了した職員があたり、本格的な鉄器・木器の保存処理は、国庫補助制度等も活用して専門処理機関に委託している。

木製品においては、今年度処理対象となる495点の中から、中勢道路に伴う発掘調査により出土した木製品262点中149点の保存処理を中勢道路において実施中で、平成16年秋に樹脂含浸を終了し、平成16年度末まで樹脂乾燥を終え処理を完了した。このほかに残る89点と公共事業に伴う発掘調査により出土した157点については、各事業部局から執行委任を受け専門機関へ保存処理を委託した。

また金属製品については、公共事業に伴う発掘調査で出土した194点については1次クリーニング（泥土除去と洗浄）のみ自主処理を行った。このうち今年度処理対象として公共事業の194点、さらに国庫補助金により処理を行う31点の計225点について、X線透過撮影および2次クリーニング以降の保存処理を木製品と同様に各事業部局から執行委任を受け、また国庫補助金を受けて専門機関へ保存処理を委託した。

## 2 活用

### (1) 展覧会事業

#### ① 県庁舎県民ホール等常設展（通年）

広範囲な県民の皆様へ郷土の文化財への興味・関心を深めていただくことを目的として、県庁舎県民ホールと松阪・上野の県民局総合庁舎で常設展示を行なっている。前者は平成10年度から、後者は平成13年度から、それぞれの地域性や話題性のある資料、テーマによりサテライト展示を継続している。

今年度の県民ホールでは「津以北にある遺跡から」、松阪庁舎では「松阪地方の遺跡紹介」、上野庁舎では「伊賀地方の遺跡から」をテーマにし、それぞれ代表的な遺跡とその出土遺物の一部を一般公開した。不特定多数の来庁者が対象であるため入館者数の正確な把握は困難だが、多くの県民の方々の目に留まっていると思われる。

#### ② 企画展・第3回夏休みこども展

- テーマ 平成16年度夏休み、きみはブチ考古学者だ！「木の道具昔むかし」
- 開催期間 平成16年7月10日～同8月29日 4日間
- 開催場所 斎宮歴史博物館 特別展示室
- 入館者総数 3,782名
- 展示資料 漆桶（津市六大B遺跡）、削物椅子・機織の部材（津市六大A遺跡）、曲柄平鍬（鈴鹿市河田宮ノ北遺跡）、刀形（伊賀市城之越遺跡）、井戸杵（津市蔵田遺跡）、琴（津市納所遺跡）ほか114件。
- 概要 遺跡から出土する遺物は土器だけではなく、条件さえよければ、下駄・鍬・機織機・琴など、木製の道具もたくさん出土する。今でも日常生活で何気なく使っている木の道具一昔のひとびとは、どのように作り、どのように使っていたのだろうか。縄文時代から何千年もの長い歴史の中で使用されてきた様々な木製品類の作り方・使い方など、実物を通して学び、復元品を実際に使用して追体験する企画で、夏休み中の小学校・中学校の児童・生徒を対象に上記の日程で開催した。

会場には琴・機織機・農具などの復元道具も展示し、これらを実際に使用して当時の使用法や使った時の感触・音色を追体験することにより、木製道具の構造や工夫をより詳細に観察できる体験コーナーも設置した。また、会期中の関連行事としては、応募者による参加体験講座および講演会を実施した。

① 「古代の田んぼにでかけてみよう講座」 7月24日、8月21日 いずれも午後 各20名ずつ。

② 「空の音～古代の琴の調べ～」 8月15日 午後 160名。

#### ③ 企画展・第24回三重県埋蔵文化財展

- 開催期間 平成17年3月12日～同6月5日 73日間
- 開催場所 斎宮歴史博物館 特別展示室
- テーマ 「石山古墳」
- 展示趣旨 県内の大型古墳のひとつ「石山古墳」は、伊賀市才良に所在する全長120mの前方後円墳である。約1600年前、畿内から東国への出入口となる伊賀国の中心部を支配した王やその一族の古墳と考えられている。  
この古墳は戦後まもない昭和23年から26年の4年にわたって、京都大学文学部考古学教室によって発掘調査が実施され、埴輪類や副葬品など、おびただしい数の遺物が発見された。その内容や豊富さから「全国屈指の古墳」といえる。  
今回の展覧会では、ほとんどが県内「初公開」、総数500点の資料を展示し、石山古墳の姿にせまる。
- 入場者総数 3,680名（平成17年3月31日現在）
- 展示資料 家形埴輪、圓形埴輪、蓋形埴輪、髷形埴輪、盾形埴輪、懸付円筒埴輪、鳥形埴輪、車輪石、蹴形石、石鏝、琴柱形石製品、鍬形石製品、刀子形石製品、勾玉、管玉、ガラス小玉、壺、鏡、斧、銅鏝、鉄鏝、素環頭大刀、小札草履甲、長方板革綴短甲（以上、石山古墳）、蓋形埴輪（伊賀市御墓山古墳）、人物埴輪（伊賀市王塚古墳） など103件。

#### ④ その他

〔イベント広場M祭〕（平成16年8月7日 協賛展示）

三重県総合文化センター企画開催のM祭に協賛展示として参加した。出土土器類の「土器に触ってみよう」コーナー、製作キットを利用して実際に勾玉を作る「勾玉をつくってみよう」コーナーを設け、便利な生活に慣れてしまっている現代の子ども達が古代人の生活を想像するきっかけ作りの場を提供した。親子・家族づれ約1,000名の入場・参加者があり、長蛇の列ができるほど人気が高く、好評のうちに終了した。

## (2) 総合学習支援事業（出前講座・バックヤードツアー・体験発掘など）

総合学習等の新しい学校教育活動の展開に伴い、多様化する教育現場のニーズに対応することも求められている。実績は下表のとおりである。

種別	実施日	実施場所	人数	内容
1 出前講座 (歴史教室)	4月28日	四日市市立大谷台小学校	6年生 92名+3名	社会科総合学習；北勢地域で出土した縄文・弥生・古墳時代の遺物を見ながらの歴史学習を教室に赴き支援。
2 出前講座 (歴史教室)	4月30日～ 5月14日	松阪市立順町中学校	2年生 116名+1名	社会科総合学習；衣食住をテーマとした総合学習に合わせ、貫頭衣や貯蔵・煮沸・供膳具としての土器を教室に提供した学習支援。
3 出前講座 (歴史教室)	5月17日	神宮土器製作所ほか	伊賀焼後継者育成会 10名	伊賀焼の後継者育成にかかわるプログラムの一環で、神宮土器製作所ほかで実地学習するの支援。
4 出前講座 (歴史教室)	5月27日	芸濃町立明小	6年生 21名+1名	社会科総合学習；地元にある縄文から古墳時代の遺跡を紹介しながら地域の歴史への関心を持たせる学習を支援。
5 出前講座 (歴史教室)	6月18日	県立宇治山田高校	3年生 34名+1名	日本史選択生徒を対象に、縄文から古墳時代の実物資料を持参して郷土の原始・古代史学習を支援。(後日希望者のみ体験発掘も実施)
6 出前講座 (体験教室)	7月21日	磯部町図書館	磯部町ジュニアリーダー(中学生)20名+3名	町教育委員会が毎年夏休みに実施しているジュニアリーダー研修会で、勾玉作りの体験学習を支援。
7 出前講座 (体験教室)	7月21日	センター	県立伊勢高校 3名	総合学習の一環で「職業人インタビュー」のためにセンターを訪れた生徒に所長が対応。
8 出前講座 (体験教室)	8月4日～6日	センター-整理室ほか	県立稲生高校教諭1名	教員経験10年の社会体験研修にあたり、センターでの通常業務の3日間体験を支援。
9 出前講座 (体験教室)	8月28日	四日市市 少年自然の家	四日市市立博物館講座参加児 50名	四日市市博物館が毎年実施する博物館講座の一環で、親子で作った土器の焼成指導を支援。
10 出前講座 (歴史教室)	10月6日	上野市 三石代遺跡	名張市郷土歴史部会 10名	地元研究会の方々に三石代遺跡の発掘調査成果等について報告・紹介し、郷土史への認識と理解を深めてもらう。
1 バックヤードツアー-体験学習	4月20日	博物館・センター-講堂	伊勢市立厚生中学校 2年生 147名+6名	博物館展示見学の後、発掘資料の整理作業体験や収蔵庫を見学したりし、テーマに応じた考古資料の学習を支援。
2 バックヤードツアー-体験学習	4月20日	博物館・センター-講堂	伊勢市立北浜中学校 2年生 70名+3名	博物館展示見学の後、発掘資料の整理作業体験や収蔵庫を見学したりし、テーマに応じた考古資料の学習を支援。
3 バックヤードツアー-体験学習	4月21日	博物館・センター-講堂	松阪市立山田山小学校 6年生 106名+3名	博物館展示見学の後、発掘資料の整理作業体験や収蔵庫を見学したりし、テーマに応じた考古資料の学習を支援。
4 バックヤードツアー-体験学習	4月21日	博物館・センター-講堂	伊勢市立城小 6年生 62名+3名	博物館展示見学の後、発掘資料の整理作業体験や収蔵庫を見学したりし、テーマに応じた考古資料の学習を支援。
5 バックヤードツアー-体験学習	4月23日	津市立育成小学校 6年生 87名+4名	6年生 87名+4名	博物館展示見学の後、発掘資料の整理作業体験や収蔵庫を見学したりし、テーマに応じた考古資料の学習を支援。
6 バックヤードツアー-体験学習	4月23日	博物館・センター-講堂	伊勢市立明倫小学校 6年生 83名+4名	博物館展示見学の後、発掘資料の整理作業体験や収蔵庫を見学したりし、テーマに応じた考古資料の学習を支援。
7 バックヤードツアー-体験学習	4月27日	博物館・センター-講堂	津市立修成小学校 6年生 65名+4名	博物館展示見学の後、発掘資料の整理作業体験や収蔵庫を見学したりし、テーマに応じた考古資料の学習を支援。
8 バックヤードツアー-体験学習	4月27日	博物館・センター-講堂	松阪市立第四小学校 6年生 65名+4名	博物館展示見学の後、発掘資料の整理作業体験や収蔵庫を見学したりし、テーマに応じた考古資料の学習を支援。
9 バックヤードツアー-体験学習	4月27日	博物館・センター-講堂	松阪市立機殿小学校 3～6年生 43名+6名	博物館展示見学の後、発掘資料の整理作業体験や収蔵庫を見学したりし、テーマに応じた考古資料の学習を支援。
10 バックヤードツアー-体験学習	4月28日	博物館・センター-講堂	松阪市立第一小学校 5・6年生 108名+4名	博物館展示見学の後、発掘資料の整理作業体験や収蔵庫を見学したりし、テーマに応じた考古資料の学習を支援。
11 バックヤードツアー-体験学習	4月28日	博物館・センター-講堂	津市立西が丘小学校 6年生 142名+5名	博物館展示見学の後、発掘資料の整理作業体験や収蔵庫を見学したりし、テーマに応じた考古資料の学習を支援。
12 バックヤードツアー-体験学習	5月7日	博物館・センター-講堂	松阪市立松土小学校 5・6年生 152名+6名	博物館展示見学の後、発掘資料の整理作業体験や収蔵庫を見学したりし、テーマに応じた考古資料の学習を支援。
13 バックヤードツアー-体験学習	5月12日	博物館・センター-講堂	明市立鷹野小学校 6年生 53名+4名	博物館展示見学の後、発掘資料の整理作業体験や収蔵庫を見学したりし、テーマに応じた考古資料の学習を支援。
14 バックヤードツアー-体験学習	5月14日	博物館・センター-講堂	御蔵町立御小 6年生 80名+3名	博物館展示見学の後、発掘資料の整理作業体験や収蔵庫を見学したりし、テーマに応じた考古資料の学習を支援。
15 バックヤードツアー-体験学習	5月18日	博物館・センター-講堂	松阪市立西黒部小学校 5・6年生 47名+4名	博物館展示見学の後、発掘資料の整理作業体験や収蔵庫を見学したりし、テーマに応じた考古資料の学習を支援。
16 バックヤードツアー-体験学習	6月10日	博物館・センター-講堂	玉城町立有田小学校 6年生 17名+1名	博物館展示見学の後、発掘資料の整理作業体験や収蔵庫を見学したりし、テーマに応じた考古資料の学習を支援。
17 バックヤードツアー-体験学習	6月11日	博物館・センター-講堂	四日市市立大谷台小学校 6年生 92名+4名	テーマ学習。先の出前講座を生かして、班別編成による出土遺物についてより詳細な学習を支援。
18 バックヤードツアー-体験学習	7月30日	センター-整理室ほか	津市中央公民館親子教室 40名	公民館活動の一環で行われた歴史学習の中で、出土遺物の整理や収蔵等、展示室の内側の作業見学。
19 バックヤードツアー-体験学習	9月10日	センター-整理室ほか	明和町立明和中学校 2年生 6名	明和中学校が毎年実施している明和いきいき体験の参加者を対象に、遺物整理作業の実際を体験してもらう。
20 バックヤードツアー-体験学習	9月28日	センター-整理室ほか	勢和村立勢和中学校 3年生 2名+1名	村内での社会体験を生かした生徒が村内に出て社会経験をさらにあたり、希望者による機会を提供・支援した。
21 バックヤードツアー-体験学習	10月7日	センター-整理室ほか	越前町立中川小学校 6年生 69名+3名	博物館展示見学の後、発掘資料の整理作業体験や収蔵庫を見学したりし、テーマに応じた考古資料の学習を支援。
22 バックヤードツアー-体験学習	10月7日	センター-整理室ほか	一志町立大中小学校 5・6年生 33名+4名	博物館展示見学の後、発掘資料の整理作業体験や収蔵庫を見学したりし、テーマに応じた考古資料の学習を支援。
23 バックヤードツアー-体験学習	10月8日	センター-整理室ほか	セントヨゼ女子中学校 2年生 149名+6名	博物館展示見学の後、発掘資料の整理作業体験や収蔵庫を見学したりし、テーマに応じた考古資料の学習を支援。
24 バックヤードツアー-体験学習	10月14日	センター-整理室ほか	久居市立誠之小学校 6年生 74名	博物館展示見学の後、発掘資料の整理作業体験や収蔵庫を見学したりし、テーマに応じた考古資料の学習を支援。

25	バックヤードツアー体験学習	10月15日	センター整理室ほか	久居市立戸木小学校 27名+2名	6年	博物館展示見学の後、発掘資料の整理作業を体験や収蔵庫を見学したりし、テーマに応じた考古資料の学習を支援。
26	バックヤードツアー体験学習	10月19日	センター整理室ほか	伊勢市立大湫小学校 36名+2名	6年	博物館展示見学の後、発掘資料の整理作業体験や収蔵庫を見学したりし、テーマに応じた考古資料の学習を支援。
27	バックヤードツアー体験学習	10月19日	センター整理室ほか	伊勢市立四郷小学校 39名+3名	6年	博物館展示見学の後、発掘資料の整理作業体験や収蔵庫を見学したりし、テーマに応じた考古資料の学習を支援。
28	バックヤードツアー体験学習	10月19日	センター整理室ほか	一宮市立葉栗小学校 113名+7名	6年	博物館展示見学の後、発掘資料の整理作業体験や収蔵庫を見学したりし、テーマに応じた考古資料の学習を支援。
29	バックヤードツアー体験学習	10月21日	センター整理室ほか	明和町立下飯小小学校 28名+2名	3年	博物館展示見学の後、発掘資料の整理作業体験や収蔵庫を見学したりし、テーマに応じた考古資料の学習を支援。
30	バックヤードツアー体験学習	10月21日	センター整理室ほか	明和町立上飯小小学校 36名+2名	3年	博物館展示見学の後、発掘資料の整理作業体験や収蔵庫を見学したりし、テーマに応じた考古資料の学習を支援。
31	バックヤードツアー体験学習	10月22日	センター整理室ほか	久居市立立成小学校 82名+4名	6年	博物館展示見学の後、発掘資料の整理作業体験や収蔵庫を見学したりし、テーマに応じた考古資料の学習を支援。
32	バックヤードツアー体験学習	10月22日	センター整理室ほか	甲賀市立甲賀小学校 23名+1名	6年	博物館展示見学の後、発掘資料の整理作業体験や収蔵庫を見学したりし、テーマに応じた考古資料の学習を支援。
33	バックヤードツアー体験学習	10月26日	センター整理室ほか	皇学館高校 176名		博物館展示見学の後、発掘資料の整理作業体験や収蔵庫を見学したりし、テーマに応じた考古資料の学習を支援。
34	バックヤードツアー体験学習	3月10日	センター整理室ほか	皇学館高校 176名		博物館展示見学の後、発掘資料の整理作業体験や収蔵庫を見学したりし、テーマに応じた考古資料の学習を支援。
1	発掘体験教室	8月3日	センター整理室ほか	小俣町立小俣小学校 6名+1名	5年	総合学習の一環で「遺物グループ」が縄文遺跡の体験発掘を行なう予定だったが、雨天のため室内での遺物整理学習に変更した。
2	発掘体験教室	8月26日	明和町織糸遺跡	県立宇治山田高校 1名+1名	1年	先の出前講座を受講した生徒の中で、特に夏学期間中の発掘調査体験希望者に織糸遺跡の体験発掘を支援した。
3	発掘体験教室	8月27日	明和町織糸遺跡	県立宇治山田高校 2名+1名	1年	先の出前講座を受講した生徒の中で、特に夏学期間中の発掘調査体験希望者に織糸遺跡の体験発掘を支援した。
4	遺跡見学探検	7月12日	玉城町 岩出遺跡群 清水地区	玉城町文化委員 10名		町の文化委員による地元遺跡の見学。
5	遺跡見学探検	7月15～16日	玉城町 岩出遺跡群 清水地区	県立伊勢高校 10名		総合学習の一環で、「職人インタビュー」のために岩出遺跡群の発掘調査現場で担当者が対応。
6	遺跡見学探検	8月5日	松阪市 長徳堀内遺跡	大学生 3名+1名		松阪市文化財センターが実施する博物館実習の中で、実習生に市内長徳堀内遺跡の現地実習を支援。
7	遺跡見学探検	8月18日	明和町織糸遺跡	伊勢市中学校社会部会教員 10名		伊勢市教科研究会中学校社会部会教員による発掘調査全般にわたる入門編を現地で支援。
8	遺跡見学探検	10月6日	上野市 三石代遺跡	名張市の中学校教員で構成する郷土歴史部会が現地見学をして教材研究をするを支援。		名張市の中学校教員で構成する郷土歴史部会が三石代遺跡での現地見学をして教材研究をするを支援。
9	遺跡見学探検	10月13日	明和町富宮跡	小俣町立小俣小学校 134名+6名	6年	社会見学の 일환として、富宮跡の発掘調査現場等を見学、郷土の歴史文化についての理解を深めてもらう。
10	遺跡見学探検	10月16日	明和町織糸遺跡	福井県職員ほか 9名		町府県文化財担当者による現地視察。受託事業による発掘調査の現状について具体例を提供した。
11	遺跡見学探検	11月17日	松阪市 村竹コノ遺跡	県立相可高校 40名		土木建築・測量等を専攻する学生が遺跡での実地見学を行い、土木工事に伴う埋蔵文化財調査の実情を認識し、工事現場の実際を理解してもらうための支援事業。
12	遺跡見学探検	11月18日	松阪市 村竹コノ遺跡	県立久居農林高校 30名		土木建築・測量等を専攻する学生が遺跡での実地見学を行い、土木工事に伴う埋蔵文化財調査の実情を認識し、工事現場の実際を理解してもらうための支援事業。
13	遺跡見学探検	11月19日	松阪市 村竹コノ遺跡	県立津工業高校 40名		土木建築・測量等を専攻する学生が遺跡での実地見学を行い、土木工事に伴う埋蔵文化財調査の実情を認識し、工事現場の実際を理解してもらうための支援事業。
14	遺跡見学探検	11月19日	松阪市 村竹コノ遺跡	三重県埋蔵文化財担当者 60名		県内市町村の埋蔵文化財担当職員による現地研修会。専門的な立場から遺跡の評価等について意見交換。

(3) 生涯学習支援事業（現地説明会、資料閲覧、貸出・刊行物・ホームページなど）

① 現地説明会等

遠い祖先たちの生活の跡を目の当たりにでき、あるいはその現場に立つて歴史に想像を馳せることの出る数少ない場所が遺跡の発掘調査現場である。そこで行う一回限りの説明会は遺跡を通してそれぞれの地域・文化に触れるまたとない機会である。今年度は下記の8遺跡で現地説明会を実施し、計541名に及ぶ参加者があった。

種別	開催日	遺跡名	参加人数	実施目的	アンケート回収枚数	
1	現地説明会	6月27日	鳥羽市 おぼたけ遺跡	一般 40名	緊急発掘調査の現地調査終了後に、一般人を対象に調査成果を現地で公開・解説し、認識を深めてもらう。	実施せず
2	地元現地説明会	7月11日	志摩郡磯部町 浄土正世墓地	一般 40名	地元住民を対象にした説明会を開催して、当該地区の歴史民俗の一端を披露し、関心を喚んだ。	23
3	現地説明会	9月12日	松阪市 織糸遺跡	一般 180名	緊急発掘調査の現地調査終了後に、一般人を対象に調査成果を現地で公開・解説し、認識を深めてもらう。	45
4	現地説明会	10月9日	上野市 三石代遺跡	一般 (6)名	台風接近のため中止したが、熱心なファン6名現地を訪れたため、担当者が対応した。	6
5	現地説明会	11月21日	松阪市 下草原遺跡	一般 80名	緊急発掘調査の現地調査終了後に、一般人を対象に調査成果を現地で公開・解説し、認識を深めてもらう。	実施せず
6	現地説明会	11月23日	松阪市 村竹コノ遺跡	一般 100名	緊急発掘調査の現地調査途中に、一般人を対象に調査成果を現地で公開・解説し、認識を深めてもらう。	47
7	地元現地説明会	1月15日	伊賀市 岡田内遺跡	一般 25名	緊急発掘調査の現地調査途中に、一般人を対象に調査成果を現地で公開・解説し、認識を深めてもらう。	実施せず
8	現地説明会	2月6日	松阪市 西肥留遺跡	一般 70名	緊急発掘調査の現地調査途中に、一般人を対象に調査成果を現地で公開・解説し、認識を深めてもらう。	35

○ 現地説明会アンケート結果

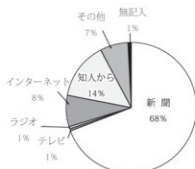
平成16年度中、2回の地元向けを含めて計8回の現地説明会を開催した。現地説明会は、われわれが県民と接し、その反応を見ることのできる絶好の機会である。県民が埋蔵文化財センターに対して何を求めているのかを知り、今後の業務に活かしていく目的から、参加者の方に対し5遺跡においてアンケートを実施した。回収率は約半分である。その結果を以下に報告する。

〔アンケート内容〕

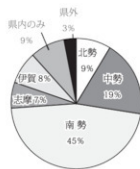
- 1 この現地説明会を何でお知りになりましたか？
- 2 どちらから参加されましたか？
- 3 あなたの年齢は？ 性別は？
- 4 これまでの遺跡現地説明会に参加されたことがありますか？
- 5 今回の現地説明会に参加された感想はいかがですか？
- 6 あなたは埋蔵文化財（遺跡など）の保護や活用に関心がありますか？
- 7 三重県埋蔵文化財センターの活動について、今後どのようなことをお望みですか？（複数回答可）（内容は別添）
- 8 現地説明会について、ご意見・ご要望があればお書き下さい。

〔集計結果〕

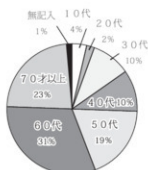
1 情報源



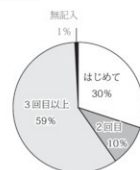
2 地域別



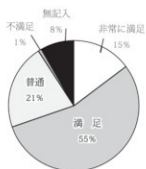
3 年代別



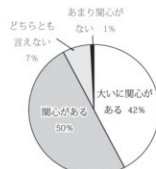
4 参加回数



5 満足度



6 関心度



## 7 三重県埋蔵文化財センターの活動について、今後どのようなことをお望みですか？

質問内容	回答数(複数回答あり)
a 説明会の機会を増やしてほしい	93
b 展示会を開催してほしい	65
c 遺跡を活用した公園や施設を造ってほしい	38
d 考古・歴史博物館を造ってほしい	49
e 実際の発掘体験がしたい	29
f 土器などに直に触れてみたい	25
無記入	3

## 8 現地説明会について、ご意見・ご要望があればお書き下さい。

ご意見・要望	複数回答の場合、その数
・遺跡附近に墓碑(浄土遺跡碑等)を立ててほしい。	
・暑い中、ご苦勞様でした。	
・椅子やお茶を用意しておいてほしい。	
・慌てずゆっくりとお話を聞きたかった。	
・他県では説明会に出席した人たちの名簿を作成している。参加者の数がかかめ、何かの参考になるのではないかな。	3
・駐車場を広くしてほしい。	
・今後も説明会を続けてほしい。	
・Facebookに登録するか、参加者名簿を作成するなど、開催の都度連絡を頂けると有り難い。	3
・貴重な遺跡なので、充分記録を残してほしい。	
・説明は特に詳しくしてほしい。その時代の人々の生活様式や人口、環境などお話し頂けると、もっと興味がわくのではないかなと思います。	4
・足場をもっと気を使ってほしい。	
・壁穴住居等の表示などがなされていない。	
・説明会があるということをもっと広く知らせてほしい。	
・案内の看板が小さい。場所がわかりにくかった。案内文は所在地を明確にして欲しい。	2
・遺物模型が参考となった。	
・以前(数年前)に比べると、ソフトな対応を心掛けておられ、感心しました。	
・今回は両かけマイクではなく、ワイヤレスで説明され、聞く側にとって大変便利な説明方法であったと思います。	
・他地域との交流(関係)についても説明してほしい。	
・展示小屋が狭いので、遺物の説明を聞きやすく(見やすく)して欲しい。	
・近くの中勢バイパス遺跡に行って時間をロスしたので、残念だった。(西肥留遺跡)	
・報告書の販売をしてほしい。	

## 9 その他、ご意見・ご要望があればお書きください。

ご意見・ご要望	複数回答の場合、その数
・説明会に参加してよかった。	
・古代のロマンを感じる事が出来ました。	
・建物も作ってみてはどうでしょうか。出来れば現地の掘立て小屋の骨格でも組み立ててほしい。	2
・現地のスケジュールがわかる方法を知らせてほしい。様々な情報をどんどん知らせて下さい。	2
・早くお墓の中を掘って見せてください。(織糸遺跡)	
・全国紙の地方版に県内の遺跡発掘の記事が出ていない社(朝日)が有る。新聞社にも関心が低い。	
・極考研、奈文研のように常にいろいろな講演会をしてほしい。	
・めずらしいものが見られて楽しかった。	
・古い埋文カードは見直しが必要。	
・平日になるとありますが、実際の作業の様子も拝見できないでしょうか。発掘の体験が無理なら、穴を手作業で掘っている現場を見学してみたい。	2
・年一回、主な遺跡の説明会を別途してほしい。	
・資料がカラーで見やすくてよかった。(西肥留遺跡)	
・調査等の情報についてのPR	

② 発掘資料閲覧・物品利用申請応諾実績

個人・団体を問わず、研究もしくは展示借用に際しての事前調査等のための収蔵資料の実見、および物品利用申請に対して許可した件は下記のとおりである。

資料名	申請者	目的	期間	許可日
太白遺跡ほか出土石器 173点	個人	個人研究	4/26	4/20
実体顕微鏡・顕微鏡写真撮影装置一式	個人	資料作成のため	4/24	4/23
伊坂城跡出土遺物 78点	個人	個人研究	4/26	4/26
「門脇北古墳発掘調査報告書」	個人	個人研究(卒論)	4/27	4/27
菊見井尻遺跡出土土偶 2点	デイリー社デイリータイムズ編集部	記事として写真を掲載するため	4/30	4/30
豊田貫貫遺跡出土土器 1164点	古代の土器研究会	研究会見学資料とするため	5/29	4/30
河田宮ノ北遺跡ほか出土遺物 180点	鈴鹿市考古博物館	企画展にかかる資料調査	5/26	5/21
大原塚遺跡出土遺物 800点	関西縄文文化研究会	研究会見学資料とするため	6/19	6/7
天王山遺跡ほか出土土器 100点	斎宮歴史博物館	共同研究に伴う資料調査	6/20	6/10
六太A遺跡出土土器 4点	財団法人千葉県文化財センター	県内事例との類例調査	7/8	6/21
ヒタキ庵寺ほか出土土瓦 21点	個人	個人研究	8/5	7/23
川原井瓦窯出土土瓦 5点	個人	個人研究	8/9	7/23
鏡形(牧)中世墓出土遺物 11点	個人	個人研究	8/3	8/3
瑞ノ木遺跡出土石器 243点	個人	個人研究	8/4	8/24
宮山遺跡出土石器 一式	個人	個人研究	8/31	8/9
「七和2号突発掘調査報告書」ほか	個人	個人研究	8/10	8/10
安濃津遺跡群出土遺物 31点	株式会社ZTV	「黒虫21」の映像撮影のため	8/19	8/19
切山瓦窯・野田浦遺跡出土遺物 計10点	鈴鹿市考古博物館	特別展にかかる資料調査	9/7	8/31
駒所遺跡出土遺物 27点	中勢用水土地改良区	研修等で放映するビデオを作成するため	9/7	9/7
太白遺跡出土土偶 18点	個人	個人研究(修論)	10/8	9/22
三重県内遺跡発掘調査報告書 233点	三重大学考古学研究室	基礎資料収集のため	9/27～ 10/31	9/26
六太A遺跡ほか出土土製品 12点	滋賀県立安土城考古博物館	特別展にかかる資料調査	12/10	10/25
上寺遺跡出土鉄製紡錘車 1点	個人	個人研究	11/26	11/5
「研究紀要」第9号	個人	個人研究		11/10
下之庄東方遺跡高畑地区出土石製舌 1点	四日市市教育委員会	報告書作成のため	11/12	11/11
東山古墳・上樋ノ木遺跡出土遺物 計28点	個人	個人研究	11/15	11/11
額田遺跡ほか出土遺物 計59点	個人	個人研究(修論)	12/1	11/11
山形遺跡出土縄文土器 28点	個人	個人研究(卒論)	12/2	11/17
ヒタキ庵寺ほか出土土瓦 計5点	鈴鹿市考古博物館	企画展にかかる資料調査	11/30	11/30
山形遺跡出土縄文土器 30点	岡山県瀬崎町教育委員会	報告書作成のため	12/3	12/2
金剛坂遺跡(第4・5次)出土弥生土器 計324点	個人	個人研究(修論)	12/3	12/2
奈良県内古墳園地調査報告書	松阪市文化財センター	報告書作成のため		12/3
菊見井尻遺跡出土遺物 20点	愛媛県立歴史文化博物館	展覧会にかかる資料調査	1/11	12/14
県内発行図書CD-ROM 32冊分	姫野町教育委員会	報告書作成のため	12/22	12/22
宮山遺跡出土石器 12点	大阪府立弥生文化博物館	特別展にかかる資料調査	1/7	12/27
北野遺跡出土遺物 7点	個人	個人研究		1/26
「研究紀要」第8・9号	個人	個人研究	12/22	12/22
井田川茶臼山古墳出土遺物 58点	名古屋市立博物館	特別展にかかる資料調査	2/9	1/26
六太A遺跡出土遺物 14点	個人	個人研究	2/25	2/14
阿形遺跡ほか出土遺物 計303点	個人	個人研究	2/17	2/14
近代古墳ほか出土金属製品 19点	個人	個人研究	2/18	2/18
伊坂城跡ほか出土遺物 計119点	四日市市教育委員会	報告書作成のため	2/25	2/24
井田川茶臼山古墳出土金属製品X線透過写真	亀山市教育委員会	亀山市史編さん事業に伴う資料調査		2/28
菊見井尻遺跡出土遺物 260点	個人	個人研究	3/19	3/15
大森遺跡ほか出土遺物 約200点	個人	個人研究	3/18	3/18

③ 発掘資料貸出・写真撮影及び掲載申請応諾実績

資料名	申請者	目的	期間	許可日
川島遺跡ほか出土遺物 計19点	松阪市教育委員会	企画展での展示と写真パネル展示	4/20～9/14	4/8
六太A遺跡出土韓式系土器カラー写真	個人	出版物に掲載	4/28～7/14	4/12
菊見井尻遺跡出土土偶 2点	デイリー社デイリータイムズ編集部	デイリータイムズ6月号「日本国家発祥の歴史」に写真掲載	4/30	4/30
貫頭衣3着、岩出遺跡群ほか出土土器 計9点	松阪市立殿町中学校	2年生社会科授業教材に使用	4/30～5/14	4/30
六太A遺跡ほか出土遺物写真	株式会社小学館	『考古資料大観 第10巻 弥生・古墳時代 遺跡・遺構』に掲載	5/10～ 11/30	5/10



西出遺跡ほか出土縄文土器、管絃崎遺跡ほか国 道類、「北野遺跡第5次発掘調査概報」ほか刊 行物	明和町教育委員会	『明和町史資料編 第一巻 自然・考古 編』への掲載		5/13
内屋敷遺跡ほか写真 計11点	上野市	『上野市史 考古編』への掲載	4/30	5/14
六人A遺跡出土遺物 26点	国土交通省中部地方整備局三重 河川国道事務所	国土交通省事業の広報のための展示	5/28～9/30	5/28
河田宮ノ北遺跡ほか写真 計24点	鈴鹿市	企画展の展示パネルと関連印刷物への掲 載	6/1～7/16	6/1
西ヶ広遺跡ほか写真 計5点	日本道路公団中部支社四日市工 事事務所	事務所10年誌への掲載	6/3～10/31	6/1
六人A遺跡出土琴 5点	株式会社小学館	『考古資料大観 第10巻 弥生・古墳 時代 遺跡・遺構』に写真掲載	6/15	6/7
河田宮ノ北遺跡ほか写真 24点、同出土遺物 164点	鈴鹿市	企画展での展示と関連印刷物への掲載	7/12～9/10	6/7
城之越遺跡ほか遺構写真 計9点	上野市	『上野市史 考古編』への掲載	6/7	6/7
井田川茶臼山古墳ほか出土縄 計3点	個人	刊行物に写真掲載		6/8
管絃崎古墳群ほか出土遺物 計21点	三重県立宇治山田高等学校	2・3年生日本史特別授業の教材として 使用	6/17～6/18	6/17
高賀遺跡出土遺物写真 1点、馬場西遺跡報告 書図版 4点	上野市	『上野市史 考古編』への掲載		6/25
磐城山遺跡ほか遺構写真 計4点	鈴鹿市	企画展の展示パネルと関連印刷物への掲 載	6/29～7/16	6/29
天王山古墳遺跡写真 2点、「天王山遺跡 天王 山古墳群」現地説明会資料	株式会社ジャパン通信情報センタ ー	『文化財発掘出土情報』2004年8月号 への掲載		7/7
落合古墳ほか出土遺物 計41点	伊勢市教育委員会	特別企画での展示	7/22～9/24	7/20
おぼたけ遺跡写真 2点	鳥羽市	『広報とぼ』8月1日号に掲載	7/13～8/31	7/20
辻子遺跡遺構写真 1点	朝日町	朝日町50周年記念誌への掲載		7/23
高塚6号墳ほか遺構写真 計4点	上野市	『上野市史 考古編』への掲載		7/28
六人A遺跡出土琴ほか写真 計2点	㈱邦楽ジャーナル	『邦楽ジャーナル vol. 21』に掲載	7/30	7/30
千里ヶ丘遺跡出土和銅圓筒 1点	河芸町役場総務企画部経営企画 課	河芸町制施行50周年記念誌に掲載	8/10	8/10
菊見井坑遺跡出土土偶写真 1点	下関市立考古博物館	企画展の展示パネルと関連印刷物への写 真掲載	8/11～ 10/20	8/11
井田川茶臼山古墳出土銅象嵌板環頭大刀写真 1点	特定非営利活動法人工藝文化研 究所	権原考古学研究所附属博物館館書第1 号「ものづくりと日本文化」に掲載		8/16
菊見井坑遺跡ほか写真 計5点	近畿文化会	『近畿文化』第658号に掲載	8/16～9/15	8/25
六人A遺跡井泉1写真 1点	春日井市教育委員会	第12回春日井シンポジウム資料集への 掲載		8/25
六人A遺跡ほか遺物写真 計12点	静岡市教育委員会	特別展の展示パネルと関連印刷物への掲 載	8/31～9/30	8/31
雲出鳥貫遺跡ほか遺構写真 計5点	津市教育委員会	『埋文センターニュース』第20号に掲 載		9/14
城之越遺跡出土土器写真 1点	株式会社小学館	『考古資料大観 第10巻 弥生・古墳 時代 遺跡・遺構』に写真掲載		9/14
六人A遺跡ほか出土遺物 計6点	静岡市教育委員会	特別展にて展示	9/16～12/9	9/15
雲出鳥貫遺跡出土遺物 9点	大谷女子大学博物館	特別展にて展示	10/5～ 12/20	9/22
天白遺跡出土土偶写真 18点	個人	修論に掲載		9/30
蔵田遺跡噴砂写真 1点	津市教育委員会	『市政ガイド』における埋蔵文化財保護 普及啓蒙番組作成のため		9/30
切山瓦窯ほか出土遺物 計10点	鈴鹿市	特別展での展示と関連印刷物への掲載	10/12～ 12/17	10/4
駒所遺跡出土朱塗り壺彫カウ写真 1点	株式会社光文社	『日本史から消えたアクセサリー』（仮） に掲載	10/10～ 10/25	10/7
長野氏城跡遺跡ほか写真 3点	三重県教育委員会	近畿ブロック知事府県広域政策課題（ 文化）研究会作成のホームページに掲載		10/8
中ノ庄遺跡出土馬形埴輪 1点	三重町役場企画振興課	三雲町合併記念誌への写真掲載	10/26	10/25
城之越遺跡ほか遺構写真 計8点	上野市	『上野市史 考古編』への掲載		10/25
大原屋遺跡（第2・3次調査）出土石器 計76 点	個人	刊行物への掲載		11/1
下之庄東方遺跡高畑地区出土石製舌 1点	四日市市教育委員会文化課	『久留信遺跡』（仮称）への掲載		11/11
志知南浦遺跡（第1・2次調査）遺構・出土遺 物写真 計60点	朝日町歴史博物館	平成16年度文化教養講座「身近な遺跡 案内」第3回「南浦遺跡」スライド上 映に使用	12/11	11/17
城之越遺跡遺構・出土遺物写真 計24点	株式会社セブプロ	『森語一が語る日本の古代』DVDに掲 載		11/22
天白遺跡ほか遺構・出土遺物写真 計7点	東京法令出版株式会社	『三重のあゆみ』（県内中学校歴史資料集） への写真掲載		12/2

城之越遺跡遺構写真 1点	株式会社学生社	奈良県立橿原考古学研究所附属博物館編「水と祭祀の考古学」への掲載	12/15～1/11	12/13
菊見井尻遺跡出土土偶写真 1点	株式会社学習研究社	『古代日本「女王国」の謎』に掲載	12/21～1/12	12/21
北門遺跡(第3次調査)ほか出土遺物 計134点	可児郷土歴史館	特別展での展示	1/17～3/25	12/15
菊見井尻遺跡ほか出土遺物 計75点	松阪市教育委員会	特別展での展示	2/7～3/17	12/22
北門遺跡(第3次調査)ほか遺構・出土遺物写真 計28点	可児郷土歴史館	特別展の展示パネルと関連印刷物等への掲載		12/22
伊賀国府跡(第4次調査)出土唾壺 1点	伊賀市	『上野市史 考古編』への写真掲載		12/22
『青谷上寺地遺跡1～7』計10冊	四日市市教育委員会	報告書作成の参考とするため	1/11～1/18	12/27
ヒタキ庵寺ほか出土瓦 計5点	鈴鹿市	企画展での展示	1/14～3/11	1/5
六太A遺跡出土木製品 8点 同出土木製品写真 15点	滋賀県立安土城考古博物館	特別展での展示と展示パネル、関連印刷物等への掲載	4/4～6/24	1/17
富山遺跡出土石器 14点	大阪府立弥生文化博物館	特別展での展示	4/12～7/10	1/25
富山遺跡遺構・出土遺物写真 計2点	大阪府立弥生文化博物館	特別展での刊行物に掲載	2/1～3/25	1/25
井田川白山古墳出土鉄製品写真 10点	徳島市教育委員会	特別展の展示パネルと関連印刷物への掲載	1/25～2/25	1/25
城之越遺跡遺構写真 1点	京都市文化市民局文化財部文化財保護課	『京都市文化財ボックス』への掲載	2/3～3/31	2/3
安濃津遺跡群ほか出土土器 計28点	中野市研究会三重大会実行委員会	例会で検討資料として使用	2/10～2/14	2/7
伊賀国府跡ほか遺構・出土遺物写真 計7点	鈴鹿市	特別展等図録をホームページに掲載		2/7
菊見井尻遺跡出土遺物等写真 3点	愛媛県立歴史文化博物館	企画展の関連印刷物等に掲載	2/22～3/21	2/10
井田川茶白山古墳出土鏡写真 1点、『井田川白山古墳』CD-ROM 1点	宮崎日日新聞社	取材の基礎資料として利用		2/14
打田遺跡ほか遺構写真 計20点	個人	講演資料として使用	2/15～2/28	2/15
大山田古墳群A群地形測量図 1点	津市教育委員会	『理文センターニュース』第21号への掲載		3/15
伊波遺跡ほか遺構・出土遺物写真 計33点	四日市市教育委員会	ホームページに掲載		3/24
『福東遺跡現地説明会資料』、同遺跡遺構・出土遺物写真 計4枚	株式会社ジャパン通信情報センター「文化財発掘出土情報」編集部	『文化財発掘出土情報』2005年5月号「各地の動向」への掲載		3/25

④ 物品及び考古資料の長期貸出・展示件数等(貸出期間平成16年4月1日～17年3月31日)

番号	資料名	申請者	目的
1	展示ケース 14点	青山町教育委員会	普及啓発事業にかかる町内資料の展示に使用
2	展示ケース 2点	津市教育委員会	文化財保護の啓発にかかる展示公開に使用
3	展示ケース 2点	美杉村教育委員会	遠視展等の展示公開普及啓発事業に使用
1	山王遺跡出土遺物 一括	桑名市教育委員会	桑名市民へ資料公開
2	落川原遺跡出土土帯 1点	四日市市立博物館	同博物館常設展示室で展示公開
3	丹生川上城跡出土白磁小壺ほか 23点	朝日町歴史博物館	同博物館常設展示室で展示公開
4	起A遺跡出土弥生土器壺・炭化米 一式	鈴鹿市教育委員会	鈴鹿市稲生民俗資料館で展示公開
5	双ツ塚遺跡遺構写真ほか 16点	鈴鹿市教育委員会	『鈴鹿の遺跡百選』Web公開
6	東庄内A遺跡出土縄文土器ほか 43点	鈴鹿市考古博物館	同博物館常設展示で展示公開
7	野元坂館址・勢武谷遺跡の遺物・写真・図面等保存記録一式	亀山市教育委員会	発掘調査報告書作成に使用
8	大鼻遺跡出土品4点、城山古墳出土遺物 49箱ほか	亀山市歴史博物館	同館の展示資料として活用
9	大石遺跡・赤坂遺跡出土土器 8点	芸濃町教育委員会	同町総合文化センターで展示公開
10	安濃津柳山遺跡全景写真	津市教育委員会	同市ホームページ上で公開
11	富山東遺跡全景写真ほかパネル 62点	津市教育委員会	同市埋蔵文化財センターの展示解説用
12	宮出遺跡出土信楽焼壺、古銭 155点ほか	地方職員共済組合三重支部	橿原保健所神楽館内で常設展示公開
13	多気遺跡群出土瓦・黒書土器等 20点	美杉村教育委員会	美杉村ふるさと資料館で展示公開
14	鴻ノ木遺跡出土縄文土器深鉢ほか 5点	松阪市教育委員会	同市文化財センターで常設展示公開
15	井尻遺跡・若宮遺跡出土土器 27点	勢和村ふるさと交流館	勢和村立資料館で常設展示公開
16	寺垣内遺跡出土弥生土器 5点	明和町教育委員会	同町ふるさと会館で常設展示公開
17	北野遺跡出土椀・皿・甕など 4点	富宮歴史博物館	同博物館常設展示室で展示公開
18	城之越遺跡出土小型丸底壺ほか 15点	上野市教育委員会	城之越遺跡 城之越学館で展示公開

### 3 情報の公開

#### (1) 出版物の刊行

今年度は、「発掘調査報告書」と「発掘調査概報」を併せて13件のほかに『平成15年度三重県埋蔵文化財年報』や『三重県埋蔵文化財センター研究紀要14』、『第24回三重県埋蔵文化財展 石山古墳』図録、『三重県埋蔵文化センター通信みえ』No.38・No.39、受託事業関係の調査ニュース等、計5件の印刷物を刊行し、県内外の関係機関等へ配布した。それらを以下に掲げる。

	報告書名	報告対象遺跡の所在地	沖-A番号	総頁数*	C/D	刊行年月
1	『新道遺跡発掘調査報告 第2分冊』	松阪市	No.115-20	83P.	19.5MB	2005年3月
2	『旧分東遺跡(第1・3次)・沖ノ坂遺跡発掘調査報告』	鈴鹿市	No.255	109P.	116MB	2005年3月
3	『里前遺跡(第2次)発掘調査報告』	津市	No.254	113P.	59.1MB	2005年3月
4	『旧分北遺跡(第3次)発掘調査報告』	鈴鹿市	No.256	40P.	28.2MB	2005年3月
5	『稲田 第6次調査』	松阪市	No.261	103P.	57.8MB	2005年3月
6	『城ノ広古墳群・城ノ広遺跡(第2次)発掘調査報告』	朝日町	No.257	57P.	34.8MB	2005年3月
7	『天花寺丘陵内遺跡群発掘調査報告VI』	松阪市	No.260	137P.	74.4MB	2005年3月
8	『天花寺丘陵内遺跡群発掘調査報告Ⅲ-1』	松阪市	No.180-02	115P.	12.2MB	2005年3月
9	『関ノ田遺跡・辻子遺跡(第4次)発掘調査報告』	四日市市	No.258	58P.	35.8MB	2005年3月
10	『天花寺丘陵内遺跡群発掘調査報告VI』	松阪市	No.259	315P.	29.4MB	2005年3月
11	『式ノ坪遺跡発掘調査報告』	津市	No.115-14	102P.	78.8MB	2005年3月
12	『菟上遺跡発掘調査報告-本文編-』	四日市市	No.227-07	540P.	514MB	2005年3月
13	『菟上遺跡発掘調査報告-遺構一覧表・遺物観察表・写真図版編-』	四日市市	No.227-07	273P.		2005年3月
14	『中勢道路発掘調査概報16』	松阪市		31P.*2	30.5MB	2004年10月
15	『中勢道路ニュース』No.43	松阪市		4P.		2005年3月
16	『研究紀要第14号一創立15周年記念論文集-』			138P.	37.5MB	2005年3月
17	『センター通信』		38号・39号	ともに4P.		2004年7月・2005年2月
18	第24回三重県埋蔵文化財展『石山古墳』			97P.*2	408MB	2005年3月
19	『平成15年度三重県埋蔵文化財年報』			63P.	3.55MB	2004年12月

\*1 本文・図版の他、表紙・序・例言・目次・抄録・裏付を合わせたページ数である。

\*2 裏表紙にも写真図版が印刷されているため、裏表紙もページ数に入れている。

#### (2) ホームページの開設

当センターの事業内容や、発掘調査・現地説明会、収蔵品の情報等を、インターネットを介して多くの人々に公開し、埋蔵文化財に対する理解と文化財保護意識を高めることを目的としてホームページを開設し、平成13年4月1日から運用を開始している。

平成16年度中の利用アクセスは12,026件で、運用開始以来平成17年3月31日現在までの利用アクセス件数は累計で27,485件に達している。今後とも、社会変化や利用状況を勘案しながらより充実した内容を構築していきたい。

〔アクセス件数集計表〕

年度	年間のアクセス件数	アクセス件数の累計
平成13年度	2,647件	2,647件
平成14年度	4,800件	7,447件
平成15年度	8,012件	15,459件
平成16年度	12,026件	27,485件

#### 〔ホームページの主な内容〕

- センターの紹介（役割・仕事、内容・組織等、案内地図、施設紹介等）
- 発掘・遺物情報
- 利用方法と手続き（資料の閲覧申請、資料の借用・掲載許可申請、遺跡・施設見学申請）
- 教員向け授業支援の内容紹介
- 遺跡GIS
- 収蔵品ギャラリー
- センター刊行物案内

◆ アドレス <http://www.pref.mie.jp/MAIBUN/HP/>

### Ⅲ 埋蔵文化財保護体制の充実

#### 1 各種会議・研修会

##### (1) 三重県埋蔵文化財専門担当者会議

当センターを含めた県内埋蔵文化財保護行政関係部局を対象に、専門技術や関係諸事務に関する意見交換・意思疎通を図る場として開催した。

平成16年度は、開催テーマを設け、合計2回の開催であった。第1回は、遺跡保存問題が注目を集めた久留信遺跡を素材とした。県内外の有識者・関係者の報告を基に、埋蔵文化財保護行政に関する問題や学術的価値に関する討議を行った。第2回は、近年大きく変化している県と市町村の役割分担に関する問題を、市町村合併によって生じる様々な変化や課題に関する事例報告を素材として検討を行った。文化財保護行政のあり方が多様化するなかで、当会議の持つ意味はさらに増すものと考えられる。

	開催日	場所	内容
第1回	平成16年6月2日 テーマ「四日市市久留信遺跡の成果と課題」	久留信遺跡（四日市市） 朝日町歴史博物館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・久留信遺跡見学</li> <li>・「地方官衙とその構造」山中敏史氏（奈良文化財研究所）</li> <li>・「久留信遺跡の調査成果」赤松一秀氏（四日市市教育委員会）</li> <li>・「美濃国式儀部衙（弥勒寺東遺跡）の調査から」田中弘志氏（岐阜県関市教育委員会）</li> <li>・「斎宮跡の調査から」竹内英昭氏（斎宮歴史博物館）</li> <li>・「河曲部衙（狐塚遺跡）の調査から」林和範氏（鈴鹿市考古博物館）</li> <li>・全体討議</li> </ul>
第2回	平成16年11月19日 テーマ「埋蔵文化財にかかる県と市町村の役割分担」	村竹コノ遺跡（松阪市） 斎宮歴史博物館・三重県埋蔵文化財センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・村竹コノ遺跡見学</li> <li>・「久留信遺跡の経過補足報告」四日市市教育委員会</li> <li>・状況報告①「伊賀市」前川依久雄氏</li> <li>・状況報告②「津市」藤田充子氏</li> <li>・状況報告③「亀山市」亀山隆氏</li> <li>・状況報告④「桑名市」斎藤理氏</li> <li>・状況報告⑤「娘野町」和氣清幸氏</li> <li>・状況報告⑥「県埋蔵文化財センター」吉水康夫</li> <li>・状況報告⑦「県文化財保護室」山田猛氏</li> <li>・全体討議</li> </ul>

##### (2) 全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会

同協議会が主催する各種会議・研修会に職員を派遣し、他機関との交流や技術研修を行っている。平成15年度から会長を務めており、平成16年度の会議等参加・出席実績は下記ようになった。

名 称	内 容	期 日	場 所	出席者
平成16年度全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会総会・第1回役員会	平成15年度事業報告収支決算 ほか	平成16年5月27・28日	鹿児島県始良郡牟人町 ホテル京セラ ほか	吉水康夫 河北秀実 田中久生
平成16年度全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会東海・北陸ブロック会議	平成17～18年度ブロック役員の選出、報告書のデジタル化 ほか	平成16年10月21・22日	岐阜県各務原市 各務原市産業文化センター	吉水康夫 竹田憲治 小倉 整
全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会第17回研修会	研修テーマ「史跡・文化遺産を生徒学習・学校教育に活かす」	平成16年10月28・29日	大阪府大阪市 ホテルアウイーナ大阪 ほか	吉水康夫 泉 雄二 筒井正明
平成16年度全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会第2回役員会	平成16～17年度役員選出、総会、研修会等の計画 ほか	平成16年11月11・12日	三重県伊賀市 史跡旧崇徳寺 ほか	吉水康夫 河北秀実 田中久生 船越重伸

その他の事業 平成16年7月26日「文化庁への要望書提出」 ； 所長（会長）吉水康夫・金森 功  
平成16年12月9日「発掘された日本列島展2005」実行委員会出席 ； 所長（会長）吉水康夫  
平成17年3月14日「発掘された日本列島展2004・2005」実行委員会出席 ； 所長（会長）吉水康夫

### (3) その他研修会・研究会等

講座・研修会、その他研究会等に職員を派遣し、埋蔵文化財のおかれている現状・課題についての見聞を広げ、報告書作成に際しての参考としている。また調査を担当した立場からのオブザーバーとしての派遣も行っている。

名 称	内 容	期 間	場 所	出席者
文化財行政講座	講義：「文化財行政の現状と課題について」他7講義、実務講習6講義、特別講義：「独立行政法人化以降における新たな試みと東京国立博物館の平常展示リニューアルについて」他2本、施設見学	平成16年11月10日～12日	東京都渋谷区 国立オリンピック記念青少年総合センター	上村安生
埋蔵文化財保護行政担当者会議	「行政目的で行う埋蔵文化財の調査についての標準」等埋蔵文化財に関する諸問題について各都道府県の実態を踏まえての協議	平成16年11月15・16日	東京都港区 三田共済会講所	泉 雄二
埋蔵文化財担当職員等講習会	文化財保護行政を取り巻く現状についての報告、シンポジウム「埋蔵文化財行政における保存と活用」	平成17年1月13・14日	静岡県静岡市 静岡県男女共同参画センター「あざれあ」	吉水康夫 東 敬義 原田恵理子
埋蔵文化財写真技術研究会総会	会計報告、講演会：「デジタル写真の現状」「大英博物館で発掘した120年前の天竺鏡ガラス乾板写真」、実技：遺物撮影	平成16年7月2・3日	奈良県奈良市 独立行政法人奈良文化財研究所、平城京跡資料館講堂	竹田憲治
保存科学研究集会	絹染織文化財の製作過程と保存、管理について観覧する。	平成16年12月16日	奈良県奈良市 独立行政法人奈良文化財研究所、平城京跡資料館講堂	角正淳子
第22回三重県文化財講習会	文化財保護に関する基礎的知識と技能等の研修、講演2本	平成17年3月14日	津市 アスト津アストホール	東 敬義
平成16年度古代庭園研究会	文献史料と曲水遺構から曲水宴を考える	平成16年12月14・15日	奈良県奈良市 独立行政法人奈良文化財研究所	穂積裕昌
中部弥生時代研究会第9回例会	考古学的現状を整理することにより弥生稲作論の抱える問題点を検討。	平成16年7月3・4日	長野県御代田町 浅野縄文ミュージアム	船越重伸 川崎志乃
類別調査	史跡公園を保存活用することを目的として移転された埋蔵文化財センターの現状についての調査	平成16年10月27～29日	鹿児島県国分市 鹿児島県立埋蔵文化財センター	上村安生
第29回全国遺跡環境整備会議	「風土記の丘」整備事業と広域史跡整備	平成16年10月28・29日	宮崎県西郷市 宮崎県立西郷考古博物館	上村安生
第3回大府文化財センター・弥生文化博物館共同研究	弥生文化博物館で東海の弥生文化に関する特別展を開催するにあたり、東海地方の埋蔵文化財担当者とその成果を一般にも還元することを目的とした共同研究を行う。	平成16年11月26日 平成17年1月28日 3月27日	大阪府和泉市 大阪府立弥生文化博物館	穂積裕昌
古代官衙・集落研究会	「地方官衙と寺院」というテーマで古代官衙と周辺寺院をそれぞれを構造物として捉えた上で両者の関係を考える。	平成16年12月17・18日	奈良県奈良市 独立行政法人奈良文化財研究所	伊藤裕偉
瀬戸全国シンポジウム「中世涼葉の様相」(仮題)準備会	シンポジウム準備のための研究会実施に際して近年の土器・陶器編年研究の最新成果の集約方法とその発表及びシンポジウムの方向を探る。	平成17年1月22・23日	愛知県名古屋 ホテルザンルート名古屋ほか	伊藤裕偉
類別調査	西肥前遺跡第2次調査出土土に関する調査	平成17年1月27日	愛知県名古屋市 名古屋市立博物館	新名 強
類別調査	浄土近世墓地区出土遺物に関する調査他	平成17年2月8日	愛知県瀬戸市 財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター	小山憲一
先進地視察・調査	先進地の研究体制・活動に関する調査	平成17年3月1・2日	鳥根県松江市 鳥根県立埋蔵文化財調査センター、鳥根県古代文化センター	新名 強

## 2 埋蔵文化財発掘技術者養成

### (1) 埋蔵文化財発掘技術者研修(教員研修)

昭和42年度以来、県内の学校教員を対象として、埋蔵文化財の発掘調査等についての専門的知識と技術の習得を目的とする研修事業を実施している。昭和54年度から平成15年度までに92名が研修を終了した。今年度については該当者はなかった。

### (2) 埋蔵文化財発掘技術市町村職員研修

市町村教育委員会の職員を対象として埋蔵文化財発掘技術を研修し、文化財保護行政に資するための研修を実施している。平成16年度は次の1件1名を実施した。

所属・氏名	種 別	内 容	期 間
近藤 淳子 (小保町教育委員会)	講座1～4	関連法令、調査手順、本調査、資料整理、報告書作成	平成16年8月1日～17年4月30日

### 3 埋蔵文化財保護等に関する支援・協力

#### (1) 埋蔵文化財行政基礎講座

地方分権一括法が平成12年4月から施行されたことを受け、別添「実施要項」(VI章参照)に基づき、平成12年度から市町村の埋蔵文化財保護行政の担当職員を対象として実施している。平成16年度は、6月10日と3月16日の計2回実施し、各講座に延べ42市町村58名の参加を得た。

会場 埋蔵文化財センター

月日	内 容	講 師
6月10日	講座Ⅰ「埋蔵文化財保護の基礎」	竹田憲治(センター職員)
	講座Ⅱ「埋蔵文化財保護の実務」	角正芳浩(センター職員)
3月16日	講座Ⅲ「埋蔵文化財保護行政に係る諸法規と補助制度」	野原宏司(文化財保護室)
	富宮歴史博物館展示室見学 保護行政のケーススタディ「こんなときどうする」	河北秀実(センター職員)

#### (2) 市町村支援・協力

各市町村教育委員会からの依頼・要請に応じ、当該市町村教育委員会が直面する埋蔵文化財保護に関する各種の問題に関して、その調整会議等に参加・協力したり作業への支援を実施している。平成16年度は下記の事案等に対応した。

依頼者	内 容	期 日
青山町教育委員会	川上ダム建設事業に伴う埋蔵文化財調査支援	平成16年4月1日～平成17年3月31日
紀和町教育委員会	史跡赤木城跡にかかる報告書作成支援業務	平成16年4月1日～平成17年3月31日
四日市市教育委員会	久留信遺跡調査指導委員会に出席	平成16年4月25日
小俣町教育委員会	離宮院跡等範囲確認調査にかかる現地協議	平成16年4月28日
小俣町教育委員会	離宮院跡範囲確認調査支援	平成16年5月7日
小俣町教育委員会	離宮院跡発掘調査にかかる事前協議	平成16年5月13日
小俣町教育委員会	離宮院跡発掘調査にかかる事前協議	平成16年5月24日
小俣町教育委員会	離宮院跡発掘調査にかかる事前協議	平成16年6月14日
朝日町教育委員会	名谷A遺跡(森有跡空跡)範囲確認調査に関する協議	平成16年7月20日
朝日町教育委員会	名谷A遺跡(森有跡空跡)測量調査支援	平成16年7月27日
小俣町教育委員会	離宮院跡発掘調査に関する指導支援	平成16年8月1日～平成17年3月31日
美杉村教育委員会	多気北畠氏遺跡発掘調査に関する事前現地協議	平成16年8月4日
青山町教育委員会	沢代遺跡発掘調査に関する指導支援	平成16年8月～
志摩町教育委員会	志摩町内出土考古資料(阿津里貝塚出土品等)整理作業支援	平成16年9月～平成17年3月31日
紀和町教育委員会	史跡赤木城跡及び田平子明場跡整備指導委員会及び完成記念式典に出席	平成16年10月21・22日
上野市教育委員会	史跡上野城跡保存整備指導委員会に出席	平成16年10月26日
鈴鹿市教育委員会	史跡伊勢国府跡・伊勢国分寺跡指導委員会に出席	平成16年11月8日
美杉村教育委員会	多気北畠氏遺跡発掘調査に関する指導支援	平成16年11月～3月31日
伊賀市教育委員会	史跡上野城跡保存整備指導委員会に出席	平成16年11月30日
久居市教育委員会	上野遺跡発掘調査指導委員会に出席	平成16年12月20日
美杉村教育委員会	多気北畠氏遺跡第2・6次検討会に出席	平成17年1月13日
伊賀市教育委員会	史跡上野城跡保存整備指導委員会に出席	平成17年1月24日
松阪市教育委員会	天白遺跡整備検討委員会に出席	平成17年1月25日
四日市市教育委員会	久留信遺跡調査指導委員会に出席	平成17年2月3日
伊賀市教育委員会	青山地区埋蔵文化財調査にかかる指導協議	平成17年2月9日
鈴鹿市考古博物館	甲懸Ⅱ遺跡出土遺物指導支援	平成17年2月10日
伊賀市教育委員会	史跡上野城跡発掘調査に関する指導支援	平成17年2月22日
美杉村教育委員会	多気北畠氏遺跡発掘調査に関する指導支援	平成17年2月24日
美杉村教育委員会	多気北畠氏遺跡発掘調査指導委員会に出席	平成17年3月2日
美杉村教育委員会	多気北畠氏遺跡出土金属製品保存処理にかかる技術支援	平成17年3月22日～31日

### (3) 三重県文化財保護指導委員(旧三重県文化財調査員)

県内に所在する有形文化財、無形文化財、民俗文化財、史跡、名勝、天然記念物、伝統的建造物群、及び埋蔵文化財の保護を目的として、文化財保護法第105条の2の規定により、三重県教育委員会が昭和52年に設置したものである。平成15年度4月1日付けで「三重県文化財保護指導委員設置要綱」が施行され、従来三重県文化財調査員と称していたが「三重県文化財保護指導委員」という呼称に改めた。

文化財保護指導委員は、県内を北勢、中勢、松阪、南勢志摩、上野、尾鷲、熊野の7地区に分け、その各地区に埋蔵文化財、天然記念物、建造物、彫刻の各専門分野の委員を置く。活動としては、三重県文化財パトロール事業における文化財の巡視及び調査、市町村教育委員会が実施する文化財保護事業にかかる助言及び協力等である。

三重県文化財保護指導委員の活動のひとつである三重県文化財パトロール事業は、県内における指定文化財および埋蔵文化財包蔵地を巡視し、常時文化財の管理・保存状況を把握して、適切な処置を講じて文化財保護の万全を期するものである。当埋蔵文化財センターでは、特に埋蔵文化財に関して、文化財保護指導委員から生涯学習課に報告された案件に対し、技術的な対応を行っている。平成16年度の詳細については、三重県教育委員会発行の『三重県の文化財保護－平成16年度－』を参照されたい。

## 4 文化庁通知・文化財保護法の改正について

平成16年度の文化庁からの通知としては、近年の市町村合併や国機関の法人化による諸手続の変更に関する通知、また平成6年から埋蔵文化財行政に関する基本的事項について調査研究を行うために設置した「埋蔵文化財発掘調査体制等の整備充実に関する調査研究委員会」による報告『行政目的で行う埋蔵文化財の標準』、文化財保護法の改正に関する通知がある。

『行政目的で行う埋蔵文化財の標準』は、全国で行われる行政目的で実施される発掘調査の適切な遂行を確保するため定められた、発掘調査の内容や方法に関する標準である。この報告は、「現実に行われている調査をそのままは認しようとするものではなく、求められる埋蔵文化財の調査のあり方を示したものの(以下略)」とされる。内容については大部となるため省略する。

文化財保護法の改正は、「文化的景観」、「民俗技術」についても保護の対象とし、「建造物以外の有形文化財」についても登録制度の拡充を行うもので、平成17年4月1日に施行されることとなった。埋蔵文化財については大きな改正はないが、章・条番号の全面的な整理により条番号が変更されている。埋蔵文化財は、文化財保護法第四章から第六章となり、地方公共団体による発掘の施行については第五十八条の二から第九十九条に、「遺物発見届」にあたる返還又は通知等は第五十九条から第一百条に変更となった。

併せて、三重県文化財保護条例に関しても改正されたが詳細は第V章行政資料を参照されたい。

## IV 平成16年度発掘調査

### 1 発掘調査一覧

#### (1) 全県下の発掘調査

[全県下発掘調査一覧]

調査機関	本調査			範囲確認調査			工事立会			総調査面積 (㎡)
	遺跡数	件数 <sup>*)</sup>	調査面積(㎡) <sup>*)</sup>	遺跡数	件数 <sup>*)</sup>	調査面積(㎡) <sup>*)</sup>	遺跡数	件数 <sup>*)</sup>	調査面積(㎡) <sup>*)</sup>	
県										
埋蔵文化財センター	20	16	32,912.00	29	30	8,180.80	7	7	46,252.40	87,345.20
富宮歴史博物館	1	26	3,345.80	0	0	0	0	0	0	3,345.80
市町村教育委員会	41	51	90,033.75	63	81	3,347.32	93	129	383,480.59	476,861.66
その他機関	1	1	200.00	0	0	0.00	0	0	0.00	200.00
全県計	63	94	126,491.55	92	111	11,528.12	100	136	429,732.99	567,752.66

\*1 件数は、県（埋蔵文化財センター、富宮歴史博物館）本調査の場合文化財保護法に定められている所の届出数を、範囲確認調査及び工事立会はその結果報告の数を挙げている。市町村教育委員会の件数は、当センターへ報告を受けた数である。

\*2 調査面積は、本年報に掲載した数字の和である。

#### (2) 県埋蔵文化財センター担当の発掘調査

##### ① 調査体制の概要

発掘調査の体制には、直営方式、委託方式、三者体制方式、労務提供（別称：現物供与）方式など様々な方式がある。現在、三重県埋蔵文化財センターが採り入れている発掘調査の体制は、委託方式、三者体制方式、労務提供である。

委託方式は、調査の一部を民間調査機関に委託するものであるが、土工委託と調査委託の2種類を併用して実施している。土工委託とは、調査用具及び資機材の準備と管理、発掘作業員の手配と労務管理、安全管理、測量などいわゆる土工部門を委託するものである。調査委託とは、土工部門に加えて、考古学的な調査記録作業をも含めて委託するものである。業者委託は発掘調査の効率的な実施のために導入を図ったものであるが、県教育委員会の職員は監督員として発掘現場に常駐し、毎日の発掘調査に関する具体的な指示や監理を行うなど、県の発掘調査体制に組み込む形態で実施している。

三者体制方式は、現在は国土交通省事業のみで採り入れている方式で、三重県独自の方式である。国土交通省、三重県、佃中部建設協会の三者で協定を締結し、国土交通省と三重県が調査部門を契約、国土交通省と佃中部建設協会が土工部門を契約するもので、県教育委員会と佃中部建設協会は、作業要領に基づき発掘調査現場でそれぞれの業務を遂行している。三者体制は、佃中部建設協会が労務管理等の土工部門を担当することによって、県教育委員会が調査、記録などの考古学的調査に専念できる体制である。

労務提供は、発掘調査現場で事業者側が機械や作業員を提供し、県職員は調査員として発掘調査を実施するものであり、小規模な現場では効果的な方法である。

##### ② 設計・積算の概要

発掘調査委託の積算については、土量により積算しており、表土掘削及び包含層掘削については土量(㎥)、遺構掘削については面積(㎡)で行っている。この方式は、設計数量と出来高数量との対比が容易で、数量変更についても明確な根拠が得られる。また、どの現場においても、単位数量あたりの歩掛り(員数)が一定であり標準化されている。ただし、遺跡調査は遺構・遺物がすべて異なっているため、特異なケース、特に事例が少ない特殊な遺跡調査(古墳など)もあり難しい一面もある。

[事業別発掘調査一覧]

事業名	件数 <sup>*)</sup>			調査面積(㎡)			
	本調査	範囲確認調査	工事立会	本調査	範囲確認調査	工事立会	計
県事業関係							
農林水産商工部関係	7	4	1	14,424.00	119.50	130.00	14,673.50
県土整備部関係	6	10	1	10,548.00	436.00	240.00	11,224.00
その他	0	7	1	0	1,609.30	8.40	1,617.70
国・公団事業関係							
近畿自動車道名古屋神戸線(第二名神)建設事業	0	0	0	0	0	0	0
一般国道23号中勢道路建設事業	2	4	3	5,230.00	4,458.00	34.00	9,722.00
国営宮川用水第2期土地改良事業	0	4	0	0	1,408.00	0	1,408.00
一般国道42号松阪多気バイパス建設事業	1	1	0	2,710.00	150.00	0	2,860.00
揖斐川上之郷護岸工事	0	0	1	0	0	45,840.00	45,840.00
計	16	30	7	32,912.00	8,180.80	46,252.40	87,345.20

\*1 件数は、本調査の場合文化財保護法に定められている所の届出数を、範囲確認調査及び工事立会はその結果報告数を挙げている。



## 〔発掘調査経費一覧〕

原因事業名		調査費用(千円)	合計(千円)	備考	
県事業関係	農林水産商工部関係	本調査	137,621	139,221	
		整理等のみ	1,600		
	県土整備部関係	本調査	156,786	178,559	
		整理等のみ	21,773		
国・公団事業関係	近畿自動車道名古屋神戸線(第二名神)建設事業		62,579	62,579	整理等のみ 人件費含む
	一般国道23号中勢道路建設事業		100,695	100,695	人件費含む 別途調査労働力・機械
	一般国道42号松阪多気バイパス建設事業		26,354	26,354	器具・プレハブ等の提供あり
	計		507,408	507,408	

## 〔県埋蔵文化財センター担当の本調査一覧〕

※は国・県補助事業

No.	遺跡名	所在地	調査原因	費用負担	調査面積 (㎡)	調査体制
1	地蔵前遺跡	亀山市三寺町	経営体育成基盤整備事業(三寺地区)	農林水産商工部	729	土工委託
2	里前遺跡(第5次)	津市野田	一般国道23号中勢道路建設事業	国土交通省中部地方整備局	1,530	三者体制
3	替田遺跡(第8次)	津市南河路	国道163号国補道路特殊改良事業	県土整備部	1,583	調査委託
4	舞出北遺跡(第3次)	松阪市舞出町	一般国道23号中勢道路建設事業	国土交通省中部地方整備局	3,700	三者体制
5	西肥留遺跡(第2次)	松阪市肥留町	(一) 姫野津線地方特定道路整備事業	県土整備部	2,165	土工委託・調査委託
6	スプクリ遺跡(第2次)	松阪市広瀬町	中山間総合整備事業(茅江地区)	農林水産商工部	900	土工委託
7	下茅原遺跡(第1次)	松阪市茅原町	中山間総合整備事業(茅江地区)	農林水産商工部	3,145	土工委託
8	村竹コノ遺跡(第2次)	松阪市上川町	一般国道42号松阪多気バイパス建設事業	国土交通省中部地方整備局	2,710	三者体制
9	琵琶垣内遺跡(第4次)	松阪市豊原町	松阪環状線(豊原～上川地区)道路改良事業	県土整備部	3,757	調査委託
10	織糸遺跡	多気郡明和町	多気停車場跡線道路整備事業	県土整備部	881	調査委託
11	平林東遺跡	多気郡多気町	広域農道整備事業(中南勢地区)	農林水産商工部	665	調査委託
12	岩出遺跡群 清水地区(第2次)	度会郡玉城町	一般農道整備事業(玉城南部地区)	農林水産商工部	1,645	調査委託
13	おばたけ遺跡(大畑遺跡)(第5次)	鳥羽市答志町	答志漁港開港道整備事業	農林水産商工部	810	土工委託
14	浄土近世墓地	志摩市磯部町	(主)鳥羽磯部線緊急地方道路整備事業	県土整備部	400	調査委託
15	服部氏館跡(第2次)	伊賀市荒木	経営体育成基盤整備事業(中瀬川南地区)	農林水産商工部	72	土工委託
16	有井遺跡	伊賀市西明寺	経営体育成基盤整備事業(中瀬川南地区)	農林水産商工部	3,082	土工委託
17	西明寺三反田遺跡	伊賀市西明寺	経営体育成基盤整備事業(中瀬川地区)	農林水産商工部	1,764	土工委託
18	三石代遺跡(第2次)	伊賀市下神戸	(一)上野烏ヶ原線緊急地方道路整備(Bタイプ)事業	県土整備部	1,762	調査委託
19	岡田向遺跡	伊賀市岡田	農村総合整備事業(畿央伊賀地区)	農林水産商工部	212	調査委託
20	本田氏城跡	伊賀市柏尾	農村総合整備事業(畿央伊賀地区)	農林水産商工部	1,400	調査委託

## (3) 斎宮歴史博物館担当の発掘調査

〔斎宮歴史博物館担当の本調査一覧〕

※は国・県補助事業

No	遺跡名	所在地	調査原因	費用負担	調査面積 (㎡)
21	斎宮跡 第143次調査	多気郡明和町	学術調査	三重県※	500
22	斎宮跡 第144次調査	多気郡明和町	学術調査	三重県※	476
23	斎宮跡 第145-1次調査	多気郡明和町	駐車場造成等	明和町※	425
24	斎宮跡 第145-2次調査	多気郡明和町	建物建築	明和町※	47
25	斎宮跡 第145-3次調査	多気郡明和町	建物建築等	明和町※	4.2
26	斎宮跡 第145-4次調査	多気郡明和町	浄化槽設置	明和町※	4
27	斎宮跡 第145-5次調査	多気郡明和町	浄化槽設置等	明和町※	4.8
28	斎宮跡 第145-6次調査	多気郡明和町	下水道管布設	明和町	760
29	斎宮跡 第145-7次調査	多気郡明和町	下水道管布設	明和町	550
30	斎宮跡 第145-8次調査	多気郡明和町	個人住宅	明和町	2.5
31	斎宮跡 第145-9次調査	多気郡明和町	建物建築	明和町※	2.5
32	斎宮跡 第145-10次調査	多気郡明和町	浄化槽設置等	明和町※	4.8
33	斎宮跡 第145-11次調査	多気郡明和町	建物建築	明和町※	3.2
34	斎宮跡 第145-12次調査	多気郡明和町	便槽増設	明和町※	1.5
35	斎宮跡 第145-13次調査	多気郡明和町	建物建築	明和町※	47
36	斎宮跡 第145-14次調査	多気郡明和町	個人住宅	明和町	7.2
37	斎宮跡 第145-15次調査	多気郡明和町	建物建築	明和町※	2.5
38	斎宮跡 第145-16次調査	多気郡明和町	建物建築等	明和町※	43
39	斎宮跡 第145-17次調査	多気郡明和町	建物建築等	明和町※	60
40	斎宮跡 第145-18次調査	多気郡明和町	浄化槽設置	明和町※	3.6
41	斎宮跡 第145-19次調査	多気郡明和町	建物建築等	明和町※	110
42	斎宮跡 第145-20次調査	多気郡明和町	創講新設	明和町	53
43	斎宮跡 第145-21次調査	多気郡明和町	創講新設	明和町※	1
44	斎宮跡 第145-22次調査	多気郡明和町	倉庫建築	明和町※	5
45	斎宮跡 第145-23次調査	多気郡明和町	建物建築	明和町※	30
46	斎宮跡 第145-24次調査	多気郡明和町	創講新設	明和町※	198

## (4) 市町村担当の発掘調査

〔市町村担当の本調査一覧〕

※は国・県補助事業

No	遺跡名	所在地	調査原因	費用負担	調査面積 (㎡)
47	新井水掛遺跡	桑名市大仲新田	宅地造成	事業者	94.6
48	寺跡遺跡隣接地	桑名市大福	個人住宅	桑名市	8.5
49	桑名城下町遺跡 外堀125地点	桑名市外堀	個人住宅	桑名市	6
50	桑名城下町遺跡 内堀23地点	桑名市内堀	個人住宅	桑名市	1.7
51	桑名城下町遺跡 寺町地点	桑名市相生町地先	公園造成	桑名市	10
52	笠松遺跡	桑名市上野	宅地造成	事業者	112
53	桑名城下町遺跡 本町43地点	桑名市本町	個人住宅	桑名市	8.75
54	桑名城下町遺跡 北魚町33地点	桑名市北魚町	個人住宅	桑名市	4
55	高塚山古墳	桑名市北別所	学術調査	桑名市	184
56	久留借遺跡(第5次)	四日市市大久知町	一般国道1号北勢バイパス建設	国土交通省中部地方整備局	1,200
57	赤堀城跡(第5次、F・G地区)	四日市市城東町、城西町	市道改築工事	四日市市	94
58	御池古墳群(第2次)	四日市市西飯部町、下海老町	造成事業	株式会社やまげん開発	160
59	茂福城跡(第4次)	四日市市茂福町	宅地造成工事	個人	75
60	大膳寺跡(第6次)	四日市市南いかるが町	個人専用住宅	四日市市	68
61	貝野遺跡(第2次)	四日市市東坂部町	宅地造成事業	安田建設株式会社	91

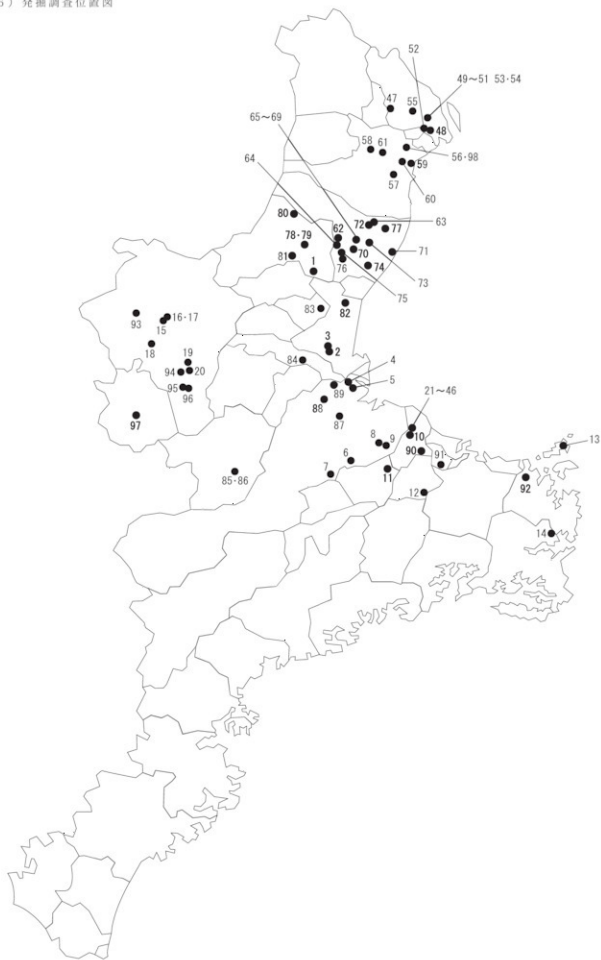
No	遺跡名	所在地	調査原因	費用負担	調査面積 (㎡)
62	長者屋敷遺跡(伊勢国府跡)(第18次)	鈴鹿市広瀬町	学術調査(史跡整備)	鈴鹿市※	970
63	伊勢国分寺跡(第30次)	鈴鹿市国分町	学術調査(史跡整備)	鈴鹿市※	1,100
64	宮上道遺跡	鈴鹿市小田町	市道小田新設道路	鈴鹿市	1,100
65	平田遺跡(第1次)	鈴鹿市平田本町	宅地造成	太平洋不動産株式会社	2,411.10
66	平田遺跡(第2次)	鈴鹿市平田本町	個人住宅建設	鈴鹿市※	355.2
67	平田遺跡(第3次)	鈴鹿市平田本町	個人住宅建設	鈴鹿市※	143
68	平田遺跡(第4次)	鈴鹿市平田本町	個人住宅建設	太平洋不動産株式会社	90
69	平田遺跡(第5次)	鈴鹿市平田本町	個人住宅建設	太平洋不動産株式会社・三井ホーム・鈴鹿市※	132
70	平野遺跡(第2次)	鈴鹿市国府町	集合住宅建設	個人	242
71	天王遺跡(第13次)	鈴鹿市岸岡町	病院改築	養鳥・日本土建建設工事JV	3,300
72	里遺跡	鈴鹿市木田町	個人住宅建設	鈴鹿市※	70.0
73	竹野一丁目遺跡	鈴鹿市竹野一丁目	共同住宅建設	個人	100.0
74	甲斐Ⅱ遺跡	鈴鹿市稲生町	一般国道23号中勢道路建設	国土交通省中部地方整備局	2,650
75	国府城跡	鈴鹿市国府町	個人住宅建設	鈴鹿市※	54
76	三宅神社西遺跡	鈴鹿市国府町	個人住宅建設	個人	58
77	萱町遺跡	鈴鹿市神戸八丁目	宅地造成	積水ハウス株式会社	160
78	亀山城跡	亀山市本丸町	亀山城二の丸曲輪及び周辺整備事業	亀山市	377
79	亀山城跡	亀山市本丸町	亀山西小学校改築事業	亀山市	1,600
80	下天王遺跡	亀山市川崎町	近畿自動車道名古屋岡線建設事業	日本道路公団中部支社	2,480
81	於登志遺跡	亀山市山下町	一般国道1号関バイパス建設事業	国土交通省中部地方整備局	110
82	冨治城跡	津市一身田上津部田	店舗建設	個人	300
83	清水北浦遺跡	安曇郡安濃町	地方道路交付金事業内多・清水ヶ丘線拡幅改良工事	安濃町	1,337
84	上野遺跡	久居市戸木町	(仮称)久居市戸木跡地造成事業	日の出開発株式会社	51,024.90
85	多気北畠氏遺跡第26次(北畠氏館跡第12次)	一志郡美杉村上多気	学術調査	美杉村※	430
86	多気北畠氏遺跡第27次(六田館跡第3次、上多気八田地区第2次)	一志郡美杉村上多気	学術調査	美杉村	140
87	伊勢寺遺跡	松阪市曲町	病院建設	原因者(個人)	300
88	新出遺跡	松阪市姫野下之庄町	姫野保育園新設工事	社会福祉法人 費壽園	200
89	赤部遺跡	松阪市姫野新屋庄町	一般国道23号中勢道路建設事業	国土交通省中部地方整備局	延べ7,000
90	安養寺跡	多気郡明和町	給食棟建設及び浄化槽の設置	恩賜財団 済生会明和病院	700
91	難宮院跡(難宮山遺跡)	度会郡小俣町	町道32号線整備事業	小俣町	1,550
92	鳥羽城跡	鳥羽市鳥羽	伊勢志摩快道まちなみ空間創造事業	鳥羽商工会議所	約400
93	国史跡上野城跡(第12次)	伊賀市上野丸之内	学術調査(保存整備)	伊賀市※	約400
94	沢代遺跡	伊賀市阿保	主要地方道松阪青山線地方特定道路建設事業	三重県伊賀県民局	5,470
95	川上宮垣内遺跡(第2次)	伊賀市川上	川上ダム建設事業	独立行政法人水資源機構	270
96	川上中間手遺跡丁地区	伊賀市川上	川上ダム建設事業	独立行政法人水資源機構	796
97	青蓮寺壁	名張市青蓮寺	携帯電話無線基地局工作物建設	事業者	96

(5) 他機関担当の発掘調査

※は国・県補助事業

No	遺跡名	所在地	調査原因	費用負担	調査面積 (㎡)
98	久留信遺跡	四日市市大矢知町	学術調査	三重大学	約200

(6) 発掘調査位置図



## 2 発掘調査の概要

### (1) 本調査

① 県（三重県埋蔵文化財センター）担当分

※は、国・県費補助事業

No	1	遺跡名	地蔵前遺跡	台帳番号	210-a312
所在地	亀山市三寺町地蔵前		事業主体	北勢農政商工部 農村基盤室	
調査原因	経営育成基盤整備事業（三寺地区）		費用負担	農林水産商工部 北勢農政商工部 農村基盤室	
調査機関	三重県埋蔵文化財センター		担当者	山口聡嗣	
調査期間	平成16年5月21日～平成16年7月23日		調査面積	7.29㎡	
調査概要	今回の調査区は中ノ右岸に所在する。北地区からは、堀立柱建物1棟と井戸2基のほか、ビット・溝・土坑等を検出し、山茶樹・土師器・陶器・染付・木製品・鉄製品等を確認している。井戸からは底部外面中央と体外外面四方に「上」の字が墨書されたものや漆碗が出土している。南地区からは、堀立柱建物5棟・柱列3条・井戸1基、縄文時代のおとし穴のほか、ビット・溝・土坑等を検出し、山茶樹・土師器・陶器・染付・木製品・鉄製品、縄文時代の石匙等を確認している。今回の調査区はこれらの出土遺物から縄文、鎌倉～室町にかけての遺跡と考えられる。				
主な遺構	北地区：堀立柱建物、井戸、溝、土坑 南地区：おとし穴（縄文時代）、堀立柱建物、柱列、井戸、溝、土坑				
主な遺物	北地区：山茶樹、土師器、陶器、染付、木製品、鉄製品 南地区：石匙、山茶樹、土師器、陶器、染付、木製品、鉄製品				
関連文献	『亀山市埋蔵文化財分布地区』亀山市1993				
No	2	遺跡名	里前遺跡（第5次）	台帳番号	201-761
所在地	津市野田字里前		事業主体	国土交通省 中部地方整備局 三重河川国道事務所	
調査原因	一般国道23号中勢道路建設事業		費用負担	国土交通省 中部地方整備局 三重河川国道事務所	
調査機関	三重県埋蔵文化財センター		担当者	辻本泰宏 船越重伸 川崎志乃	
調査期間	平成16年5月18日～平成16年8月27日		調査面積	1,530㎡	
調査概要	当遺跡は、安濃川から分派した小河川と三洲川と岩田川が合流する地点の上流部側に位置する。今回の調査では、中世を中心とした時期の土坑・溝・井戸・ビット等の遺構や土師器・山茶樹・天目茶樹等の遺物が確認された。遺構は、調査区の南側に集中し、北側は希薄な状態であった。井戸もしくは井戸と思われる遺構が4基確認された。また、性格不明なものも含め、土坑もしくは土坑状の遺構が多く確認されたが、その中には墨書のある山茶樹が出土しているものもある。ビットは調査区南側に集中しているが、配列はばらばらで、建物と考えられるようなまとまりは確認できなかった。これらのことと前回までの調査結果を考慮合わせると、近世以前の集落跡は現在の集落を中心とする地域にあり、今回の調査地点は、その集落跡と河川の間の空間的な場所（例えば、広場や作業スペースのようなもの）に当たると考えられる。				
主な遺構	溝、井戸、土坑、ビット				
主な遺物	土師器、山茶樹、天目茶樹等				
関連文献	『一般国道23号中勢道路埋蔵文化財発掘調査概報X1』三重県埋蔵文化財センター1999/『里前遺跡発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター2002				
No	3	遺跡名	替田遺跡（第8次）	台帳番号	201-759
所在地	津市南河路		事業主体	県土整備部 道路整備室	
調査原因	国道16号3号区間補修特殊道路改良事業		費用負担	県土整備部 道路整備室	
調査機関	三重県埋蔵文化財センター		担当者	小倉 整	
調査期間	平成16年5月18日～平成16年8月27日		調査面積	1,583㎡	
調査概要	幅約2mの溝SD1を中心としたビットを含む中世の遺構と、SD7・12・16や埋土に焼土が混入しているビットを含む古墳時代の遺構を同一面から検出した。調査区全体を東西に貫くSD1は、山茶樹・南伊勢系土師器類を中心に五輪塔や木製品が出土し、12世紀～15世紀の遺構であると考えられるが、混入と考えられる須恵器の器台・杯蓋などの古墳時代の遺物も出土している。またこの溝と平行して東西に走る調査区北端側の溝SD2・3からは、山茶樹・南伊勢系土師器類の他、軒丸瓦・軒平瓦・下駄・漆塗り碗などの木製品が出土した。これらの遺構からもSD1と同様に、ごく少量ではあるが須恵器（器）などの古墳時代の混入遺物が見られる。調査区北側のこれら一連の溝は、平成15年度替田遺跡（第7次）発掘調査で検出された中世の溝とつながると考えられる。SD7・12・16からは須恵器杯蓋・古式土師器片を検出した。これらの遺構は、検出面の上から切りこんでいる。SD1他のような中世の遺構とは異なり、検出面から切りこんでいることが確認された言わば下層の遺構である。遺物が乏しく時期も存在し遺構も表面で時期の決定には今後も検討を要するが、山茶樹・伊勢器と言った中世の遺物はまったく確認できないことから古墳時代の遺構と考えられる。全体に遺構密度は疎で、調査区内に中世・古墳両時代で住居跡と考えられるものは見つかっていない。 沖積地であること、平成14年度調査区で弥生時代の遺構・遺物が検出されていること、包含層から若干の弥生時代遺物がみられたことなどから下層確認調査をおこなったが、下層に遺跡の広がりも確認できなかった。				
主な遺構	区画溝、土坑、ビット				
主な遺物	山茶樹、山皿、土師器類、木製品（下駄・漆塗り碗など）、須恵器杯蓋、古式土師器片				
関連文献	『一般国道23号中勢道路埋蔵文化財発掘調査概報X2』三重県埋蔵文化財センター1997				

No	4	遺跡名	舞出北遺跡(第3次)	台帳番号	204-c1
所在地	松坂市舞出町	事業主体	国土交通省 中部地方整備局 三重河川国道事務所	費用負担	国土交通省 中部地方整備局 三重河川国道事務所
調査原因	一般国道23号中勢道路建設事業	調査機関	三重県埋蔵文化財センター	担当者	辻本泰宏 福島伸幸 山中由紀子 坂 佳彦
調査期間	平成16年5月17日～平成16年12月24日	調査面積	3,700㎡(下層2,600㎡含む)		
調査概要	舞出北遺跡は雲出川右岸、同河川の形成する微高地に立地する。調査は平成11年度・12年度と実施し、本年度は第3次調査となる。第1・2次調査では弥生時代末～古墳時代初期前半・古墳時代中期前半・奈良時代前期・中世期の4期の調査を行ったが、本年の調査では更に弥生時代後期前半まで方形周溝墓を検出、調査した。また、弥生時代末～古墳時代初期前半においては水田状遺構の広がりが見られた。第1・2次調査区では墳墓群を抽出しており、やや標高の高い範囲に墳墓が認められ、それより低い生産域を占めており土地の利用法の違いが確認された。奈良時代前期については第1・2次調査区で調査した総柱立建物を含む総柱立建物群とそれを区画する方形溝と主軸方向を同じくする溝6条と榿2列(造り替え有り)を抽出した。このことから、当該調査区は奈良時代には北の総柱立建物群の縁辺部にあたり、溝1本は南の低地との境界を形成する施設であると考えられる。				
主な遺構	弥生時代後期：方形周溝5基 弥生時代後期～古墳時代初期：水田状遺構 古墳時代中・後期：方墳1基、溝2条 奈良時代：溝6条、榿2列 中世：総柱立建物1棟				
主な遺物	弥生土器(甗・甗・高杯)、土師器(甗・甗)、須恵器蓋杯、灰輪陶器等				
関連文献	西村美幸「IV期確認調査」『一般国道23号中勢道路埋蔵文化財発掘調査概報XⅠ』三重県埋蔵文化財センター2000/ 川畑由紀子「I舞出北遺跡」『一般国道23号中勢道路埋蔵文化財発掘調査概報XⅡ』三重県埋蔵文化財センター2001/ 川畑由紀子「II舞出北遺跡」『一般国道23号中勢道路埋蔵文化財発掘調査概報XⅢ』三重県埋蔵文化財センター2002				

No	5	遺跡名	西肥留遺跡(第2次)	台帳番号	204-c6
所在地	松坂市肥留町	事業主体	久居建設部 事業推進室 整備一グループ	費用負担	県土整備部 久居建設部 事業推進室 整備一グループ
調査原因	(一) 娘野津線地方特定道路整備事業	調査機関	三重県埋蔵文化財センター	担当者	森川幸雄 新名 強 浅生卓司
調査期間	平成16年10月8日～平成17年2月18日	調査面積	2,165㎡(下層1,082㎡含む)		
調査概要	B地区とC地区の2ヶ所で調査を行い、弥生時代から中世にかけての遺構を確認した。C地区では弥生時代後期～古墳時代前期の竪穴住居跡を30棟近く確認し、竪穴住居は重複が激しく、何度も建てられたことが窺えた。竪穴住居の多くには、貼り床や貼り壁の痕跡が確認された。竪穴住居の中から多孔銅鏡が1点、銅鏡が2点出土している。また、古代の溝や土器面まりも確認し、包含層からは奈良時代後半の瓦片と軒瓦と軒片が1点ずつ出土している。華蓋土器も多数見られることから、近くに古代寺院が存在していた可能性が考えられる。瓦の文様は、尾張低地部(海部郡・中島郡付近)のものに類似している。その他、平安時代後期から鎌倉時代にかけての井戸や石組みの中世墓、焼土を含む土坑なども確認している。				
主な遺構	竪穴住居、井戸、溝、中世墓、土坑、ピット				
主な遺物	弥生土器、古式土師器、須恵器、華蓋土器、甗、山茶碗、土師質土器、瓦、多孔銅鏡、銅鏡、編り口				
関連文献					

No	6	遺跡名	スブクリ遺跡(第2次)	台帳番号	204-a 新規発見
所在地	松坂市広瀬町字スブクリ	事業主体	松阪農政商工部 農村基盤室 基盤整備2グループ	費用負担	農水商工部 松阪農政商工部 農村基盤室 基盤整備2グループ
調査原因	中山間総合整備事業(茅沓江地区)	調査機関	三重県埋蔵文化財センター	担当者	新名 強 豊田祥三
調査期間	平成16年5月7日～平成16年5月19日	調査面積	900㎡		
調査概要	B～G地区の6地区に分けて調査を行った。B～E地区は東側の尾根の先端部に位置している。最上段のB地区では濠瓦が激しく遺構は確認できなかったが、石器が1点出土した。C地区でも遺構は確認されなかったが、銅文土器が数点出土している。E地区では溝状の遺構を確認したが時期は不明。F～G地区はB～E地区とは谷を挟んだ西側尾根の縁辺部に当たる。F地区では溝1条とピットを1基確認した。G地区は谷部分にあたり遺構は確認できなかった。今回の調査では、遺構はほとんど確認できなかったが、石器や銅文土器・青磁などが出土しており、周辺に縄文時代や中世の遺跡が存在しているものと考えられる。				
主な遺構	溝、土坑、ピット				
主な遺物	縄文土器、青磁、山茶碗、土師器、五輪塔				
関連文献					

No	7	遺跡名	下茅原遺跡	台帳番号	204-a 新規発見(11A-11)
所在地	松坂市茅原町字中田、惣作、堀木	事業主体	松阪農政商工部 農村基盤室 基盤整備2グループ	費用負担	農水商工部 松阪農政商工部 農村基盤室 基盤整備2グループ
調査原因	中山間総合整備事業(茅沓江地区)	調査機関	三重県埋蔵文化財センター	担当者	小山廉一 伊藤裕俊 木本勝己
調査期間	平成16年8月19日～平成16年12月3日	調査面積	3,145㎡(下層334㎡含む)		
調査概要	当該跡は西流してきた藤田川が中流で大きく北に流れを変え左岸側に位置する。調査はA・B2地区で行った。A地区は調査区北側に遺構が集中的に見られ15～16世紀代の総柱立建物跡・中世墓も確認され、南端には旧河道などが確認された。中世墓は石で周囲を囲ったものや石を数個だけ置いたもの2タイプあり、副葬品と考えられる土師器・皿や刀子などの金属製品が出土した。B調査区は土器や11～12世紀代の旧河道が確認されたが、この旧河道はA調査区の南端で確認された旧河道に接続するものと考えられる。				
主な遺構	総柱立建物、中世墓、土坑、旧河道				
主な遺物	土師器(鍋・皿)、山茶碗、青磁、白磁、五輪塔、銭、刀子など				
関連文献					

No	8	道跡名	村竹コノ道跡 (第2次)	台帳番号	204-a 新規発見 (8A-35)
所在地	松坂市上川町字村竹、コノ		事業主体	国土交通省 中部地方整備局 紀勢国道事務所	
調査原因	一般国道42号松坂多気バイパス建設事業		費用負担	国土交通省 中部地方整備局 紀勢国道事務所	
調査機関	三重県埋蔵文化財センター		担当者	五嶋史佳 大村伸一 瀬野弘知世	
調査期間	平成16年7月27日～平成17年3月10日		調査面積	2,710㎡	
調査概要	当道跡は、松坂市柳田川左岸に位置する。調査は再来年度まで予定されており、今年度は3箇所に分けて行われた。そのため、溝の位置関係等の考察が十分ではないが、遺構と思われる大きな溝がそれぞれの地から計4基、竪穴住居が15棟確認できた。多くの赤生土器が出土しており、赤生時代後期の環壕集落が存在したと考えられる。ほかに、大溝2条、方形周溝墓5基、井戸4基等が検出されている。また、時期不明ではあるが、道路と思われる遺構が、現在の道路と平行にあるいは直交するように確認された。				
主な遺構	環壕、溝、井戸、竪穴住居、掘立柱建物、方形周溝墓、流路、土坑、ピット				
主な遺物	赤生土器 (甕・甕・高杯・ミニチュア土器)、古式土師器、陶器 (山茶碗・天目茶碗)、石包丁など				
関連文献					
No	9	道跡名	琵琶垣内道跡 (第4次)	台帳番号	204-a 820 (13A-26)
所在地	松坂市豊原町字松原垣内、肥留場		事業主体	松坂建設部 事業推進室 整備一グループ	
調査原因	平成16年度松坂環状路 (豊原～上川地区) 道路改良事業		費用負担	県土整備部 松坂建設部 事業推進室 整備一グループ	
調査機関	三重県埋蔵文化財センター		担当者	新名 強 豊田祥三	
調査期間	平成16年5月20日～平成16年9月24日		調査面積	3,757㎡ (下側含む)	
調査概要	調査地は柳田川左岸の低地に位置している。今回の調査では、赤生時代中期から中世前期にかけての遺物や遺構が確認された。主な遺構は、方形周溝墓1基、掘立柱建物3棟、井戸1基、土坑2基などである。方形周溝墓は3方を連続しない溝で囲まれたもので、遺物は出していない。古墳時代の溝からは勾玉形土製品や鏡形土製品が出土している。奈良時代のものでは掘立柱建物や溝、被板状土坑を確認した。溝SD557は掘立柱建物SB594と方向を同じくする広く浅い溝で、底面からは被板状土坑が確認されたことから、道路状遺構である可能性も考えられる。中世前期の遺構としては井戸や土坑墓などが確認された。また、時期は不明であるが高伏遺構も確認している。今回の調査では、赤生時代の墓跡や古墳時代から中世にかけての集落跡の一端を確認することができた。調査区全体には、地形に沿って多数の溝が掘削されている。特に調査区東半部では大溝が多数見られ、調査区周辺では大規模な土木工事が再三行われていたことが窺える。				
主な遺構	方形周溝墓、掘立柱建物、井戸、土壘墓、被板状土坑、高伏遺構、溝、流路				
主な遺物	赤生土器、土師器、須恵器、勾玉形土製品、鏡形土製品、甕、山茶碗、土師質土器				
関連文献	『琵琶垣内道跡 (第2次) 発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター1999				
No	10	道跡名	織糸道跡	台帳番号	442-新規発見
所在地	多気郡明和町金剛殿地内		事業主体	松坂建設部 事業推進室 整備二グループ	
調査原因	多気停車場西側道路整備事業		費用負担	県土整備部 松坂建設部 事業推進室 整備二グループ	
調査機関	三重県埋蔵文化財センター		担当者	泉 雄二	
調査期間	平成16年6月18日～平成16年11月19日		調査面積	881㎡	
調査概要	当道跡は、成川右岸の台地縁辺部に立地する。調査前には4基の円墳から成る郡集墳と思われていたが、調査の結果、郡集墳と思われるものは古墳時代初期の方形周溝墓であることが判明したほか、削平された方形周溝墓1基の礎石5基の方形周溝墓を検出した。周辺では赤生時代前期から古墳時代前期にかけての方形周溝墓が5基確認されており、同時期の集落跡が未確認であるが、当道跡を含めた成川右岸では赤生時代前期から人々の生活が営まれた地域であることが明らかとなった。				
主な遺構	赤生時代前期：土坑1 古墳時代前期：方形周溝墓5 古墳時代後期：竪穴住居1、土坑2 奈良時代：掘立柱建物5				
主な遺物	赤生土器、土師器 (甕・甕・高杯・甕)、須恵器 (杯・杯蓋・甕)、石製品 (碧玉6・小玉1)				
関連文献					
No	11	道跡名	平林東道跡	台帳番号	441-277
所在地	多気郡多気町土羽字総戸		事業主体	松坂農政商工部 農村基盤室 基盤整備2グループ	
調査原因	広域農道整備事業 (中南部地区)		費用負担	農水商工部 松坂農政商工部 農村基盤室 基盤整備2グループ	
調査機関	三重県埋蔵文化財センター		担当者	中川 明	
調査期間	平成16年7月14日～平成16年9月21日		調査面積	665㎡	
調査概要	多気町土羽の北西部に位置する標高36～39mの丘陵南側の端部に広がる道跡である。東端の緩斜面上で平円弧状の溝が検出された。埴土から南伊勢赤土師器が出土した。中央部でも溝が確認できたが遺物は小片であるため詳細な時期は不明である。この地用途不明のピットが全域から認められ、土師器小片が出土した。これらは鎌倉時代後期頃の所産であると考えられる。また、地山直上の塚倉跡から古代の土師器高杯・須恵器甕や奈良時代頃と考えられるチャート製の割片も多数確認された。以上の調査結果から考えると、立地条件からも遺構の広がりは隣接する平林道跡以北とみられる。				
主な遺構	溝、土坑、ピット				
主な遺物	土師器 (高杯・甕)、須恵器 (甕)、チャート製の割片				
関連文献	『第四部 外城田地区 五 平林道跡』(『多気町史 通史』多気町1992)				

No. 12	遺跡名	岩出遺跡群清水地区（第2次）	台帳番号	461-302
所在地	会館部玉城町岩出	事業主体	南勢志摩農水商工部 農林基盤室 基盤整備1グループ	
調査原因	一般道整備事業玉城南地区	費用負担	農水商工部 南勢志摩農水商工部 農林基盤室 基盤整備1グループ	
調査機関	三重県埋蔵文化財センター	担当者	木本勝巳 中川 明	
調査期間	平成16年5月20日～平成16年8月13日	調査面積	1,645㎡	
調査概要	当遺跡は、宮川左岸の低位～中位段丘上にある岩出地区全域に広がる岩出地区内遺跡群の西北部に位置する。A調査区では、溝、柱穴、掘立柱建物を検出したが、遺物より鎌倉時代のもと考えられる。B調査区では、調査区の東西を端から端まで渡る大溝を検出したが、区別用、農業用などに使われていたと考えられる。この溝の底部を中心に鎌倉時代、室町時代のもと考えられる遺物が出た。この溝の南側には、掘立柱建物、堀跡も確認されたことから、当遺跡は過去の発掘で明らかにされた中世集落の西北端にあたるものと考えられる。			
主な遺構	A調査区：土坑、溝、柱穴、掘立柱建物 B調査区：土坑、大溝、溝、柱穴、掘立柱建物、堀跡			
主な遺物	A調査区：土師器（皿）、山茶碗、片口鉢 B調査区：土師器（皿・羽・網釜）、山茶碗、片口鉢、常滑陶器（壺・甕）、古瀬戸（平輪）、青磁・白磁・連弁椀、蓋、花瓶、石鏡			
関連文献	『近畿自動車道（勢和～伊勢）埋蔵文化財発掘調査報告第6分冊 岐山遺跡左部地区』三重県埋蔵文化財センター1993/『岩出地区内遺跡群発掘調査報告一度会部玉城町岩出所在、ケカノ辻・角組内・岐山地区の調査』三重県埋蔵文化財センター1996など			
No. 13	遺跡名	おぼたけ遺跡（大塚遺跡）（第5次）	台帳番号	211-30
所在地	鳥羽市若志町大字大塚	事業主体	南勢志摩農水商工部 水産室 水産基盤整備グループ	
調査原因	志志漁港関連道路整備事業	費用負担	農水商工部 南勢志摩農水商工部 水産室 水産基盤整備グループ	
調査機関	三重県埋蔵文化財センター	担当者	伊藤裕偉 浅生卓司	
調査期間	平成16年5月1日～平成16年6月30日	調査面積	810㎡	
調査概要	おぼたけ遺跡は、伊勢湾内最大の島である鳥羽市若志島の東端に位置する。狭小な平地地ではあるが、東西500m、南北120mの広範囲にわたる遺跡の散布がみられ、鳥羽・志摩地方最大の遺跡である。昭和45年と46年に鳥羽市教育委員会により実施された発掘調査では奈良時代から平安時代の遺構・遺物が確認されている。今回の対象範囲は、事業地東端の照道に接続する箇所で、当初の予定から路線変更された部分である。発掘調査の結果、縄文時代後期から中世後期までの遺構・遺物を確認し、奈良時代前後のものももっとも良好である。奈良時代では、掘立柱建物・竪穴住居を検出し、竪穴住居の埋土内からは多量の貝殻と刀子が出た。その他の注目遺物としては、片面鏡がある。当地は平城京木簡に見える「志摩国若志郡和具郷」の故地と目され、当遺跡の性格としては、若志郡若志郡の海産物調整所と想定される。			
主な遺構	掘立柱建物、竪穴住居、土坑、溝			
主な遺物	縄文土器（後期中津1式、良好）、弥生土器（中期後葉）、土師器（古墳前期・中期、古代、中世後期）、須恵器（古墳後期・古代）、石製紡錘車、甲石（弥生、古墳、古代）など			
関連文献	『おぼたけ遺跡発掘調査概要 第1～3次』鳥羽市教育委員会1970/『おぼたけ遺跡発掘調査報告 第4次』鳥羽市教育委員会1972			
No. 14	遺跡名	浄土近世墓地	台帳番号	215-131
所在地	志摩郡磯部町矢字浄土	事業主体	志摩建設部 事業推進室 整備一グループ	
調査原因	(主)鳥羽磯部線緊急地方道路整備事業	費用負担	県土整備部 志摩建設部 事業推進室 整備一グループ	
調査機関	三重県埋蔵文化財センター	担当者	小山進一	
調査期間	平成16年5月25日～平成16年7月24日	調査面積	400㎡	
調査概要	浄土遺跡は、志摩郡磯部町の東端部、鳥羽市磯部町との行政境界付近の標高20m程度の低位丘陵上に立地する。調査の結果、石組みを伴うマウンドが19基確認されたが、このうち3基は地道構として墓坑は検出できなかった。出土遺物や銘文入りの墓石から墓地形成の過程を復元すると、南側の2基S X 14・15（寛文10・6年銘）に始まり、その後墓道1（SZ30）を中心構として規則的に造墓が継続され、さらに東西に造墓域が拡大し、墓道2（SZ17）に沿って構築されたSX 3を最後に造墓が放棄されたと考えられる。また、この間の時間幅は17世紀中頃から18世紀末頃と推定される。出土遺物については、各墓塚に菅笠・銭貨・火打具・刃物（鉄・刀子・鎌）のセットを備えたものが多く、これに焙烙や磁器、数珠玉、漆器を伴うものが認められる。			
主な遺構	石組みマウンド19基（うち3基は墓壇なし）、土坑5基、焼土坑2基、墓道2条			
主な遺物	土師器（皿・焙烙）、陶磁器、金属製品（煙管・火打具・刀子・鉄・鎌など）、数珠玉、漆器（椀・小皿）など			
関連文献	『浄土遺跡調査速報』三重県埋蔵文化財センター・元興寺文化財研究所2004			
No. 15	遺跡名	服部氏館跡（第2次）	台帳番号	216-a537
所在地	伊賀市荒木	事業主体	農水商工部 農業基盤室 伊賀農政商工部	
調査原因	経営体育成基盤整備事業（中瀬川南地区）	費用負担	農水商工部 農業基盤室 伊賀農政商工部	
調査機関	三重県埋蔵文化財センター	担当者	山口聡嗣 穂積裕昌 小倉 豊 豊田祥三	
調査期間	平成16年9月9日～平成17年1月31日	調査面積	72㎡	
調査概要	第1次調査区の補足部分の調査で、溝、ピットが検出された以外は、特に遺構は認められず、調査区の西半分の地山は裸であった。第1次調査では奈良時代の土師器が出たし、「大塚」と書かれた黒瀬土器も確認されているため、周辺に奈良時代の遺跡の存在が想定される。遺跡の南の丘陵上には伊賀国分寺跡があり、その関連が注目される。			
主な遺構	溝、ピット			
主な遺物	土師器			
関連文献	『三重県上野市遺跡地図』上野市教育委員会1992			



No. 16	遺跡名	有井遺跡	台帳番号	216-a 新規発見
所在地	伊賀市西明寺	事業主体	農水商工部 農業基盤室 伊賀農政商工部	
調査原因	経営体育成基盤整備事業（中瀬川南地区）	費用負担	農水商工部 農業基盤室 伊賀農政商工部	
調査機関	三重県埋蔵文化財センター	担当者	山口聡嗣 穂積裕昌 小倉 豊 豊田洋三	
調査期間	平成16年9月9日～平成17年1月31日	調査面積	3,082㎡	
調査概要	今年度調査区は2地区設定されている。東地区は中庵寺近く、西地区はその西北約60mに位置する。東地区は、調査区の西端部を流路が横切り、その流路から東で少なくとも2種の掘立柱建物と中世墓と見られる石組みの土坑を検出した。遺物は土師器皿・須恵器片・瓦器種などが出土している。西地区からは少なくとも4種の掘立柱建物と3基の土坑墓（中世）を確認した。掘立柱建物には焼土住居も含まれ、土坑墓からは完形の土師器皿、瓦器種・瓦器を中心として土器が多数出土し、うち1基からは青磁土・鉄製品も検出した。また、2基から石組みを確認した。遺物は中世の土師器・瓦器が中心であるが、包含層から緑釉陶器片も出土している。			
主な遺構	掘立柱建物、中世墓、溝、土坑など			
主な遺物	土師器（皿）、須恵器片、緑釉陶器片、瓦器、鉄製刀子			
関連文献	『三重県上野市遺跡地図』上野市教育委員会1992			
No. 17	遺跡名	西明寺三反田遺跡	台帳番号	216-a 新規発見
所在地	伊賀市西明寺	事業主体	農水商工部 農業基盤室 伊賀農政商工部	
調査原因	経営体育成基盤整備事業（中瀬川南地区）	費用負担	農水商工部 農業基盤室 伊賀農政商工部	
調査機関	三重県埋蔵文化財センター	担当者	山口聡嗣 穂積裕昌 小倉 豊 豊田洋三	
調査期間	平成16年9月9日～平成17年1月31日	調査面積	1,764㎡	
調査概要	中世：ピット、溝、土坑、土壇墓、井戸 近世：ピット、溝、土坑、井戸			
主な遺物	土師器（皿）、瓦器（椀・皿）、陶器（播鉢・白磁・青磁）、瓦質土器			
関連文献	『三重県上野市遺跡地図』上野市教育委員会1992			
No. 18	遺跡名	三石代遺跡	台帳番号	216-a1114
所在地	伊賀市下神戸字三石代（但し、今年度調査区は伊賀市上体部）	事業主体	県土整備部 道路整備室 伊賀建設部 事業推進室	
調査原因	（一）上野島ヶ原線緊急地方道路整備（Bタイプ）事業	費用負担	県土整備部 道路整備室 伊賀建設部 事業推進室	
調査機関	三重県埋蔵文化財センター	担当者	山口聡嗣	
調査期間	平成16年7月12日～平成16年11月30日	調査面積	1,762㎡（下層313㎡含む）	
調査概要	奈良時代の掘立柱建物4棟、竪穴住居12基を検出し、須恵器・土師器等の遺物を確認した。この時代の掘立柱建物は整地層上にあり、整地層の下からは石組遺構や散石を伴う流路を確認し、遺物から飛鳥時代から奈良時代のものと考えられる。また、鎌倉時代の掘立柱建物6棟と溝、中世墓（集石墓10基と木棺直葬墓3基）を検出し、瓦器・土師器等の遺物を確認した。今回の調査区が微高地にあることや河原の遺跡環境（一部）を含む地名から、今回検出した奈良時代の掘立柱建物や高年度出土の「円面鏡」は、当地が古代伊賀の中心の一角である可能性を示している。			
主な遺構	掘立柱建物、柱列、竪穴住居、溝、墓、土坑、石組遺構、散石			
主な遺物	土師器、須恵器、瓦器、石包丁、弥生土器片			
関連文献	『三重県上野市遺跡地図』上野市教育委員会1992/「センター通信みえ第36号」三重県埋蔵文化財センター2004			
No. 19	遺跡名	岡田向遺跡	台帳番号	216-f191
所在地	伊賀市岡田字向	事業主体	伊賀農政商工部 農村基盤室 基盤整備2グループ	
調査原因	農村総合整備事業（畿央伊賀地区）	費用負担	農水商工部 伊賀農政商工部 農村基盤室 基盤整備2グループ	
調査機関	三重県埋蔵文化財センター	担当者	中川 明	
調査期間	平成16年9月16日～平成17年1月31日	調査面積	延べ212㎡	
調査概要	当該遺跡は、木津川左岸の段丘面に位置する。昭和57年の調査整備によって明らかになった遺跡である。調査の結果、東方に形成された谷から連綿する流路が検出された。深さは最深で2.5mを測る。底近くの黒褐色粘質土から多量の農具・埴・建材をはじめとする遺物が出た。これらは共存する須恵器杯形・高杯等の時期から古墳時代後期頃のものと考えられる。また北側の右岸から建物の柱穴が検出された。建物の規模は不明だが、出土した土師器から奈良時代頃のものと考えられる。			
主な遺構	流路、ピット、土坑			
主な遺物	土師器（杯・甕・土師）、須恵器（杯・蓋・高杯・甕・甕）、木製品（楯・又鉋・柱材・杭・武器形・下駄・桶）			
関連文献	松本仁志『阿保山の歴史』1995			
No. 20	遺跡名	本田氏城跡	台帳番号	216-f144
所在地	伊賀市柏尾字中森	事業主体	伊賀農政商工部 農村基盤室 基盤整備2グループ	
調査原因	農村総合整備事業（畿央伊賀地区）	費用負担	農水商工部 伊賀農政商工部 農村基盤室 基盤整備2グループ	
調査機関	三重県埋蔵文化財センター	担当者	中川 明	
調査期間	平成16年9月16日～平成17年1月31日	調査面積	延べ1,400㎡	
調査概要	山頂部では地山崩り出しによる主郭を検出した。古墳期溝を整形して設けたと考えられる。また山腹北東側では土坑が5基と横穴8基を確認できた。しかし五輪塔が出土したは無遺物で詳細時期は不明である。また曲輪が3基と階段を含む通路跡も検出できた。他に集石が2地点で検出され、集石1では立石2点を含む115個の礎石が、集石2からは骨片が埋土から出土した。どちらも中世末頃と考えられる遺構である。			
主な遺構	古墳期溝、主郭、曲輪、通路、集石、土坑			
主な遺物	須恵器（甕）、陶器（甕）、五輪塔、土師器			
関連文献	『伊賀の中世城館』伊賀中世城館調査会1997			

## ② 県（高宮歴史博物館）担当分

※は、国・県費補助事業

No. 21	遺跡名 斎宮跡（第143次調査）	台帳番号	442-210
所在地	多気郡明和町斎宮字柳原	事業主体	三重県教育委員会
調査原因	計画学術調査	費用負担	三重県教育委員会※
調査機関	斎宮歴史博物館	担当者	竹内英昭 柴山圭子
調査期間	平成16年5月18日～8月12日	調査面積	500㎡
調査概要	調査地は平安時代の斎宮である方格地中央付近で、内院の北側のブロックにあたる。史跡を横断する奈良時代の道路跡を破壊・付替えた後、方格地割が造営されるに至るまでの過程を確認することができた。道路側溝を壊し、方格地割の造営に関連するとみられる竪穴住居が造られている。竪穴住居の破壊の時期は、奈良時代末頃とみられ、方格地割の完成が同時期頃とみられることが判明した。		
主な遺構	道路跡、竪穴住居2棟、掘立柱建物10棟、土坑・溝多数		
主な遺物	土師器・須恵器・緑釉陶器・灰釉陶器・青磁・白磁・土師・製塩土器・陶器類・鉄釘・鉄洋・墨書土器「侍所」など		
関連文献			
No. 22	遺跡名 斎宮跡（第144次調査・計画調査）	台帳番号	442-210
所在地	多気郡明和町竹川字中垣内	事業主体	三重県教育委員会
調査原因	学術調査	費用負担	三重県教育委員会※
調査機関	斎宮歴史博物館	担当者	柴山圭子 竹内英昭 才木 薫
調査期間	平成16年8月18日～平成16年11月17日	調査面積	476㎡
調査概要	史跡西部における範囲確認調査の3年目にあたる。平成5年度に行った第100次調査の東隣では、当時検出された柱列の続きを2条確認することができた。周囲の調査成果から、1辺約100mの方形区画を形成する柱列であると考えられる。また、弥生時代の方形周溝墓は中期後半のもの3基、後期のもの1基を確認したが、調査区が幅4mのトレンチであるため、全体の規模など詳細は不明である。そのほか、奈良時代の竪穴住居も確認した。		
主な遺構	方形周溝墓4基、竪穴住居4棟、柱列2条、掘立柱建物1棟など		
主な遺物	弥生土器・土師器・須恵器・陶器・磁石など		
関連文献	斎宮歴史博物館編「史跡斎宮跡 平成15年度発掘調査概報」2005/ 斎宮歴史博物館編「史跡斎宮跡 平成5年度発掘調査概報」1995		
No. 23	遺跡名 斎宮跡（第145-1次調査）	台帳番号	442-210
所在地	多気郡明和町斎宮	事業主体	明和町・斎宮歴史博物館
調査原因	学術調査	費用負担	明和町※
調査機関	明和町・斎宮歴史博物館	担当者	竹内英昭
調査期間	平成16年4月13日～平成16年5月6日	調査面積	425㎡
調査概要	調査地は斎宮歴史博物館に北接し、史跡範囲の北西部にあたる。地表より40～60cmほどで建物等の検出面となる地山に達する。検出した遺構は、掘立柱建物3棟、溝・土坑数基である。掘立柱建物のうち1棟は4間×2間の側柱建物で、棟方向は座標北方向に対し31°ほど東に偏る。調査区外に広がる他2棟の建物も同様の規模とみられるが、棟方向はそれぞれ異なる。出土遺物が少ないため断定はできないが、奈良時代前期のものである可能性が高い。調査区内を大きく平円形に巡る溝1は中～近世のものだが、調査区の南端に沿って直線的に延びる溝2は奈良時代に遡るものである。		
主な遺構	掘立柱建物3棟、溝・土坑数基（奈良～近世）		
主な遺物	土師器・須恵器・陶器等、コンテナボックス15箱		
関連文献	『史跡斎宮跡 平成15年度現状変更緊急調査報告』明和町 2005.3		
No. 24	遺跡名 斎宮跡（第145-2次調査）	台帳番号	442-210
所在地	多気郡明和町斎宮	事業主体	明和町
調査原因	建物建築	費用負担	明和町 ※
調査機関	斎宮歴史博物館	担当者	小瀬 学
調査期間	平成16年4月7日～4月8日	調査面積	47㎡
調査概要	斎王の森から北へ200m、塚山道沿いに位置する。調査地は後世あるいは現代の掘足で、遺構面は確認できたものの削平がされている可能性がある。基本層序としては、現況地盤から40～50cm下で遺構面を確認した。遺構、遺物とも確認することはできなかった。		
主な遺構	なし		
主な遺物	なし		
関連文献			
No. 25	遺跡名 斎宮跡（第145-3次調査）	台帳番号	442-210
所在地	多気郡明和町斎宮	事業主体	明和町
調査原因	建物建築等	費用負担	明和町 ※
調査機関	斎宮歴史博物館	担当者	小瀬 学
調査期間	平成16年6月4日	調査面積	4.2㎡
調査概要	斎宮小学校の南側、日参宮街道沿いに位置する。基礎の施工部分については、遺構面まで進しなかった。基本層序としては、上から表土約20cm、紅土土約20cm、黒色土約40cmでその直下で遺構面が確認できた。検出した遺構は、溝1条、土坑1基を確認した。遺物の出土を確認していないため、時期の判断に苦しむが、平安時代のものと考えられる。		
主な遺構	溝1条、土坑1基（平安）		
主な遺物	土師器、コンテナパット1箱		
関連文献			

No.	26	遺跡名	斎宮跡 (第145-4次調査)	台帳番号	442-210
所在地	多気郡明和町斎宮			事業主体	明和町
調査原因	浄化槽設置			費用負担	明和町 幸
調査機関	斎宮歴史博物館			担当者	小瀬 学
調査期間	平成16年6月8日			調査面積	4㎡
調査概要	調査地は、竹神社から西150m付近に位置する宅地内、方格地跡池西区内に位置する。基本層序については、上から、コンクリート、白黄土、黒褐色土、赤褐色粘質土である。赤褐色粘質土の上面で遺構を確認した。調査の成果としては、時期不詳の土坑1基を確認した。				
主な遺構	土坑1基 (時期不詳)				
主な遺物	なし				
関連文献					
No.	27	遺跡名	斎宮跡 (第145-5次調査)	台帳番号	442-210
所在地	多気郡明和町竹川			事業主体	明和町
調査原因	浄化槽設置等			費用負担	明和町 幸
調査機関	斎宮歴史博物館			担当者	小瀬 学
調査期間	平成16年7月9日			調査面積	4.8㎡
調査概要	調査地は、斎宮小学校の西400mに位置する個人住宅敷地内である。汲み取り式便槽から合併浄化槽への取り替えなどに伴う緊急発掘調査である。現況地盤から約170cm下で、黄褐色粘質土の遺構検出面を確認した。遺構については、近世以降と思われる溝1条を検出した。遺構検出面のレベルが低く、後世の削平の可能性もある。				
主な遺構	溝1条 (近世)				
主な遺物	陶器等、コンテナバット1箱				
関連文献					
No.	28	遺跡名	斎宮跡 (第145-6次調査)	台帳番号	442-210
所在地	多気郡明和町斎宮			事業主体	明和町
調査原因	下水道管布設			費用負担	明和町
調査機関	斎宮歴史博物館			担当者	小瀬 学
調査期間	平成16年7月20日～12月28日			調査面積	760㎡
調査概要	調査地は、史跡北東部の住宅密集地域の町道敷地内である。幅0.8～0.9m程度のトレンチ調査となった。調査の便宜上、工区別(18工区)で調査次数を付した。調査の成果としては、古代から中近世の遺構を多数確認した(竪穴住居3棟、土坑16基、溝40条、柱穴多数など)。いわゆる鎌倉大溝や方格地跡東加座北1区画の北側道路側溝と考えられる溝を検出した。調査区は狭いものの大きな成果を得ることができた。				
主な遺構	竪穴住居3棟、土坑16基、溝40条、柱穴多数など				
主な遺物	土師器・陶器等、コンテナバット27箱				
関連文献					
No.	29	遺跡名	斎宮跡 (第145-7次調査)	台帳番号	442-210
所在地	多気郡明和町斎宮			事業主体	明和町
調査原因	下水道管布設			費用負担	明和町
調査機関	斎宮歴史博物館			担当者	小瀬 学
調査期間	平成16年7月20日～12月28日			調査面積	550㎡
調査概要	調査地は、史跡北東部の住宅密集地域の町道敷地内である。幅0.8～0.9m程度のトレンチ調査となった。調査の便宜上、工区別(17工区)で調査次数を付した。調査の成果としては、古代から中近世の遺構を多数確認した(柱穴1基、竪穴住居1棟、土坑19基、溝32条、井戸2基、柱穴多数など)。東西方向に延びる柱間1.8m、3個分の柱列や東西0.3m以上、南北2.9m、検出面から深さ0.12～0.26mの竪穴住居を検出した。これらは、史跡範囲の北限部分に位置していることから、史跡範囲の広がりなどを考えるうえで貴重な成果を得ることができた。				
主な遺構	竪穴住居1棟、土坑19基、溝32条、柱穴多数など				
主な遺物	土師器・陶器等、コンテナバット19箱				
関連文献					
No.	30	遺跡名	斎宮跡 (第145-8次調査)	台帳番号	442-210
所在地	多気郡明和町斎宮			事業主体	明和町
調査原因	個人住宅			費用負担	明和町 幸
調査機関	斎宮歴史博物館			担当者	小瀬 学
調査期間	平成16年7月29日			調査面積	2.5㎡
調査概要	申請地は、竹神社200m付近旧御宮街道沿いに位置する。基礎の施工部分については、遺構面まで達しなかった。基本層序としては、上から盛土、淡黄褐色粘質土であった。現況地盤から70cmで淡黄褐色粘質土層に到達した。この層が遺構面と考えられるが、遺構・遺物とも調査対象部分では確認することはできなかった。				
主な遺構	なし				
主な遺物	なし				
関連文献					

No. 31	遺跡名	斎宮跡 (第 145-9 次調査)	台帳番号	442-210
	所在地	多気郡明和町斎宮	事業主体	明和町
	調査原因	建物建築	費用負担	明和町 ※
	調査機関	斎宮歴史博物館	担当者	竹内英昭
	調査期間	平成 16 年 7 月 30 日	調査面積	2.5㎡
	調査概要	調査地は、竹神社から東 250m 付近に位置する住宅地である。基本層序については現況地盤の上から、耕作土、客土、黒褐色砂質土、にぶい黄褐色土であった。にぶい黄褐色土で遺構を確認した。調査の成果としては、古代～中世に属すると考えられる溝 2 条・土坑 1 基・時期不詳の柱穴を確認した。昭和 61 年度に第 58-7 次調査を行った部分と今回の調査区が重複している。		
	主な遺構	なし		
	主な遺物	土師器等、コンテナバット 1 箱		
	関連文献			
No. 32	遺跡名	斎宮跡 (第 145-10 次調査)	台帳番号	442-210
	所在地	多気郡明和町竹川	事業主体	明和町
	調査原因	浄化槽設置等	費用負担	明和町 ※
	調査機関	斎宮歴史博物館	担当者	小瀬 学
	調査期間	平成 16 年 10 月 15 日	調査面積	4.8㎡
	調査概要	調査地は、斎宮小学校から西 150m 付近に位置する住宅地である。基本層序については、現況地盤の上から、表土、盛土、黒色土、褐色粘質土であった。褐色粘質土については遺構検出面と考えられる。調査部分の内では遺構・遺物とも確認することができなかった。		
	主な遺構	なし		
	主な遺物	なし		
	関連文献			
No. 33	遺跡名	斎宮跡 (第 145-11 次調査)	台帳番号	442-210
	所在地	多気郡明和町斎宮	事業主体	明和町
	調査原因	建物建築	費用負担	明和町 ※
	調査機関	斎宮歴史博物館	担当者	小瀬 学
	調査期間	平成 16 年 8 月 18 日・20 日	調査面積	3.2㎡
	調査概要	調査地は、竹神社から東 100m、旧参宮街道沿いの住宅敷地内で、方格地割築治山西区画にあたる。基本層序については、上から、表土、盛土（現代廃棄物入）、黄褐色土であった。黄褐色土の上で遺構検出面を確認した。視点をうけて、本来の遺構検出面のレベルではなく削平されていることもありえる。調査の成果としては、浄化槽部分で、古代のものと考えられる溝 2 条を確認した。溝 2 については、これまでの調査成果から、方格地割築治山西区画に南面する道路側溝であることが想定できる。		
	主な遺構	溝 2 条		
	主な遺物	なし		
	関連文献			
No. 34	遺跡名	斎宮跡 (第 145-12 次調査)	台帳番号	442-210
	所在地	多気郡明和町竹川	事業主体	明和町
	調査原因	便槽埋設	費用負担	明和町 ※
	調査機関	斎宮歴史博物館	担当者	小瀬 学
	調査期間	平成 16 年 8 月 25 日	調査面積	1.5㎡
	調査概要	調査地は、斎宮小学校から西 200m に位置する個人住宅敷地内である。基本層序については、現況地盤の上から、表土、黒褐色土、褐色土であった。褐色土上で遺構を確認した。調査の成果としては、古代から中世の柱穴 2 基を確認した。		
	主な遺構	柱穴		
	主な遺物	土師器等、コンテナバット 1 箱		
	関連文献			
No. 35	遺跡名	斎宮跡 (第 145-13 次調査)	台帳番号	442-210
	所在地	多気郡明和町竹川	事業主体	明和町
	調査原因	建物建築	費用負担	明和町 ※
	調査機関	斎宮歴史博物館	担当者	小瀬 学
	調査期間	平成 16 年 8 月 31 日・9 月 1 日	調査面積	4.7㎡
	調査概要	調査地は、斎宮小学校の南に位置する庭園である。基本層序については、現況地盤の上から、表土、掘り土、褐色土であった。褐色土の上で遺構を確認した。調査の成果としては、中世以降のものと考えられる落ち込み 1 基・時期不詳の柱穴を数基確認した。調査区全体で後世の痕跡のみみられ、遺構検出面については現況をとどめていない可能性がある。		
	主な遺構	柱穴、溝		
	主な遺物	土師器・陶器等、コンテナバット 3 箱		
	関連文献			

No. 36	遺跡名	斎宮跡 (第 145-14 次調査)	台帳番号	442-210
所在地	多気郡明和町斎宮		事業主体	明和町
調査原因	浄化槽設置		費用負担	明和町
調査機関	斎宮歴史博物館		担当者	小瀬 学
調査期間	平成 16 年 6 月 8 日		調査面積	7.2㎡
調査概要	調査地は、竹神社から旧夢宮街道沿い東 50m 付近に位置する住宅地 (第 4 種保存地区) である。調査区は方格地割中西西区画内に位置する。基本層序については、上から、表土、暗灰色礫混土、黒褐色土、黄灰色粘質土である。黄灰色粘質土の上面で遺構を確認した。調査の成果としては、時期不詳の柱穴数基を確認した。			
主な遺構	柱穴			
主な遺物	なし			
関連文献				
No. 37	遺跡名	斎宮跡 (第 145-15 次調査)	台帳番号	442-210
所在地	多気郡明和町斎宮		事業主体	明和町
調査原因	建物建築		費用負担	明和町 ※
調査機関	斎宮歴史博物館		担当者	小瀬 学
調査期間	平成 16 年 9 月 22 日		調査面積	2.5㎡
調査概要	調査地は、斎宮歴史博物館から東 150m に位置し、現在居宅の裏の駐車場として利用している場所である。基本層序については、現況地盤の上から、表土、暗褐色土 (盛土)、黒褐色土、淡黄褐色土であった。淡黄褐色土上面で時期不詳の柱穴を確認することができた。			
主な遺構	柱穴			
主な遺物	なし			
関連文献				
No. 38	遺跡名	斎宮跡 (第 145-16 次調査)	台帳番号	442-210
所在地	多気郡明和町斎宮		事業主体	明和町
調査原因	建物建築等		費用負担	明和町 ※
調査機関	斎宮歴史博物館		担当者	小瀬 学
調査期間	平成 16 年 10 月 4 日～10 月 7 日		調査面積	4.3㎡
調査概要	調査地は、竹神社から北約 500m 付近に位置する倉庫跡地である。基本層序については、現況地盤の上から、表土、盛土、黒褐色粘質混泥土、明黄褐色粘質土であった。明黄褐色粘質土上面で遺構を検出した。調査の成果としては、中世のものと考えられる柱穴を確認した。平成 15 年度に南側道路部分で第 142-5 次調査を行っている。			
主な遺構	柱穴			
主な遺物	土師器等、コンテナバット 1 箱			
関連文献				
No. 39	遺跡名	斎宮跡 (第 145-17 次調査)	台帳番号	442-210
所在地	多気郡明和町斎宮		事業主体	明和町
調査原因	住宅増築		費用負担	明和町 ※
調査機関	斎宮歴史博物館		担当者	小瀬 学
調査期間	平成 16 年 11 月 2 日～11 月 9 日、平成 17 年 1 月 13・14 日		調査面積	6.0㎡
調査概要	調査地は、斎宮歴史博物館から東 180m に位置する畑地である。基本層序については、現況地盤の上から、耕作土、黒褐色土、棕色土であった。棕色土の上面で遺構を確認した。調査の成果としては、古代～中世に属すると考えられる溝 1 条・落ち込み 1 基・時期不詳の柱穴を多数確認した。南北に伸びる溝については遺構検出面から 1.1m の深さがある。通称鎌倉大溝につながるものであろうか。本申請地の築地は、昭和 54 年度に第 25-2 次調査が行われていて、遺構面が現況より約 40cm 下ということが判明していて、そのことを追跡することができた。			
主な遺構	溝、柱穴			
主な遺物	土師器、コンテナバット 1 箱			
関連文献				
No. 40	遺跡名	斎宮跡 (第 145-18 次調査)	台帳番号	442-210
所在地	多気郡明和町斎宮		事業主体	明和町
調査原因	浄化槽設置		費用負担	明和町 ※
調査機関	斎宮歴史博物館		担当者	小瀬 学
調査期間	平成 16 年 11 月 15 日		調査面積	3.6㎡
調査概要	調査地は、竹神社から北 100m の個人住宅敷地内、方格地割西加座南ブロックの西側はほぼ中央に位置する。基本層序については、現況地盤の上から、表土、盛土 (住宅建設時)、暗褐色土 (旧耕作土)、棕色土 (遺構検出面) であった。現況地盤から 70cm、棕色土上面で柱穴数ヶ所を確認することができた。遺構からの出土遺物が確認できなかったため時期の判断に苦しむが、遺構埋土が黒褐色土であることから、平安時代のものと考えられる。			
主な遺構	柱穴			
主な遺物	なし			
関連文献				

No.	41	道跡名	斎宮跡 (第 145-19 次調査)	台帳番号	442-210
所在地	多気郡明和町斎宮		事業主体	明和町	
調査原因	建物建築等		費用負担	明和町 ※	
調査機関	斎宮歴史博物館		担当者	小瀬 学	
調査期間	平成 16 年 11 月 17 日～12 月 1 日		調査面積	110㎡	
調査概要	申遺地は、斎王の森から東 350m に位置する畑地 (第三種保存地区) である。住宅新築等に伴う緊急調査である。基本層序については、現況地盤の上から、耕作土、旧耕作土、暗褐色土、黄褐色粘質土であった。黄褐色粘質土の上面で遺構を確認した。調査の成果としては、古代へ中世に属すると考えられる溝 3 条・土坑 1 基・時期不明の柱穴を多数確認した。溝は東西方向であり、地境といった区画的な性格のものと考えられる。				
主な遺構	溝 3 条、柱穴				
主な遺物	土師器等、コンテナバット 11 箱				
関連文献					
No.	42	道跡名	斎宮跡 (第 145-20 次調査)	台帳番号	442-210
所在地	多気郡明和町斎宮		事業主体	明和町	
調査原因	側溝新設		費用負担	明和町	
調査機関	斎宮歴史博物館		担当者	小瀬 学	
調査期間	平成 16 年 9 月 17 日～22 日		調査面積	53㎡	
調査概要	調査地は、いつきのみや歴史体験館から斎王の森へ延びる町道の斎王の森付近において、側溝及び集水路の新設、ボックスカルバートの復旧工事を行なった部分である。側溝部分は、町道建設時の盛土を確認し、遺構面まで掘削は到達しなかった。集水路部分は、既設のボックスカルバートの場所に埋設するもので、深さ 1.555m の掘削を行なった。遺構面は確認することができず、ボックスカルバート埋設時に遺構面が削平されたものと考えられる。				
主な遺構	なし				
主な遺物	なし				
関連文献					
No.	43	道跡名	斎宮跡 (第 145-21 次調査)	台帳番号	442-210
所在地	多気郡明和町竹川		事業主体	明和町	
調査原因	側溝新設		費用負担	明和町 ※	
調査機関	斎宮歴史博物館		担当者	小瀬 学	
調査期間	平成 16 年 1 月 25 日		調査面積	1㎡	
調査概要	調査地は、斎宮小学校から西へ約 800m、近鉄線北側の第三種保存地区内で明和町が払い下げを受けた道路敷西側の側溝部分である。既設用土は現道路敷より深さ 0.4m 程度あり、その底部分から新設側溝は約 0.15～0.25m の掘削を行った。掘削深度が浅いため工事区間全体で遺構検出には到達しないことが判明した。そのためトレンチを人力で 1ヶ所設定し、土層及び遺構の状況を確認した。基本層序については、上から、盛土 (道路敷の土)、灰色砂礫、青灰色シルト、暗褐色土、青灰色粘質土であった。トレンチ内では遺構・遺物ともに確認できなかったが、青灰色シルトあるいは青灰色砂質土の上面が遺構検出になる可能性がある。				
主な遺構	なし				
主な遺物	なし				
関連文献					
No.	44	道跡名	斎宮跡 (第 145-22 次調査)	台帳番号	442-210
所在地	多気郡明和町斎宮		事業主体	明和町	
調査原因	倉庫建築		費用負担	明和町 ※	
調査機関	斎宮歴史博物館		担当者	小瀬 学	
調査期間	平成 17 年 1 月 25 日		調査面積	5㎡	
調査概要	調査地は、斎宮駅から南 200m 付近の水田である。方格地割木山東山区のほぼ中央に位置する。その水田の一部の造成及び農業用倉庫建設に伴う緊急調査である。基礎部分の 5ヶ所を調査した。基本層序については、造成の盛土上面から、盛土、旧耕作土、褐色粘質土であった。褐色粘質土の上面が遺構検出面とも考えられるが、昭和 59 年度第 48-14 次調査の成果からも、営農のために削平されている可能性がある。遺構・遺物とも確認することはできなかった。				
主な遺構	なし				
主な遺物	なし				
関連文献					
No.	45	道跡名	斎宮跡 (第 145-23 次調査)	台帳番号	442-210
所在地	多気郡明和町斎宮		事業主体	明和町	
調査原因	建物建築		費用負担	明和町 ※	
調査機関	斎宮歴史博物館		担当者	小瀬 学	
調査期間	平成 17 年 2 月 9 日～3 月 8 日		調査面積	30㎡	
調査概要	調査地は、竹神社から北約 500m 付近に位置する倉庫跡地である。基本層序については、現況地盤の上から、表土、盛土、砕石、明黄褐色粘質土であった。明黄褐色粘質土上面で遺構を検出した。調査の成果としては、中世から近世にかけてのものと考えられる柱穴を多数確認した。平成 15 年度に南側道路部分で第 142 - 5 次調査を、平成 16 年度に西側部分で第 145 - 16 次調査を行っている。				
主な遺構	柱穴				
主な遺物	なし				
関連文献					

No.	46	遺跡名	斎宮跡(第145-24次調査)	台帳番号	442-210
所在地	多気郡明和町斎宮			事業主体	明和町
調査原因	側溝新設			費用負担	明和町 ※
調査機関	斎宮歴史博物館			担当者	小瀬 学
調査期間	平成17年3月3日～16日			調査面積	19.8㎡
調査概要	調査地は、旧陸軍跡地で文部科学省の所管になっている土地である。史跡整備を行なうにあたり、地下遺構の状況などの資料をえるための事前の発掘調査である。基本順序については、上から、表土(製糸工場時代)、明和褐色粘質土であった。明和褐色粘質土の上面で遺構を確認した。調査の成果としては、古代から中世のものと考えられる溝1条・柱穴多数を確認した。溝については、通称鎌倉大溝と呼ばれているものである。方向は北を中心に西へ約55度傾る。幅1.7m、掘り出しからの深さ1.0mの規模であった。陸軍あるいは製糸工場による掘削を全体に受けているためと考えられ、調査区の東端では製糸工場関連の水溝の跡を2ヶ所確認した。				
主な遺構	溝、柱穴				
主な遺物	土師器・陶器、コンテナバット1箱				
関連文献					

### ③ 市町村担当分

※は、国・県費補助事業

No.	47	遺跡名	新井水掛遺跡	台帳番号	205-a38
所在地	桑名市大仲新田字新井水掛583外14筆			事業主体	㈲ソフィアホーム
調査原因	宅地分譲			費用負担	㈲ソフィアホーム
調査機関	桑名市教育委員会			担当者	斉藤 理
調査期間	平成16年4月12日～22日			調査面積	94.6㎡
調査概要	古墳1基を確認したが、以前の造成工事により削平されており、石室の基部のみ検出。				
主な遺構	石室				
主な遺物	須臾器蓋・高杯・提瓶・罎、土師器高杯、瑪瑙製勾玉、鉄製馬具				
関連文献					

No.	48	遺跡名	寺跡遺跡隣接地	台帳番号	205-a130
所在地	桑名市大字大福字寺跡403番地、404番地8			事業主体	個人
調査原因	個人住宅			費用負担	桑名市
調査機関	桑名市教育委員会			担当者	斉藤 理 宇佐見亜紀
調査期間	平成16年5月7日			調査面積	8.5㎡
調査概要	柱状改良による遺構破壊部分が調査対象。1m×3mのトレンチを3カ所掘削。中世の遺物包含層を確認。				
主な遺構	遺物包含層				
主な遺物	山茶碗、土師器				
関連文献					

No.	49	遺跡名	桑名城下町遺跡 外堀125地点	台帳番号	205-a99
所在地	桑名市外堀125番地			事業主体	個人
調査原因	個人住宅			費用負担	桑名市
調査機関	桑名市教育委員会			担当者	斉藤 理 宇佐見亜紀
調査期間	平成16年6月28日			調査面積	6㎡
調査概要	柱状改良による遺構破壊部分が調査対象。1m×3mのトレンチを2カ所掘削。地表より0.9m～1mで近世の遺物包含層を検出。表土下1.2mで、遺構面を確認。土坑・杭等を検出。				
主な遺構	土坑、杭、礎石、アサリの混入土層、破砕貝若干含む整地層				
主な遺物	近世陶磁器、寛永通貨、銅金具、小柄				
関連文献					

No.	50	遺跡名	桑名城下町遺跡 内堀23地点	台帳番号	205-a99
所在地	桑名市内堀23番地			事業主体	個人
調査原因	個人住宅			費用負担	桑名市
調査機関	桑名市教育委員会			担当者	斉藤 理 宇佐見亜紀
調査期間	平成16年5月17日			調査面積	1.7㎡
調査概要	柱状改良による遺構破壊部分が調査対象。1.7m×1mのトレンチを1カ所掘削。地表面から1.5mが掘削制限であり、地表面から0.9mで近世の遺物包含層を確認するに留まった。				
主な遺構	遺物包含層				
主な遺物	近世陶磁器				
関連文献					

No	51	遺跡名	桑名城下町遺跡 寺町地点	台帳番号	205-a99
所在地	桑名市相生町地先			事業主体	桑名市土木課
調査原因	公園			費用負担	桑名市土木課
調査機関	桑名市教育委員会			担当者	斉藤 理 宇佐見亜紀
調査期間	平成16年7月9日			調査面積	10㎡
調査概要	掘削可能な面積が狭小であったため詳細は不明。明治～近現代にかけての堆積層と近世の堆積層（破砕貝殻じりの有機質土）を確認。明治～近現代にかけての土層に比して、近世層からの遺物の出土量は少ない。				
主な遺構	桑名城下町の外堀				
主な遺物	近世陶磁器、下駄等木製品				
関連文献					
No	52	遺跡名	笠松遺跡	台帳番号	205-a新発見
所在地	桑名市大字上野字笠松303			事業主体	大和ハウス株式会社 桑名支店
調査原因	宅地造成			費用負担	大和ハウス株式会社 桑名支店
調査機関	桑名市教育委員会			担当者	斉藤 理 宇佐見亜紀
調査期間	平成16年7月28日～8月9日			調査面積	112㎡
調査概要	宅地造成に伴う掘削工事によって破壊される部分が対象。以前の造成で大半は破壊されているが、斜面をカットし、押し出した盛土に保護された部分のみ遺構が残存。弥生～古墳時代にかけての遺物包含層と溝・土坑等の遺構を検出。表土に灰軸陶器や須恵器が一定量含まれることから、すでに破壊された部分、もしくは近在に古代～中世の遺跡があった可能性がある。				
主な遺構	溝、柱穴、土坑				
主な遺物	弥生土器、土師器、須恵器、灰軸陶器、山茶碗、近世陶磁器				
関連文献					
No	53	遺跡名	桑名城下町遺跡 本町43地点	台帳番号	205-a99
所在地	桑名市本町43番地			事業主体	桑名市
調査原因	個人住宅			費用負担	桑名市
調査機関	桑名市教育委員会			担当者	斉藤 理 宇佐見亜紀
調査期間	平成17年1月18日～19日			調査面積	8.75㎡
調査概要	植栽による遺構破壊部分である2.5m×3.5mが調査対象。掘削深度に制限があったが近世の遺構面2面と、幕末～近代の遺構面1面を確認した。				
主な遺構	礎石柱穴、土坑、石列				
主な遺物	近世陶磁器、鳥骨				
関連文献					
No	54	遺跡名	桑名城下町遺跡北魚町33地点	台帳番号	205-a99
所在地	桑名市北魚町33番地			事業主体	桑名市
調査原因	個人住宅			費用負担	桑名市
調査機関	桑名市教育委員会			担当者	斉藤 理
調査期間	平成16年11月12日			調査面積	4㎡
調査概要	柱状改良による遺構破壊部分である1m×4mが調査対象。地表面から0.9mで近世の遺物包含層を確認した。				
主な遺構	遺物包含層				
主な遺物	近世陶磁器				
関連文献					
No	55	遺跡名	高塚山古墳	台帳番号	205-a50
所在地	桑名市大字北別所字高塚山1-2			事業主体	桑名市
調査原因	範囲確認			費用負担	桑名市
調査機関	桑名市教育委員会			担当者	斉藤 理 宇佐見亜紀 水谷芳春
調査期間	平成16年9月27日～11月30日			調査面積	184㎡
調査概要	地中レーダー調査の後、トレンチ7条を掘削。前方後円墳の墳丘裾を確認した。				
主な遺構	前方後円墳				
主な遺物	円筒埴輪、盾形埴輪、土師器				
関連文献					



No	56	遺跡名	久留信遺跡(第5次)	台帳番号	202-74
所在地	四日市市大矢町字久留信・字矢内谷			事業主体	国土交通省 中部地方整備局 北勢国道事務所
調査原因	一般国道1号北勢バイパス建設			費用負担	国土交通省 中部地方整備局 北勢国道事務所
調査機関	四日市市教育委員会			担当者	服部芳人 城 吉基
調査期間	平成17年1月6日～平成17年3月25日			調査面積	1,200㎡
調査概要	今回の調査区は、区画溝で囲まれた正倉院城の東側、丘跡の裾部分に当たる。区画溝の東側への延長・正倉院のほぼ中央を東西方向に走る道路状遺構の延長が想定されたが、調査区内では奈良時代を中心とする遺構・遺物は確認されず、弥生時代の掘穴住居・古墳の周溝などを検出した。特に、竪穴住居は壁周溝から取り付く排水溝の残存状態が良好のものもあり、天井部が残存してトンネル状になっているものがある。また、古墳の周溝には、須恵器がまとまって据え置かれたような状態の出土のものもある。				
主な遺構	弥生時代中期～後期：竪穴住居15棟以上 5世紀後半頃：内溝周溝4基 平安時代：井戸2基 中世：獨立柱建物1棟・土坑・溝など				
主な遺物	弥生土器各器種(絵面土器を含む)、石鏝、有溝石鏝、須恵器各器種、埴輪(円筒・形象)、灰輪陶器、山茶碗、土師器など				
関連文献					
No	57	遺跡名	赤堀城跡(第5次 F・G地区)	台帳番号	202-290
所在地	四日市市城東町、城西町 地内			事業主体	四日市市
調査原因	市道改築工事			費用負担	四日市市
調査機関	四日市市教育委員会			担当者	葛山拓也
調査期間	平成16年9月1日～平成16年9月17日(F地区)、平成16年12月13日～平成16年12月15日(G地区)			調査面積	F地区：74㎡、G地区：20㎡
調査概要	F・G地区ともに地山の粗砂層に埋積した遺物包(倉庫)のみ確認した。赤堀城に関する遺構は検出されず、調査区内が堀であるか、検討を要する。				
主な遺構	なし				
主な遺物	古墳時代から中世の土師器、須恵器、灰輪陶器、山茶椀、常滑、丸太(近世以降)等				
関連文献	『赤堀城跡』四日市市教育委員会1986/『赤堀城跡2』四日市市遺跡調査会1989/『赤堀城跡3』四日市市遺跡調査会1993/『赤堀城跡4』四日市市遺跡調査会2000				
No	58	遺跡名	御池古墳群(第2次)	台帳番号	202-102
所在地	四日市市西坂部町・下海老町地内			事業主体	株式会社やまざん開発
調査原因	造成事業			費用負担	事業者
調査機関	四日市市教育委員会			担当者	葛山拓也 石毛彩子
調査期間	平成16年4月16日～平成16年5月8日			調査面積	160㎡
調査概要	14号墳を新たに検出し、11基からなる群集墳と確認した。14号墳からは須恵器の蓋が出土し、4号墳に続き、特殊な器形の須恵器が副葬されていた可能性が考えられる。				
主な遺構	古墳時代後期の円墳				
主な遺物	須恵器、土師器、鉄剣				
関連文献	『御池古墳群2』四日市市教育委員会2005				
No	59	遺跡名	茂福城跡(第4次)	台帳番号	202-253
所在地	四日市市茂福町1540-1、1541-1、1542-1			事業主体	個人
調査原因	宅地造成工事			費用負担	個人
調査機関	四日市市教育委員会			担当者	服部芳人 赤松一秀
調査期間	平成16年8月16日～平成16年8月19日			調査面積	75㎡
調査概要	堀の埋土を確認した。ただし、土塁や堀の立ち上がり部分の痕跡を確認することはできなかった。				
主な遺構	空町：堀				
主な遺物	土師器、陶器、木製品、骨				
関連文献	『茂福城跡4』四日市市教育委員会2004				
No	60	遺跡名	大講寺跡(第6次)	台帳番号	202-89
所在地	四日市市南いかるが町 地内			事業主体	個人
調査原因	個人専用住宅			費用負担	四日市市
調査機関	四日市市教育委員会			担当者	葛山拓也
調査期間	平成16年10月29日～平成16年11月5日			調査面積	68㎡
調査概要	中世以降の不定形な土坑や浅いピットを検出したが、明瞭な遺構はない。出土遺物は中世のものもわずかであるが、輸入陶磁器が含まれている。				
主な遺構	特になし				
主な遺物	中世：土師器、山茶椀、輸入陶磁器				
関連文献	『大講寺跡』四日市市教育委員会1978～1982				

No	61	遺跡名	貝野遺跡（第2次）	台帳番号	202-124
所在地	四日市市東坂町字坂田内 地内			事業主体	安田建設株式会社
調査原因	宅地造成事業			費用負担	事業者
調査機関	四日市市教育委員会			担当者	葛山哲也
調査期間	平成17年3月22日～平成17年3月30日（以降も工事立会い実施）			調査面積	9.1㎡
調査概要	多数のピットを検出したが、明瞭な建物跡は抽出されなかった。				
主な遺構	ピット				
主な遺物	古代：土師器、須恵器				
関連文献	『貝野遺跡』四日市市教育委員会 1969				
No	62	遺跡名	長者屋敷遺跡（伊勢国府跡）第18次	台帳番号	207-363
所在地	鈴鹿市広瀬町丸内 2609-1、中土居 1290-1、長塚 1275			事業主体	鈴鹿市
調査原因	学術調査（史跡整備）			費用負担	鈴鹿市※
調査機関	鈴鹿市考古博物館			担当者	水橋公恵
調査期間	平成16年8月31日～平成16年11月18日			調査面積	9.70㎡
調査概要	当遺跡は、鈴鹿川の支流安楽川の北岸台地上に立地する。平成3年から継続的に行われている学術調査により伊勢国府跡であることが判明し、一部が国史跡に指定されている。今回の調査は、政府北側に展開する方格地割の北側範囲を確認することを目的として行った。当初復元案の北側の位置で溝を、それよりも南側で竪穴住居を確認した。				
主な遺構	溝1基、竪穴住居（竈あり）1棟				
主な遺物	土師器、瓦				
関連文献	『伊勢国府跡7』鈴鹿市考古博物館 2005				
No	63	遺跡名	伊勢国分寺跡 第30次	台帳番号	207-306
所在地	鈴鹿市国分町字堂跡			事業主体	鈴鹿市
調査原因	学術調査（史跡整備）			費用負担	鈴鹿市※
調査機関	鈴鹿市考古博物館			担当者	伊藤 淳
調査期間	平成16年7月23日～平成17年3月25日			調査面積	1,100㎡
調査概要	僧坊の規模を確認。伽藍地の東1/3を区画する築地塼と北辺の築地塼の接点を確認。				
主な遺構	僧坊、築地、竪穴住居、堀、溝、土坑				
主な遺物	軒瓦、軒平瓦、平瓦、丸瓦、埴、須恵器、土師器、灰輪陶器				
関連文献	『伊勢国分寺跡5』鈴鹿市考古博物館 2005				
No	64	遺跡名	宮上道遺跡	台帳番号	207-703
所在地	鈴鹿市小田町 595 他			事業主体	鈴鹿市
調査原因	市道小田新設道路			費用負担	鈴鹿市
調査機関	鈴鹿市考古博物館			担当者	北条正剛 水橋公恵
調査期間	平成16年4月5日～平成16年6月22日			調査面積	1,100㎡
調査概要	当遺跡は、安楽川と鈴鹿川に挟まれた河岸段丘上に位置する。主な遺構は、奈良・平安時代の竪穴住居と中世の井戸・溝・土坑である。縄文時代から近世の遺物が出土した。				
主な遺構	竪穴住居（奈良・平安：竈あり）1棟、中世の井戸1基・溝・土坑				
主な遺物	縄文土器、古代：土師器・灰輪陶器・平瓦、中世：土師器（皿・鍋・羽釜）・山茶碗（碗・小碗・小皿・鉢）・古瀬戸（四耳壺・折縁皿・天目茶碗）・常滑陶器（甕・甬・鉢）・青磁・白磁・木製品・五輪塔（火輪）				
関連文献	『鈴鹿市遺跡地区』鈴鹿市教育委員会 1988				
No	65	遺跡名	平田遺跡（1次）	台帳番号	207-386
所在地	鈴鹿市平田本町一丁目 78-1、91-1、92、93、94、95、96-2、174、175、177-1、185-1、185-2、185-3、185-4、187、188、189、190、190-1、191-1、191-2、192			事業主体	大洋不動産株式会社
調査原因	宅地造成			費用負担	大洋不動産株式会社
調査機関	鈴鹿市考古博物館			担当者	吉田真由美
調査期間	平成16年4月5日～平成16年7月20日			調査面積	2,411.1㎡
調査概要	鈴鹿川右岸の標高約22mの段丘上に位置する。弥生時代末から中世にかけての遺構を検出した。身舎梁行3間×桁行3間以上、四面底付掘立柱建物（正殿？）とその北に方位をそろえた後殿風の梁行3間×桁行4間以上の掘立柱建物を検出した。弥生時代末の方形瓦溝溝の溝から縄文晩期の石刀（ほぼ完形）が出土した。『鈴鹿市遺跡地区』に御門内古墳と登録されていた高りは、古墳ではなく土塚であった。				
主な遺構	方形瓦溝溝、竪穴住居（6棟）、掘立柱建物（古代：13棟以上 中世：3棟以上）、堀、溝、土坑、ピット				
主な遺物	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、平瓦、丸瓦、灰輪陶器、緑輪陶器、山茶碗、山皿、青磁、白磁、常滑焼、古瀬戸、近世陶器、石刀、磁石				
関連文献	『鈴鹿市遺跡地区』鈴鹿市教育委員会 1988				

No	66	遺跡名	平田遺跡 (2次)	台帳番号	207-386
所在地		鈴鹿市平田本町一丁目	事業主体	個人	
調査原因		個人住宅建設	費用負担	鈴鹿市※	
調査機関		鈴鹿市考古博物館	担当者	吉田真由美	
調査期間		平成16年9月14日～平成16年10月13日	調査面積	355.2㎡	
調査概要	1次調査で検出した掘立柱建物 (SB09、SB65)、溝 (SD10、SD11、SD64) 等の続きを確認した。その他、新たに竪穴住居3棟、掘立柱建物1棟を検出した。				
主な遺構	竪穴住居、掘立柱建物、土坑、溝、ピット				
主な遺物	土師器、須恵器、軒平瓦、平瓦、丸瓦、山茶碗、山皿、近世陶器				
関連文献	『鈴鹿市遺跡地区』鈴鹿市教育委員会1988				
No	67	遺跡名	平田遺跡 (3次)	台帳番号	207-386
所在地		鈴鹿市平田本町一丁目91-7・8、147-7	事業主体	個人	
調査原因		個人住宅建設	費用負担	鈴鹿市※	
調査機関		鈴鹿市考古博物館	担当者	林和範 水橋公恵	
調査期間		平成16年12月13日～平成16年12月24日	調査面積	A: 88㎡、B: 55㎡	
調査概要	宅地の道路部分調査 (1次調査) の際に部分的に確認されていた竪穴住居 (ST122) や掘立柱建物 (SB17)、溝 (SD87) などの続きを確認した。				
主な遺構	竪穴住居、掘立柱建物、土坑、溝、ピット				
主な遺物	土師器、須恵器				
関連文献	『鈴鹿市遺跡地区』鈴鹿市教育委員会1988				
No	68	遺跡名	平田遺跡 (4次)	台帳番号	207-386
所在地		鈴鹿市平田本町一丁目91-13・14	事業主体	個人	
調査原因		個人住宅建設	費用負担	大洋不動産株式会社	
調査機関		鈴鹿市考古博物館	担当者	林和範	
調査期間		平成17年1月7日～平成17年1月20日	調査面積	90㎡	
調査概要	飛鳥時代末から奈良時代初期の竪穴住居を確認した。規模は東西7.2×南北6.5m、職工土師器がまぎって出土している。その他、古代末～中世初頭の土器焼成室 (ロクロ土師器) 1基を確認した。				
主な遺構	竪穴住居、掘立柱建物、土器焼成坑、土坑、溝、ピット				
主な遺物	土師器、須恵器、瓦、縁輪陶器、山茶碗、ロクロ土師器				
関連文献	『鈴鹿市遺跡地区』鈴鹿市教育委員会1988				
No	69	遺跡名	平田遺跡 (5次)	台帳番号	207-386
所在地		鈴鹿市平田本町一丁目174番8	事業主体	個人	
調査原因		個人住宅建設	費用負担	大洋不動産・三井ホーム・鈴鹿市※	
調査機関		鈴鹿市考古博物館	担当者	林和範	
調査期間		平成17年2月9日～平成17年2月24日	調査面積	132㎡	
調査概要	1辺1.0～1.3mの方形掘方の柱穴で構成される壁行3間・桁行6間の身舎に、東面庇の存在が不確定ではあるが、4面庇が付設されたとと思われる大型掘立柱建物を検出した。四面庇とすれば、全体の規模は東西18.6m×南北10.5mとなり床面積は195.3㎡となる。他に鎌倉時代の溝などが見つかっている。				
主な遺構	大型掘立柱建物、溝、土坑、柱穴				
主な遺物	土師器、須恵器、布目平瓦 (格子甲き)、山茶碗、常滑焼				
関連文献	『鈴鹿市遺跡地区』鈴鹿市教育委員会1988				
No	70	遺跡名	平野遺跡 (第2次)	台帳番号	207-158
所在地		鈴鹿市因府町字富士2190-1	事業主体	個人	
調査原因		集合住宅建設	費用負担	個人	
調査機関		鈴鹿市考古博物館	担当者	伊藤 淳	
調査期間		平成16年4月7日～平成16年5月18日	調査面積	242㎡	
調査概要	弥生時代中期の方形周溝墓1基、掘立柱建物1基、その他多数の溝とピットを検出。方形周溝墓の溝からは弥生土器が4点出土。				
主な遺構	方形周溝墓、掘立柱建物、溝、土坑				
主な遺物	弥生土器器3、弥生土器脚付壺1、須恵器、土師器皿、土師器甕、山茶碗片				
関連文献	現地説明会資料				

No	71	遺跡名	天王遺跡 (13次)	台帳番号	207-873
所在地		鈴鹿市岸岡町589-2	事業主体	三重厚生農業協同組合連合会	
調査原因		病院改築	費用負担	鹿島・日本土建建設工事共同企業	
調査機関		鈴鹿市考古博物館	担当者	林 和範	
調査期間		平成16年4月8日～平成16年10月30日	調査面積	3,300㎡	
調査概要	弥生後期環濠・弥生後期の1辺9m大型竪穴住居、奈良時代の計画的に配置された掘立柱建物群・御師塚の出土。				
主な遺構	環濠、竪穴住居、掘立柱建物、土坑、溝、ピット				
主な遺物	弥生土器、土師器、須恵器、瓦、緑釉陶器、山茶碗、滑骨焼、硯、鉄製品、鉄洋、磨製土器、土管				
関連文献	『鈴鹿市遺跡地区』鈴鹿市教育委員会1988/『天王遺跡-3次発掘調査報告』鈴鹿市教育委員会1998/『天王遺跡(5次)発掘調査報告』鈴鹿市教育委員会2002/『鈴鹿市考古博物館年報1・2・4・5号』鈴鹿市考古博物館2000～2004				
No	72	遺跡名	里遺跡	台帳番号	207-538
所在地		鈴鹿市木田町字里2547-2	事業主体	個人	
調査原因		個人住宅建設	費用負担	鈴鹿市※	
調査機関		鈴鹿市考古博物館	担当者	中森成行 北条正則	
調査期間		平成16年8月23日～平成16年8月31日	調査面積	70㎡	
調査概要	木田城跡・磐城山遺跡等が所在する標高40m前後の細長い丘陵が鈴鹿川に向かって突き出し、里遺跡はその南側で緩やかに傾斜する木田町集落内に位置している。宅地造成に伴い行った試掘結果をもとに宅地部分70㎡を調査した。主な遺構は掘立柱建物2棟、土坑1基があり、調査区の北側部分で集中して認められる。遺物は弥生土器、古墳から平安時代に至る須恵器片の他、灰釉陶器、山茶碗などがある。調査区は掘立柱建物を中心とした平安時代前期の集落跡と思われる。				
主な遺構	掘立柱建物2棟、土坑1基				
主な遺物	弥生土器、須恵器、灰釉陶器、山茶碗				
関連文献	『鈴鹿市遺跡地区』鈴鹿市教育委員会1988				
No	73	遺跡名	竹野一丁目遺跡	台帳番号	207-1138
所在地		鈴鹿市竹野一丁目2番1	事業主体	個人	
調査原因		共同住宅建設	費用負担	個人	
調査機関		鈴鹿市考古博物館	担当者	中森成行 北条正則	
調査期間		平成16年10月18日～平成17年11月10日	調査面積	100㎡	
調査概要	近鉄三日市駅の直ぐ北側に位置する畑地で、周辺部は宅地化が進み数次にわたって宅地造成事業に伴い発掘調査が実施される。細長い造成地に対し東西方向に4本のトレンチを設定し試掘調査を実施したところ中央部から土坑・溝状の遺構を確認する。遺構には井戸跡とも考えられる深い円形の土坑と溝状の遺構があり、調査区は中世集落の周辺部に当たるものと考えられる。				
主な遺構	井戸、溝				
主な遺物	山茶碗(黒書)、山皿、青磁碗、土師器(鬮・甕・皿)				
関連文献	『三重県埋蔵文化財センター年報6』三重県埋蔵文化財センター1995/『鈴鹿市埋蔵文化財調査年報Ⅱ』鈴鹿市考古博物館1995/『鈴鹿市埋蔵文化財調査年報Ⅳ』鈴鹿市考古博物館1997				
No	74	遺跡名	甲懸Ⅱ遺跡	台帳番号	207-1164
所在地		鈴鹿市福生町字甲懸9590-54	事業主体	国土交通省 中部地方整備局 三重河川国道事務所	
調査原因		一般国道23号中勢道路建設事業	費用負担	国土交通省 中部地方整備局 三重河川国道事務所	
調査機関		鈴鹿市考古博物館	担当者	宮崎正光 吉田真由美	
調査期間		平成16年10月21日～平成17年2月9日	調査面積	2,650㎡	
調査概要	平成15年度に行った範囲確認調査の際、埴輪を含む溝状の遺構を検出した地区を対象に本調査を行った。調査の結果、溝状の遺構は谷であることが判明した。				
主な遺構	谷、土坑、小穴				
主な遺物	円筒埴輪、朝顔形埴輪、形象埴輪(人物、家、馬等)、土師器、須恵器、縄文土器、弥生土器、磨製石斧、割片				
関連文献	『一般国道23号線中勢道路範囲確認調査報告-鈴鹿5工区 野田遺跡・甲懸Ⅱ遺跡・浄土池遺跡・池ノ下Ⅱ遺跡-』鈴鹿市教育委員会2004				
No	75	遺跡名	国府城跡	台帳番号	207-368
所在地		鈴鹿市国府町字長之城1725-5	事業主体	個人	
調査原因		個人住宅建設	費用負担	鈴鹿市※	
調査機関		鈴鹿市考古博物館	担当者	中森成行 北条正則	
調査期間		平成16年10月21日～11月5日	調査面積	54㎡	
調査概要	国府城跡は鈴鹿川南岸の河岸段丘が鉄床(かなとこ)状に突出した東西400m、南北300mの台地にあり、現在も良好な形で堀及び土塁が残されている。調査区は台地の中ほどにあり、検出された遺構には溝が2条ある。その一つは調査区西端に沿った南北溝で、底は調査区外に延び、相当規模の大きい堀跡と考えられる。ここからは羽釜片、山茶碗片が多数出土している。この遺構は国府城に関連する遺構の一部と思われる。				
主な遺構	溝、柱穴				
主な遺物	羽釜、山茶碗				
関連文献	『鈴鹿市史』第1巻 鈴鹿市1980/『三重の中世城館』1977				

No	76	遺跡名	三宅神社西遺跡	台帳番号	207-951
所在地	鈴鹿市国府町字下1601、1602の一部			事業主体	個人
調査原因	個人住宅建設			費用負担	鈴鹿市※
調査機関	鈴鹿市考古博物館			担当者	永橋公恵 林 和範
調査期間	平成16年12月8日～平成16年12月15日			調査面積	58㎡
調査概要	鈴鹿川右岸の段丘上に位置する。調査の結果、3棟分の竪立柱建物の柱穴と溝1条などが確認された。柱間2間分が検出された2棟(SB1・2)は、柱の振り方が1.2～0.8mと大きな方形で、両者の柱間の方位も直交するなど企画性が高く、同時期(平安時代前半頃)に建てられていたと考えられる。柱間は、SB1が幅10尺(3m)、SB2は8尺(2.4m)である。SB3は、2間×3間以上の規模で、柱間は2.4m(8尺)等間。柱穴は小さな円形またはいびつな方形で、柱穴の切り合い関係からSB1・2よりも新しいことが判っている。				
主な遺構	竪立柱建物、溝、ピット				
主な遺物	土師器、須恵器、灰桶陶器				
関連文献	『鈴鹿市遺跡地区』鈴鹿市教育委員会1988				
No	77	遺跡名	雲町遺跡	台帳番号	207-167
所在地	鈴鹿市神戸八丁目325、325-1			事業主体	個人
調査原因	宅地造成			費用負担	積水ハウス株式会社四日市支店
調査機関	鈴鹿市考古博物館			担当者	中森成行 田中聡明
調査期間	平成17年2月15日～平成17年3月15日			調査面積	160㎡
調査概要	試掘調査では、全体に覆瓦が進み、宅地造成計画地内の中央部より東寄りで見つかった。そのため、東側の道路敷設地区で調査を実施した。主な遺構は、幅3.5m、深さ0.75mの丸く掘る溝の一部がある。ここから埴輪が多数出土したことから、古墳の遺構ではないかと考えられる。円墳と思われるが、溝が外に延びるため不明である。この他、中世のピットと土坑が多数検出された。建物として1・2棟はまとまるようである。				
主な遺構	古墳円溝、土坑、柱穴				
主な遺物	埴輪(円筒・馬形)、須恵器(古墳～奈良)、刀子、鉄斧、山茶碗、山皿、竇永通宝				
関連文献	『三重考古図録』/『神戸史談』6号1967				
No	78	遺跡名	亀山城跡	台帳番号	210-a200
所在地	亀山市本丸町			事業主体	亀山市
調査原因	亀山城二の丸帯曲輪及び周辺整備事業			費用負担	亀山市
調査機関	社会教育課			担当者	亀山 隆
調査期間	平成16年8月16日～平成16年10月22日			調査面積	377㎡
調査概要	亀山城二の丸御殿北側に所在する帯曲輪と土居跡。平成15年度調査で発見された二の丸北門門により二の丸と通じている。この部分を復元整備するための事前調査として調査を実施。土居に沿って設けられた石組の溝と大型枿は「見え方」を意識しており、帯曲輪が御殿から城上居住区域として転化したものと考えられる。				
主な遺構	石組溝、石組枿				
主な遺物	瓦製土管、瀬戸美濃、信楽、瓦、運動靴(スニーカー)				
関連文献	『うずみ門ニュース』1～4 亀山市教育委員会2004～2005				
No	79	遺跡名	亀山城跡	台帳番号	210-a200
所在地	亀山市本丸町			事業主体	亀山市
調査原因	亀山西小学校改築事業			費用負担	亀山市
調査機関	社会教育課			担当者	亀山 隆
調査期間	平成16年6月18日～平成17年3月31日			調査面積	1,600㎡
調査概要	亀山城二の丸御殿中央と馬場、神戸枿とその土居に相当する部分であるが、これらの直接的な遺構は検出されなかった。ただし、二の丸北東部分は盛土により造成されている。下層からは中世末期の遺構群を確認しているがその遺構は不明。なお、中世末期の空堀は深さが6.5m以上ある。				
主な遺構	廃棄土坑、瓦敷溝、空堀(中世末期)、地鉄遺構?				
主な遺物	瓦、瀬戸美濃、信楽、常滑				
関連文献	『亀山城はくつ通信』VOL.1～5 亀山市教育委員会2003～2004				
No	80	遺跡名	下天王遺跡	台帳番号	210-a363
所在地	亀山市川崎町下天王			事業主体	日本道路公団中部支社
調査原因	近畿自動車道名古屋圏建設事業			費用負担	日本道路公団中部支社
調査機関	社会教育課			担当者	山際文則
調査期間	平成16年11月19日～平成17年2月28日			調査面積	2,480㎡
調査概要	調査地は、谷一つ隔てて東史跡の峯城跡が位置する丘陵である。周辺の遺跡範囲外であったが丘陵頂上や斜面に人工的に削平された痕跡が見られたことから、当初峯城跡に付属する見張り台等の機能を持つ施設ではないかと想定された。ところが調査を進めると、弥生時代中期の竪穴住居や古墳、中世墓と思われる遺構が確認された。なお、丘陵に見られた削平地周辺からは遺物が出ず、峯城跡との関連を確認するまっにはいたらなかった。				
主な遺構	弥生：竪穴住居1棟 古墳後期：古墳1基 中世：中世墓1基				
主な遺物	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器				
関連文献					

No	81	遺跡名	於登志遺跡	台帳番号	210-a236
所在地		亀山山下町	事業主体	国土交通省中部地方整備局	
調査原因		一般国道1号関バイパス建設事業	費用負担	国土交通省中部地方整備局	
調査機関		亀山市教育委員会	担当者	木野本和之	
調査期間		平成16年7月26日～平成16年8月11日	調査面積	110㎡	
調査概要		平成14年度亀山直島線建設事業、平成15年度一般国道1号関バイパス建設事業に続く第3回目の調査である。これまでに弥生時代中期後半の方形周溝墓4基、後期末の墳墓2基、古墳時代後期の土坑墓等の遺構を確認している。今年度は15年度に確認した弥生中期の墳墓周溝の延長を検出した他、新たに方形周溝墓の周溝を確認し、調査区外にも方形周溝墓が存在することが明らかとなった。			
主な遺構		方形周溝墓の周溝			
主な遺物		縄文：打製石斧 弥生：中期の壺・甕 中近世：陶器・土師器			
関連文献		『一般国道1号関バイパス埋蔵文化財発掘調査報告1 於登志遺跡』亀山市教育委員会2005			
No	82	遺跡名	冨治城跡	台帳番号	201-470
所在地		津市一身田上津部田	事業主体	個人	
調査原因		店舗建設	費用負担	個人	
調査機関		津市埋蔵文化財センター	担当者	村木一弥	
調査期間		平成17年2月14日～平成17年3月25日	調査面積	300㎡	
調査概要		第4次調査 ・Ⅱ郭 土坑 ・Ⅴ郭 土坑、ピット ・Ⅵ郭 冨治城跡発掘後の近世以降の盛土であることが判明。			
主な遺構		土坑、ピット、溝			
主な遺物		土師器、陶器、瓦、石臼			
関連文献		『冨治城跡発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター1991/『冨治城跡（第3次調査）の概要』埋蔵文化財センターニュース第11号 津市埋蔵文化財センター2000			
No	83	遺跡名	清水北浦遺跡	台帳番号	384-842
所在地		安濃町大字清水字北浦	事業主体	安濃町役場建設課	
調査原因		地方道路交付金事業内多・清水ヶ丘線拡幅改良工事	費用負担	事業者	
調査機関		安濃町教育委員会・安濃町遺跡調査会	担当者	田中秀和	
調査期間		平成16年11月16日～2月28日	調査面積	1,337㎡	
調査概要		標高13m前後の安濃川と美濃屋川が形成した段高地上に立地した遺跡で、弥生時代中期中頃の方形周溝墓3基、弥生時代後期末～古墳時代前期末の溝、古墳時代前期後半～中期前半の大溝、中世の溝、江戸時代の溝が発見された。			
主な遺構		弥生時代中期中頃：方形周溝墓3基、弥生時代後期末～古墳時代前期末：溝、古墳時代前期後半～中期前半：大溝、中世：溝、江戸時代：溝			
主な遺物		弥生時代中期中頃：壺・甕、弥生時代後期末～古墳時代前期末：土師器壺・高杯、古墳時代前期後半～中期前半：土師器壺・高杯・須恵器器台、山茶碗、土師器鍋、江戸時代：瓦・陶器			
関連文献					
No	84	遺跡名	上野遺跡	台帳番号	213-132
所在地		久居市戸木町字上野	事業主体	日の出開発株式会社	
調査原因		(仮称)久居市戸木田地造成事業	費用負担	日の出開発株式会社	
調査機関		久居市教育委員会	担当者	辻富美雄	
調査期間		平成16年9月24日～平成17年3月28日	調査面積	51,024.9㎡	
調査概要		平成11年度から平成12年度にわたり発掘調査を実施し、その結果大きく遺跡が広がることが判明したため今回の調査を実施した。その結果、弥生時代の方形周溝墓、5世紀から6世紀にかけての竪穴住居で構成された集落跡、奈良時代の竪穴住居の集落跡が検出された。前回調査の中心となった竪立柱建物で構成された中世村落が発見されたが、今回の調査で集落の西端が確定されたことから中世村落の規模が確定できた。			
主な遺構		縄文時代：竪穴住居1、弥生時代：竪穴住居2・方形周溝墓7・円墳3、古墳時代：竪穴住居17、奈良時代：竪穴住居18、中世：竪立柱建物20			
主な遺物		調査での出土遺物：弥生土器、6世紀初頭：台付甕、須恵器環・甕、土師器、山茶碗			
関連文献		『上野遺跡発掘調査報告』久居市教育委員会2005			
No	85	遺跡名	多気北高氏遺跡第26次(北高氏館跡第12次)	台帳番号	406-146(26-20)
所在地		美杉村上多気字馬場	事業主体	美杉村	
調査原因		学術調査	費用負担	美杉村 〃	
調査機関		美杉村教育委員会	担当者	石淵誠人 小林俊之	
調査期間		平成16年10月26日～平成17年3月31日	調査面積	430㎡	
調査概要		昨年度に引き続き北高氏館跡の中心部と想定される地点の調査。16世紀中～後半と考えられる礎石建物跡を検出した。また大型の礎石を確認し、かなりの規模の建物があったことも判明した。出土遺物には青磁盤や古瀬戸製品の瓶や壺類など特殊空間を感じさせるものがある。また竪の小札も出土している。			
主な遺構		礎石建物跡1棟、竪立柱建物跡3棟、柱列2条、石列、土坑多数			
主な遺物		土師器皿・小皿(南伊勢系・京都系)、陶器四耳壺・梅瓶・燗台・大皿・天目茶碗、青磁盤・盤、鉄製品小札、銅銭多数			
関連文献		『多気北高氏遺跡発掘調査報告—北高氏館跡1～8—』美杉村教育委員会1997～2005/藤田達生編『伊勢国司北高氏の研究』吉川弘文館2004			

No	86	遺跡名	多気北高氏遺跡第27次(六田館跡第3次、上多気六田地区第2次)	台帳番号	406-144、136(26-18、19)
所在地	美杉村下多気字六田、上多気字六田		事業主体	美杉村	
調査原因	農道掘削舗装事業		費用負担	美杉村	
調査機関	美杉村教育委員会		担当者	石瀬誠人 小林俊之	
調査期間	平成16年10月8日～平成16年12月10日		調査面積	140㎡	
調査概要	北高氏の拠点都市多気の幹線道路と想定された地点の調査。調査区内では道路側溝や路面等の道路跡と断定できる遺構を検出することはできなかった。しかし、16世紀代の根石を持つ孤立柱建物跡を検出し、周辺地帯が中世後期にまでさかのぼることを確認した。また六田館跡では堀の南端を検出し、堀幅約8mであることを確認した。				
主な遺構	孤立柱建物跡1棟、溝3条、土坑2基、井戸1基、堀				
主な遺物	弥生土器、山茶碗、瓦器、土師器皿・小皿(南伊勢系)・銅、陶器天目茶碗、白磁皿、青花碗、鉄洋				
関連文献	『多気北高氏遺跡発掘調査報告一六田館跡1～2』美杉村教育委員会 2003・2005/藤田生編『伊勢国司北高氏の研究』吉川弘文館 2004				
No	87	遺跡名	伊勢寺遺跡	台帳番号	204-a274(2A-5)
所在地	松阪市曲町		事業主体	原因者(個人)	
調査原因	病院建設		費用負担	原因者(個人)	
調査機関	松阪市埋蔵文化財センター		担当者	和氣清章	
調査期間	平成17年3月20日～平成17年4月2日		調査面積	300㎡	
調査概要	奈良時代竪穴住居1棟、溝などが確認された。				
主な遺構	溝、竪穴住居				
主な遺物	土師器				
関連文献	『二 伊勢寺地区 5 伊勢寺遺跡』松阪市史 第二巻資料篇考古 松阪市史編さん委員会 1978				
No	88	遺跡名	新出遺跡	台帳番号	204-b14
所在地	松阪市嬉野下之庄町		事業主体	社会福祉法人 豊壽園	
調査原因	嬉野保育園新設工事		費用負担	社会福祉法人 豊壽園	
調査機関	嬉野町教育委員会		担当者	和氣清章	
調査期間	平成16年10月1日～平成16年10月30日		調査面積	200㎡	
調査概要	奈良時代の溝土坑などを確認				
主な遺構	土坑、溝				
主な遺物	土師器、須恵器				
関連文献	『嬉野町遺跡地区』嬉野町教育委員会 1988				
No	89	遺跡名	赤部遺跡	台帳番号	204-b42
所在地	松阪市嬉野新屋1丁目		事業主体	国土交通省中部地方整備局三重河内国道事務所	
調査原因	一般国道2号中勢道路建設事業		費用負担	国土交通省中部地方整備局	
調査機関	松阪市埋蔵文化財センター		担当者	森川常厚 寺嶋昭洋 安藤智之	
調査期間	平成16年5月18日～平成17年2月23日		調査面積	述べ7,000㎡	
調査概要	当遺跡は、豊出川の右岸に広がる沖積地に位置する。上層では古代から中世に至るまでの流路が認められ、下層では古墳時代前期の竪穴住居や摩多土坑、多くの流路を検出した。竪穴住居から出土した小型灰甕4点は、ほぼ完形で、いずれも腰際からの出土であり祭祀遺物として考えられる。また、土坑から出土した土器の中には体部穿孔土器などの特殊な遺物も含まれ、遺跡各所で祭祀を行った様子が見える。また、遠隔地との交流を裏付けるものとして北陸系土器などの出土もみられる。				
主な遺構	流路、竪穴住居、孤立柱建物、土坑				
主な遺物	弥生後期：甕 古墳時代：土師器高杯・壺・甕・器台、灰釉陶器、山皿				
関連文献	『一般国道2号中勢道路 赤部遺跡発掘調査概報Ⅱ』松阪市教育委員会 2005				
No	90	遺跡名	安養寺跡	台帳番号	442-523
所在地	明和町大字上野字寺屋敷435		事業主体	恩賜財団 済生会明和病院	
調査原因	給食棟建設および浄化槽の設置		費用負担	恩賜財団 済生会明和病院	
調査機関	明和町企画課課		担当者	中野教夫	
調査期間	平成16年4月5日～5月27日		調査面積	700㎡	
調査概要	安養寺は、1275(永仁5)年、大字上野字寺屋敷に創建されたもので、百間四方の境内の周りには堀が巡らされ、その中には多くの堂塔が立ち並ぶ大寺院であった。室町時代には北高氏によって厚く保護されていたが、1576(天正4)年北高氏の滅亡戦火で焼失したもので、平成11年度と平成15年度の調査で、寺域を区切る幅4～5m、深さ2mの堀を確認し、東西の寺域の規模は170mであることが判明し、橋脚跡や回廊跡、庫裏と思われる孤立柱建物などの遺構も確認されている。今回の調査は、寺域内の北東部に給食棟(A地区)を、寺域外の南東部に浄化槽(B地区)を建設するに伴い実施したものである。両地区とも寺の中心から外れている事もあり、検出遺構は溝が多量に確認されているが、安養寺に關係する瓦を中心に多くの遺物が出土している。				
主な遺構	A地区：奈良時代溝2 室町時代：井戸2基、土坑6、溝8、柱穴 B地区：奈良時代溝1 室町時代：溝3、土坑2				
主な遺物	奈良時代：土師器甕・銅、須恵器杯 室町時代：瓦、青磁、土師器皿・羽釜・皿、すり鉢、香炉、天目茶碗等				
関連文献	『明和町遺跡地区』明和町 1988				

No	91	道跡名	離宮院跡（離宮山道跡）	台帳番号	463-3
所在地	度会郡小侯町本町		事業主体	小侯町	
調査原因	町道32号線整備事業		費用負担	小侯町産業建設課	
調査機関	小侯町教育委員会		担当者	近藤淳子	
調査期間	平成16年8月2日～平成16年11月29日		調査面積	1,550㎡	
調査概要	当道跡は、宮川下流域左岸の供養台地東部に立地する。段丘裾には谷川が流れ、段丘上とはおよそ5mの比高を測る。今回の調査で検出された遺構は、出土遺物から富宮偏年の第II期第2～3段階に相当すると考えられる掘立柱建物2棟、土坑1基、溝2条がある。今回の調査対象となったJR宮川駅前駐車場は激しい削平や覆土を受けており以降の遺構状況はきまめて懸念した。				
主な遺構	掘立柱建物2棟、土坑1基、溝2条				
主な遺物	土師器（杯・椀・皿・甕・甔など）、須恵器、陶器（緑釉陶器、灰釉陶器）、磁器				
関連文献	『離宮院跡発掘調査報告』小侯町教育委員会1980、『離宮院跡（法楽町地区）発掘調査報告』小侯町教育委員会2000				
No	92	道跡名	鳥羽城跡	台帳番号	211-324
所在地	鳥羽市鳥羽3丁目1660-67		事業主体	鳥羽商工会議所	
調査原因	伊勢志摩快速道まちなみ空間創造事業		費用負担	鳥羽商工会議所	
調査機関	鳥羽市教育委員会		担当者	福川 浩 野村史隆 村上善雄 栗原智之	
調査期間	平成17年2月28日～平成17年3月31日(継続中)		調査面積	50㎡	
調査概要	中世末期、九鬼直盛によって築城されたといわれる鳥羽城は全国的にも唯一の「海城」であり、その鳥羽城を取り囲む石垣の実態を明らかにして、保存しようとするものである。調査は発掘地である旧鳥羽水原御跡地を古地図、古写真を参考に海に向かって発掘し、鳥羽城内と海とを区切る石垣の発見に努めた。平成17年2月28日に発掘を開始。同年6月6日より再開予定。				
主な遺構	近代(明治期)の建造物の土台の石列2棟分。明治から昭和30年代までのこの場所を埋めて使用してきた。				
主な遺物	埋土に混入した瓦片、染付磁器片、レンガ片、マンガン砕石、焼け土、酸化鉄片などが出土。点数は未整理を含め60点				
関連文献	『鳥羽城跡』鳥羽市史付図/『鳥羽城古蹟』鳥羽市史付図/『鳥羽城図』鳥羽小学校蔵				
No	93	道跡名	因史路上野城跡(12次)	台帳番号	216-a358
所在地	伊賀市上野丸之内(旧上野市)		事業主体	伊賀市教育委員会	
調査原因	保存整備のための学術調査		費用負担	伊賀市市	
調査機関	伊賀市教育委員会		担当者	松田久司	
調査期間	平成16年7月7日～平成17年3月22日		調査面積	約400㎡	
調査概要	城代家敷地の南東部(A地区 約100㎡)、南西部(B地区 約50㎡)、および屋敷建物の中央部の東側(C地区 約150㎡)、西側(D地区 約50㎡)、屋敷地北西部(E地区 約50㎡)において調査を進めた。長壽院付近と想定されるA地区の遺構は重複や高さの違いが見られ、何層も建て直されたことが窺われた。水堀跡南側になるB地区では南半分付近から落ち込みが検出され、南の郭は盛土により段落的に整地がおこなわれていたことが判明した。広間・縁廊・庭付近にあるC地区は表土直下に地中に到達する箇所もあるなど、遺構の重複と想像以上の土層からの影響がみられた。台所棟・西条舗上/間付近のD地区では遺構の重複は見られなかった。台所付近のE地区は平成14年調査で検出された石組溝の続きが見つかった。				
主な遺構	[A地区]石組列・根石列・礎石・石列、[B地区]石列、柱列・集石遺構・石組遺構・階段状遺構、[C地区]石列・根石・溝・地状遺構、[D地区]根石列・ピット、[E地区]石組溝・ピット				
主な遺物	瓦、[B地区]軒丸瓦・播磨土師器・土師器・天目茶碗・煙管の雁首・吸口、[D地区]引き手金物、尹の木片・陶器の皿				
関連文献	『因史路上野城跡(12次)発掘調査概要報告』『伊賀市文化財年報1』2005				
No	94	道跡名	沢代遺跡	台帳番号	216-f201
所在地	伊賀市阿保子沢代(旧青山町)		事業主体	伊賀県民局 建設部	
調査原因	主要地方道松坂取山線地方特定道路整備事業		費用負担	伊賀県民局 建設部	
調査機関	青山町教育委員会(～平成16年10月)、伊賀市教育委員会(平成16年11月～)		担当者	境 宏(～平成16年10月)、境 宏 福田典明(平成16年11月～)	
調査期間	平成16年6月5日～平成16年10月22日、追加調査平成16年11月19日～平成17年1月26日		調査面積	4,800㎡、追加調査670㎡	
調査概要	水資源機構川上ダム建設所建設に伴う平成5年度調査地点から西100mに位置する。古墳時代初期～中期の竪穴住居30棟以上、同時期と考えられる遺物を伴う方形土坑(祭祀遺構)、大量の土器を包含する自然流路、時期は下がるが石貼りが施された大溝を確認した。西面庇付大型建物の時期については今後の課題である。				
主な遺構	古墳・竪穴住居30棟(須尖屋あり)以上、掘立柱建物6棟以上、石貼り大溝、方形土坑(祭祀遺構)、西面庇付大型建物2棟、ピット、流路、奈良：竪穴住居4棟以上、掘立柱建物2棟以上、ピット、鎌倉、室町：掘立柱建物3棟、ピット				
主な遺物	土師器(甕・甔・小型丸底甕・高杯・ミニチュア土器)、須恵器(杯身)、円面鏡、墨書土器、古銭				
関連文献	『沢代遺跡(2次)現地説明会資料』青山町教育委員会2004.9.18/『沢代遺跡(2次)発掘調査報告』伊賀市教育委員会2005				
No	95	道跡名	川上宮垣内遺跡(2次)	台帳番号	216-f250
所在地	伊賀市川上宮垣内(旧青山町)		事業主体	独立行政法人水資源機構川上ダム建設所	
調査原因	川上ダム建設事業		費用負担	独立行政法人水資源機構川上ダム建設所	
調査機関	青山町教育委員会		担当者	水谷 豊	
調査期間	平成16年5月11日～平成16年9月24日		調査面積	270㎡	
調査概要	平成12年の範囲確認調査で確認したもので、近代の墓地改葬終了後調査を実施した。改葬に伴う掘削により、当初の遺構は大平が破壊されており、基礎と考えられる石積みを確認したのみである。				
主な遺構	石積み				
主な遺物	陶磁器、銅銭350枚(寛永通宝・北条銭・明銭など)以上、鉄銭100本以上、煙管50本以上、甕、五輪塔、石仏、石碑(五輪塔陽刻)、土師器皿、骨				
関連文献	『川上中郷手遺跡・川上宮垣内遺跡(2次)』『川上ダム建設事業地内埋蔵文化財発掘調査概報V』伊賀市教育委員会2005				



No	96	遺跡名	川上中縄手遺跡J地区	台帳番号	216-f251
所在地	伊賀市川上中縄手(旧青山町)			事業主体	独立行政法人水資源機構川上ダム建設所
調査原因	川上ダム建設事業			費用負担	独立行政法人水資源機構川上ダム建設所
調査機関	青山町教育委員会			担当者	水谷 豊
調査期間	平成16年5月11日～平成16年9月24日			調査面積	7.96㎡
調査概要	平成12年まで家屋が建っていた調査地である。家屋解体時の擾乱が激しくかろうじて畑地であった部分でピット及び土坑、井戸(水溜)を確認した。換出したピットから江戸以降近世の建物が3棟建つことが考えられる。また、土坑には常滑産の甕が正置状態で埋められているものもあった。				
主な遺構	江戸以降：建物3棟、ピット、土坑、井戸(水溜)、溝				
主な遺物	陶磁器				
関連文献	「川上中縄手遺跡・川上宮内遺跡(2次)」「川上ダム建設事業地内埋蔵文化財発掘調査概報V」伊賀市教育委員会2005				
No	97	遺跡名	青蓮寺壁	台帳番号	208-179
所在地	名張市青蓮寺字青木332番、333番			事業主体	事業者
調査原因	携帯電話無線基地局工作物建設			費用負担	事業者
調査機関	名張市教育委員会			担当者	門田了三
調査期間	平成16年8月16日～平成16年8月24日			調査面積	9.6㎡
調査概要	単部四方土塁の内部の調査。携帯電話の中継塔設置のための小規模な調査。				
主な遺構	土塁				
主な遺物	なし				
関連文献					

#### ④ 他機関担当分

※は、国・県費補助事業

No	98	遺跡名	久留信遺跡	台帳番号	202-74
所在地	四日市市大矢知町矢内谷			事業主体	三重大学
調査原因	学術調査			費用負担	三重大学
調査機関	三重大学人文学部考古学研究室			担当者	山中 章
調査期間	平成17年2月1日～平成17年3月10日			調査面積	約200㎡
調査概要	久留信遺跡の性格解明のための学術調査。				
主な遺構					
主な遺物					
関連文献					

## (2) 範囲確認調査

## ① 県（三重県埋蔵文化財センター）担当分

※は、国・県費補助事業

遺跡名(遺跡番号)	所在地	調査原因	費用負担者	調査対象面積(m <sup>2</sup> )	試掘面積(m <sup>2</sup> )	調査概要	保存対応
(仮) 柿遺跡・正治寺跡(343- )	三重郡朝日町	(一) 朝日中央線道路改良事業	県土整備部	1,000	16	遺構・遺物なし	施工可
菅原山間遺跡(202-147)	四日市市菅原町字山部	四日市中央高等学校電気実習棟等改修工事	県教育委員会	12	3	遺構・遺物なし	施工可
岩の谷遺跡(202-194)	四日市市河原田町	四日市農芸高等学校農場整備工事(機械設備・電気設備)	県教育委員会	190	18	遺構・遺物なし	施工可
岩の谷遺跡(202-194)	四日市市河原田町	四日市農芸高等学校グラウンド照明設置工事	県教育委員会	1,500	36	遺構・遺物なし	施工可
(仮) 畑田遺跡(207- )	鈴鹿市伊船町	一般国道306号線伊船バイパス整備事業	県土整備部	約10,000	40	遺構なし 遺物:山茶桶(13世紀代、ただし表土)	施工可
岡田遺跡(207-385)	鈴鹿市岡田町	鈴鹿川沿岸地区かんがい排水事業	農水商工部農業基盤室	450	10	遺構・遺物なし	施工可
石薬師古墳群(207- )	鈴鹿市石薬師町	石薬師高等学校昇降機及びバリアフリー改修工事	県教育委員会	120	7.5	遺構・遺物なし	施工可
八重垣神社遺跡(207-1174)	鈴鹿市十宮町	県営球場整備事業(川中南部地区)	農水商工部農業基盤室	210	65	遺構なし 遺物:土師器、須恵器、山茶桶	施工可
林崎遺跡(207-1178)	鈴鹿市林崎町	鈴鹿川沿岸2期地区 経営体育成基盤整備事業	農水商工部農業基盤室	640	22.5	遺構・遺物なし	施工可
上箕田遺跡(207-154)	鈴鹿市箕田町・南林崎町	鈴鹿川沿岸2期地区 経営体育成基盤整備事業	農水商工部農業基盤室	800	22	遺構・遺物なし	施工可
井出ノ上遺跡(213-212)	久居市木道町字井出ノ上	一般国道23号中勢道路建設事業	国土交通省	25,820	800	遺構:竪穴住居(伊又はカマドあり) 遺物:弥生土器、須恵器、土師器、陶器	要本調査 790m <sup>2</sup> 、その他施工可
赤坂遺跡(213-210)	久居市木道町字赤坂	一般国道23号中勢道路建設事業	国土交通省	30,620	1,192	遺構:竪穴住居、土坑、溝、ビット 遺物:弥生土器、須恵器、小型丸底器、土師器、瓦器、山茶桶、山皿、陶器、土鏡、土鏝	要本調査 28,850m <sup>2</sup> 、その他施工可
池新田遺跡(213-211)	久居市木道町字池新田	一般国道23号中勢道路建設事業	国土交通省	17,680	554	遺構:土坑、溝、ビット 遺物:須恵器、土師器、山茶桶、陶器	要本調査 2,600m <sup>2</sup> 、その他施工可
下之庄東方遺跡(204-b13)・西野田遺跡(204-b249)	松阪市嶺下町	三重県科学技術振興センター畜産研究部施設整備事業	三重県科学技術振興センター畜産研究部	199,984	1,540	遺構:竪穴住居、土坑、溝、ビット 遺物:土師器(杯)ほか	要本調査 104,050m <sup>2</sup> 、 要範囲確認調査23,116m <sup>2</sup> その他施工可
下之庄東方遺跡(204-b13)・西野田遺跡(204-b249)	松阪市嶺下町	三重県科学技術振興センター畜産研究部施設整備事業	三重県科学技術振興センター畜産研究部			遺構・遺物なし	
筋違遺跡(204-a7285)	松阪市嶺下町字筋違	一般国道23号中勢道路建設事業	国土交通省	9,000	1,912	発生前期上層:水田畦畔、溝3条、断面で畝状の高まり 発生前期下層:断面で畝状の高まり 発生前〜古墳時代:竪穴住居1棟・溝10条・方形周溝墓・溝・盛土、古墳前期:擬似畦畔・竪穴住居1棟、古墳中期:溝1条、古墳時代:盛土、中世前期:溝1条	要本調査 9,000m <sup>2</sup> (3面調査)
甘子遺跡(204-a790 [8A-26])	松阪市上川町字甘子	一般国道42号松阪多気バイパス建設事業	国土交通省	2,360	150	遺構:ビット 遺物:土師器、須恵器、陶器(天目茶桶・山茶桶)ほか	要本調査 400m <sup>2</sup> 、 その他施工可
豊原西町遺跡(204-a新規発見)	松阪市豊原町字西町	(主) 鳥羽松阪線(郷田橋)道路改良事業	県土整備部	約500	18	遺構:落ち込み 遺物:須恵器(奈良時代)	一部要協議、 その他施工可
古樽通りB遺跡(204-a651 [18A-4])	松阪市早馬瀬町	(主) 鳥羽松阪線(郷田橋)道路改良事業	県土整備部	1,200	16	遺構・遺物なし	一部要協議、 その他施工可
岸本遺跡(204-c33)	松阪市飯高町森字岸本	(一) 蒲城線建設事業	県土整備部	7,000	88	遺構:溝、土坑 遺物:縄文土器、土師器	要本調査 2,000m <sup>2</sup> その他施工可
(仮) 七日市大田(204-c登録不要)	松阪市飯高町七日市大田	(一) 蒲城線建設事業	県土整備部	5,000	109	遺構なし 遺物:縄文土器、土師器、陶器	施工可
辰ノ口2号墳(442-507)	多気郡明和町金剛坂字辰ノ口	(一) 多気停車場西明線緊急地方道路整備事業	県土整備部	220	30	遺構・遺物なし	要範囲確認調査80m <sup>2</sup> 、 その他施工可

遺跡名(遺跡番号)	所在地	調査原因	費用負担者	調査対象面積(m <sup>2</sup> )	試掘面積(m <sup>2</sup> )	調査概要	保存対応
野田遺跡(442-)	多気郡明和町大字池村字白塚見	国営宮川用水第二期土地改良事業	農林水産省東海農政局宮川第二期農業水利事業所	2,226	96	遺構なし 遺物：土師器(皿)、須恵器、陶器(山茶碗・天目茶碗)	一部要協議、その他施工可
生洲遺跡(442-)	多気郡明和町大字池村字生洲	国営宮川用水第二期土地改良事業	農林水産省東海農政局宮川第二期農業水利事業所	7,569	128	遺構なし 遺物：土師器(皿・甕・甗)、須恵器(蓋)、陶器(山茶碗・天目茶碗)	一部要協議、その他施工可
黒柱遺跡(442-)	多気郡明和町大字池村字黒柱	国営宮川用水第二期土地改良事業	農林水産省東海農政局宮川第二期農業水利事業所	6,495	288	遺構なし 遺物：土師器(皿・甗)、須恵器、陶器(山茶碗・鉢鉢・青磁碗)	施工可
大谷遺跡(461-)	度会郡玉城町大字上田辺字不動	国営宮川用水第二期土地改良事業	農林水産省東海農政局宮川第二期農業水利事業所	22,729	896	遺構なし 遺物：弥生土器(甕・甗)、土師器(小皿・皿・椀・甗・甗)、ロクロ土師器(小皿・椀・台付椀)、陶器(山茶碗・常滑産甗・青磁碗)	要本調査5,730㎡、一部要範囲確認調査、その他施工可
(仮) 此ヶ上遺跡(471-a 登録不要)	度会郡大紀町打見	(主)伊勢大宮線県単道路改良工事	県土整備部	47	15	遺構なし 遺物：土師器(中世)	施工可
(仮) 上三本松遺跡(468 登録不要)	度会郡御園村高向	林業山高向線道路緊急地方道路整備事業	県土整備部	8,750	80	遺構なし 遺物：土師器(中世)、陶器(中世)	施工可
宮ノ前遺跡・宮ノ前館跡(206-971・1221)	伊賀市坂本	一般河川(飯沼川)県単河川局改事業	県土整備部	1,560	24	遺構なし 遺物：五輪塔空風輪(近世?)、ただし表土)	施工可
狭間B遺跡(216-a 登録不要)	伊賀市才良	伊賀水道用水供給事業内径300mm送水管敷設工事(南ルート第3工区)	企業庁	60	4.8	遺構・遺物なし	施工可

② 市町村担当分

※は、国・県費補助事業

遺跡名(遺跡番号)	所在地	調査原因	費用負担者	調査対象面積(m <sup>2</sup> )	試掘面積(m <sup>2</sup> )	調査概要	保存対応
南石仏遺跡(旧称金井城主墓地遺跡)(214b-27)	いなべ市員弁町南石仏	宅地造成	事業者	2,000	100	ピット1、中世陶器(壺)	工事立会
下小原古墳群隣接地(214c-49～60、135～140)	いなべ市大安町中央ヶ丘	個人住宅建築	いなべ市	668	45	竪穴住居、縄文土器	工事立会
寺跡遺跡(205a-130)隣接地	桑名市大福391番地	寺跡遺跡の範囲確認	桑名市	3,800	110	開発予定地に7ヶ所のトレンチ。無遺物層まで掘り下げた。中世の遺物包含層をすべてのトレンチで確認。	駐車場にするが地表より1mの改良のため遺構に影響なし。
桑名城下町遺跡(205a-99)隣接地	桑名市矢田福201	桑名城下町遺跡の範囲確認	桑名市	3,590.59	11.5	開発予定地に2ヶ所のトレンチ。無遺物層まで掘り下げた。中世の遺物包含層を確認。遺物：土師器皿、伊勢型銅、瓦等が出土したが、銅片が少量であった。	遺物包含層が確認されたが、銅はきわめて薄く、遺物の出土も少量だったため施工可とした。
西谷遺跡(205b-63)	桑名市多度町小山谷西谷	消防署建設	多度町教育委員会	3,913.69	約54	遺物・遺構なし	施工可
天王平遺跡(205b-57)	桑名市多度町小山谷天王平2158他	温泉掘削用地	多度町教育委員会	1,138	約83	遺物極少量・遺構なし	施工可
茂福城跡(202-253)	四日市市茂福町	宅地造成	事業者	2,006	24	塚の埋土と認められる層から完形の土師器皿(室町時代)1点、板状加工された木製品2点が出土。	要本調査75㎡
羽津広遺跡(202-336)	四日市市大字羽津	店舗建設	事業者	1,156	32	遺構・遺物なし	施工可
間ノ田遺跡(202-68)	四日市市広永町	宅地造成	事業者	1,424	50	遺構・遺物なし	施工可
鐘撞遺跡(202-439)	四日市市大鐘町	道路改良	事業者	1,400	32	遺構・遺物なし	施工可
貝野遺跡(202-124)	四日市市東城部町	宅地造成	事業者	4,076	82	柱穴と考えられる遺構から土師器・須恵器(奈良時代)が出土。	要本調査100㎡
下之宮遺跡(202-512)	四日市市下之宮町	宅地造成	事業者	957	31	遺構・遺物なし	施工可

## 市町村担当分 範囲確認調査

道跡名(道跡番号)	所在地	調査原因	費用負担者	調査対象面積(m <sup>2</sup> )	試掘面積(m <sup>2</sup> )	調査概要	保存対応
名谷A道跡(343- )	三重郡朝日町大字小向字名谷	国庫補助事業	朝日町※	1,700	100	登窯、萬古焼	要本調査
山畑古墳群1号墳、2号墳(343- )	三重郡朝日町大字小向字山畑	土地区画整理事業	朝日町※	315	32	遺構・遺物なし	施行可
名谷B道跡(343- )	三重郡朝日町大字小向字名谷	国庫補助事業	朝日町※	1,200	40	登窯、萬古焼	設計変更による現状保存
三宅神社道跡(207-495)	鈴鹿市国府町字貝下1637番1	個人住宅	鈴鹿市※	370	30	遺構あり・遺物あり	工法変更
長者屋敷道跡(207-363)	鈴鹿市広瀬町中土居1288番1	農業用倉庫建設	鈴鹿市※	297	8	遺構・遺物なし	施工可
原水道跡(207-239)	鈴鹿市南若松町397-1	個人住宅	鈴鹿市※	551	6	遺構・遺物なし	施工可
北嶺越道跡(207-521)	鈴鹿市若野町字北嶺腰2550-13外13筆	保健施設等	鈴鹿市※	7,315	23	遺構・遺物なし	施工可
西川道跡(207-675)	鈴鹿市郡山町野口795-1	宅地造成	鈴鹿市※	1,600	36	遺構あり・遺物あり	施工可
梅田道跡(204-1244)	鈴鹿市国府町字治家3261番2	個人住宅	鈴鹿市※	287	6	遺構なし・遺物あり	施工可
西ノ野道跡(204-160)	鈴鹿市国府町字西ノ野16番21	個人住宅	鈴鹿市※	385	9	遺構・遺物なし	施工可
早道跡(207-538)	鈴鹿市木田町字里2541-2	個人住宅	鈴鹿市※	280	4	遺構・遺物なし	施工可
早道跡(207-538)	鈴鹿市木田町字里2547-2	個人住宅	鈴鹿市※	280	14	遺構あり・遺物あり	要本調査
竹野一丁目道跡(207-1138)	鈴鹿市竹野一丁目647	宅地造成	鈴鹿市※	1,600	60	遺構・遺物なし	施工可
因分道跡(207-838)	鈴鹿市因分町1284番	個人住宅	鈴鹿市※	40	4	遺構・遺物なし	施工可
竹野一丁目道跡(207-1138)	鈴鹿市竹野一丁目2番1	宅地造成	鈴鹿市※	1,915	120	遺構あり・遺物あり	要本調査
石薬師東道跡(204-727)	鈴鹿市石薬師町字寺東452番63	個人住宅	鈴鹿市※	300	6	遺構・遺物なし	施工可
須賀道跡(207-166)	鈴鹿市須賀三丁目288番	宅地造成	鈴鹿市※	1,384	46	遺構あり・遺物あり	要本調査
石薬師東道跡(207-727)	鈴鹿市石薬師町字山起571番地93	個人住宅	鈴鹿市※	300	6	遺構・遺物なし	施工可
国府城跡(207-368)	鈴鹿市国府町字貝下長之城1725-5	個人住宅	鈴鹿市※	70	8	遺構あり・遺物あり	要本調査
須賀道跡(207-166)	鈴鹿市矢橋三丁目284,285	宅地造成	鈴鹿市※	3,138	35	遺構なし・遺物あり	施工可
竹野一丁目道跡(207-1138)	鈴鹿市竹野一丁目7番1	集合住宅	鈴鹿市※	290	26	遺構・遺物なし	施工可
北若松道跡(207-237)	鈴鹿市若松北三丁目8-14	個人住宅	鈴鹿市※	200	1	遺構・遺物なし	施工可
加佐登道跡(207-7)	鈴鹿市加佐登一丁目2557-1	個人住宅	鈴鹿市※	280	10	遺構あり・遺物あり	保護措置
原水道跡(207-239)	鈴鹿市南若松町字岡崎3058-1	宅地造成	鈴鹿市※	850	15	遺構なし・遺物あり	施工可
因分北道跡(207-838)	鈴鹿市因分町字野田623-2	工場建設	鈴鹿市※	1,020	30	遺構あり・遺物あり	協議
石丸野道跡(207-387)	鈴鹿市平野町字石丸7713-10	個人住宅	鈴鹿市※	495	9	石丸野古墳の周溝遺物なし	保護措置
三日市南道跡(207-1160)	鈴鹿市三日市町字赤土田1029	集合住宅	鈴鹿市※	630	42	遺構・遺物なし	施工可
壇塚道跡(207-1171)	鈴鹿市伊勢町字北上ノ新ノ字東壇塚地内	開発事業	原因者(事業者)	142,448	50	遺構・遺物なし	施工可
萱町道跡(207-958)	鈴鹿市神戸八丁目325,325-1	宅地造成	原因者(事業者)	2,909	70	遺構あり・遺物あり	要本調査
三宅神社西道跡(207-495)	鈴鹿市国府町字貝下1601番、1602番の一部	個人住宅	鈴鹿市※	58	58	遺構あり・遺物あり	要本調査
白鳥塚1号墳(207-102)	鈴鹿市石薬師町字北松塚3153-4 外	開発事業	鈴鹿市※	30	30	遺構あり・遺物なし	県との協議
古城跡(210-a137)	亀山市川崎町字野畑	共同住宅建設	亀山市	540	34	以前建てていた建物によりすでに破壊。遺構・遺物なし。	施行可
亀山城跡(210-a200)	亀山市西町字西町	共同住宅建設	亀山市	1,005	26	現地表1.5m下で外堀層を確認。遺物なし。	施行可
西里の上道跡(201-483)	津市高茶屋5丁目	集合住宅建設	個人	472	4	遺構・遺物なし	施行可
山の脇道跡(201-1)	津市一身田豊野	福祉施設建設	社会福祉法人白壽会	10,180	262	聖穴住居?大溝?弥生土器・土師器・須恵器	要本調査 1,770ml
中産道跡(201-477)	津市大里窪田町	大里小学校校舎・校庭改修	津市	15,160	86	ビット・溝土師器・須恵器・軸式系土器・山茶碗	要本発掘調査 工法等について協議中
東相野道跡(384-674)	安芸郡安曇町大字草生	工場建設	中部エンジニアリングサ・ビス(株)	1,759.22	4	メケ所試掘坑を設けたが、顕著な遺構は見られなかった。	施工可

## 市町村担当分 範囲確認調査

遺跡名(遺跡番号)	所在地	調査原因	費用負担者	調査対象面積(m <sup>2</sup> )	試掘面積(m <sup>2</sup> )	調査概要	保存対応
小野江・基目遺跡(204-c3)	松阪市小野江町	宅地造成	原因者	2,984	16	遺構・遺物なし	施工可
小野江・基目遺跡(204-c3)	松阪市基目町	共同住宅新築工事	原因者	1,408	8	遺構・遺物なし	施工可
小野江・基目遺跡(204-c3)	松阪市肥留町	宅地造成	原因者	789	8	遺構なし・土師器	施工可
小野江・基目遺跡(204-c3)	松阪市小野江町	共同住宅新築工事	※	3,466	50	溝柱穴・土師器	施工可
松本権現前遺跡(204-c8)	松阪市曾原町	宅地造成	原因者	608	8	遺構・遺物なし	施工可
松本権現前遺跡(204-c8)	松阪市中林町	共同住宅新築工事	原因者	1,068	8	遺構・遺物なし	施工可
松本権現前遺跡(204-c8)	松阪市肥留町	知的障害者グループホーム工事	原因者	2,308	8	遺構・遺物なし	施工可
西肥留遺跡(204-c6)	松阪市肥留町・基目町	道路改良	三雲町	3,208	16	遺構・遺物なし	施工可
中林・中道遺跡(204-c14)	松阪市曾原町	共同住宅新築工事	原因者	4,730	32	遺構なし・土師器	施工可
中林・中道遺跡(204-c14)	松阪市中林町	宅地造成	原因者	2,246	32	遺構なし・土師器	施工可
中林・中道遺跡(204-c14)	松阪市中林町	宅地造成	原因者	1,556	24	遺構・遺物なし	施工可
大西代遺跡(204-c15)	松阪市曾原町	共同住宅新築工事	原因者	70	8	遺構・遺物なし	施工可
曾原遺跡(204-c16)	松阪市曾原町	道路改良	三雲町	3,802	6	遺構・遺物なし	施工可
井之尻・長井遺跡(204-c38)	松阪市久米町	遊技場建築工事	原因者	21,686	8	遺構・遺物なし	施工可
井之尻・長井遺跡(204-c38)	松阪市市場住町	宅地造成	原因者	958	8	遺構なし・土師器	施工可
八田城跡(204-b174)	松阪市婿野八田町	公園整備	※	20,000	24	土壇・遺物なし	
太白遺跡(204-b344)	松阪市婿野釜生田町	公園整備	※	14,280	300	土坑・縄文土器	
御堂山遺跡(204-a503[16A-11])	松阪市西野々町	砂利採取	原因者	7,057	16	遺構・遺物なし	施工可
伊勢寺遺跡(204-a274[2A-5])	松阪市伊勢寺町	店舗建設	原因者	2,402	15	遺構・遺物なし	施工可
福町遺跡(204-a646[5A-1])隣接地(登録不設)	松阪市朝田町	砂利採取	原因者	13,000	16	遺構・遺物なし	施工可
粥鍋遺跡(204-a716[7A-6])	松阪市川井町	宅地造成	原因者	1,327	15	弥生時代後期の竇や高杯が出土した。遺構は検出しなかった。	盛土後施工可
万所遺跡(203-228)	伊勢市辻久留	アパート建設	個人	906.21	14.88	遺構・遺物なし	施工可
中ノ尾B遺跡(203-221)	伊勢市前山町	道路改良工事	伊勢市	500	18	遺構・遺物なし	施工可
荘遺跡(462-32)	度会郡二見町大字任字井新田314-1	宅地造成	事業者	2,172.18	90.04	遺構なし・土師器・山茶梗少量	施工可
野中遺跡(462-19)	度会郡二見町大字西1004-111	下水道工事	二見町	396.612	112	遺構なし・土師器小片	施工可
龍宮院跡(463-3)	度会郡小俣町本町341番地58	町道32号線整備工事	度会郡小俣町	4,318	161	柱穴・土坑・溝土師器・須恵器・灰輪陶器	要発掘調査1,430㎡他は施工可
上野城下町遺跡(216-a358)	伊賀市上野相生町	共同住宅建設	事業者	1,890.47	51.5	遺構・遺物なし	施工可
北之谷1号墳(216-a103)	伊賀市一之宮	進入道建設	事業者	170	11.7	遺構なし・埴輪片・土師器細片、各一点出土	施工可
上野城下町遺跡(216-a358)	伊賀市上野相生町	浄化槽設置	事業者	8	8.4	遺構なし・土師器皿出土	施工可
塔の家古墳群(216-a46、47、48)	伊賀市土橋	三重県防災通信ネットワーク整備工事	事業者	225	5.3	厩溝	施工可
米野氏城跡(216-e223)	伊賀市平田	西保育園建設工事	大山田村	7,321	176	大溝	要協議
成川遺跡(562-14)	南牟婁郡紀宝町成川	小学校屋内運動場建築	紀宝町教育委員会	1,600	68	縄文土器片、土師器片、中世陶器片	施工可

## (3) 工事立会

## ① 県（三重県埋蔵文化財センター）担当分

※は、国・県費補助事業

遺跡名(遺跡番号)	所在地	調査原因	費用負担者	立会調査面積(m <sup>2</sup> )	調査概要
上之郷田尻川河床遺跡(205b-30)	桑名市多度町上之郷	揖斐川上之郷護岸工事	国土交通省	45,840	
長尾古墳(207-715)	鈴鹿市稲生町8232-1	稲生グラウンド改修工事	県教育委員会	8.4	遺構・遺物なし
林給遺跡(207-1178)	鈴鹿市箕田町	鈴鹿川沿岸2期地区経営体育成基整備事業	北勢県民局四日市農政商工部	130	遺構なし、土師器
南山遺跡(201-797)	津市高茶屋小森町	一般国道23号中勢道路建設事業地内耕作物撤去工事	国土交通省	6	遺構・遺物なし
和差野遺跡(404-12)	一志郡白山町二本木	中勢沿岸流域下水道(松阪処理区)二本木幹線工事	津地方県民局津下水道部	240	遺構・遺物なし
小津遺跡(204-c21)	松阪市小津町	一般国道23号中勢道路建設事業地内町道ガス管撤去工事	国土交通省	5	遺構・遺物なし
筋違遺跡(204-b285)	松阪市嬉野新屋庄町	一般国道23号中勢道路嬉野交差点改良工事	国土交通省	23	遺構・遺物なし

## ② 市町村担当分

※は、国・県費補助事業

遺跡名(遺跡番号)	所在地	調査原因	費用負担者	立会調査面積(m <sup>2</sup> )	調査概要
能部南貝戸遺跡(205-a112)	桑名市東正和台8番12、大字能部字南海渡1166番3	個人住宅	桑名市	74	掘削が遺構面まで到達せず
桑名城下町遺跡 新屋敷147地点(205-a99)	桑名市新屋敷147番地	住宅建設	桑名市	573.89	調査杭のため影響なし
桑名城下町遺跡 外堀64地点(205-a99)	桑名市外堀64番地	個人住宅	桑名市	90.73	柱状改良時の立会 遺構・遺物なし
桑名城下町遺跡 新屋敷18、21-3地点(205-a99)	桑名市新屋敷18、21-3	個人住宅	桑名市	31.35	地表面より0.7mまで地盤改良。深目土層より近世陶磁器出土。
桑名城下町遺跡 伝馬町107地点(205-a99)	桑名市伝馬町107番地	個人住宅	桑名市	87.5	調査杭のため影響なし
桑名城下町遺跡 新町7地点(205-a99)	桑名市新町7番地	電柱	桑名市	0.75(直径50cm)	遺構・遺物確認できず
桑名城下町遺跡 新屋敷70地点(205-a99)	桑名市新屋敷70番地	個人住宅	桑名市	1階面積74	ベタ基礎部分は地表面から0.45m掘削。表土層中のため影響なし。遺構・遺物確認されず。
桑名城下町遺跡 相生町12-2地点(205-a99)	桑名市相生町12-2番地	個人住宅	桑名市	51.8	地表面より0.5mを地盤改良。すべて掘削内であったため影響なし。
桑名城下町遺跡 三之丸33-1地点(205-a99)	桑名市三之丸33-1番地	個人住宅	桑名市	1階面積59.4	ベタ基礎部分は地表面から0.25mの掘削。盛土内のため影響なし。遺構・遺物確認されず。
桑名城下町遺跡 西瀬谷町125地点(205-a99)	桑名市西瀬谷町125番地	個人住宅増築	桑名市	36.47	地表面より1.3mを地盤改良。外堀の跡と考慮していたが、最下層に遺物包含層である灰褐色粘質土層を確認。
桑名城下町遺跡 片町34地点(205-a99)	桑名市片町34番地	個人住宅	桑名市	1階面積54.03	調査杭のため影響なし
桑名城下町遺跡 柳原97-2地点(205-a99)	桑名市柳原97-2番地	個人住宅	桑名市	1階面積60.03	柱状改良時の立会 遺構・遺物確認できず
桑名城下町遺跡 三崎通51地点(205-a99)	桑名市三崎通51番地	個人住宅	桑名市	1階面積68.11	地表面より0.7mを地盤改良。すべて掘削内。
桑名城下町遺跡 北魚町30地点(205-a99)	桑名市北魚町30番地	個人住宅	桑名市	1階面積88.16	地盤改良なし。布基礎部分は掘削内みの掘削。
笠松遺跡(205-a新発見)	桑名市大字笠木289-12	浄化槽	桑名市	6	地表面より1.5mで遺物包含層と同一の土層を検出したが遺物は出土せず。
太白堂遺跡(205-a68)	桑名市赤尾松ヶ坪2088	きのこ栽培農業用施設	桑名市	1,458	擁壁工事の際に立会。地表面より0.25mの掘削。遺構・遺物確認されず。
桑名城下町遺跡 京町17-2地点(205-a99)	桑名市京町17-2番地	店舗付住宅	桑名市	1階面積33.11	ベタ基礎部分は地表面から0.3mの掘削。すべて掘削内であり遺構・遺物確認されず。
真直遺跡(205-a)	桑名市東野真直82-2番地	個人住宅	桑名市	1階面積66.67	ベタ基礎部分は地表面から0.3mの掘削。盛土内のため影響なし。遺構・遺物確認されず。
江場貝戸遺跡(205-a131)隣接地	桑名市江場長折488番地	携帯電話無線基地局	桑名市	200	掘削深度は地表面より4m。地表面より2mよりまでは客土。遺構・遺物なし。

遺跡名(遺跡番号)	所在地	調査原因	費用負担者	立会調査面積(m <sup>2</sup> )	調査概要
西山遺跡(205-a30)	桑名市下深谷部地内	電柱	桑名市	0.5(直径40cm)	地表面より1.5mで貝殻の沖積層。遺物なし。
桑名城下町遺跡 江戸町38地点(205-a99)	桑名市江戸町38番地	個人住宅	桑名市	直径60cm柱状改良	戦災を受けた遺物(焼瓦等)が地表面に散布。遺構は確認できず。
桑名城下町遺跡 江場地先(205-a99)	桑名市江場	電柱	桑名市	0.38(直径35cm)	遺構・遺物なし
桑名城下町遺跡 三崎通31地点(205-a99)	桑名市三崎通31番地	個人住宅	桑名市	1階面積38.94	布基礎部分は地表面から0.46m掘削。表土層中のため影響なし。鋼管杭の部分も影響なし。遺構・遺物確認されず。
天王平遺跡(205-b57)	桑名郡多度町小山字尾津平1805-8	個人住宅	多度町教育委員会	330.57	遺物少量・遺構なし
小判田遺跡(202-332)	四日市市芝田二丁目	下水管布設	事業者	40	遺構・遺物なし
平戸山遺跡(202-283)	四日市市青葉町	駐車場整備	事業者	300	遺構・遺物なし
佐倉城跡(202-278)	四日市市桜町	下水管布設	事業者	35	遺構・遺物なし
間ノ田遺跡(202-68)	四日市市広永町	上下水道管理設	事業者	5	遺構・遺物なし
貝野遺跡(202-124)	四日市市西坂部町	個人住宅	事業者	142	遺構・遺物なし
下之宮遺跡(202-512)	四日市市下之宮町	宅地造成	事業者	43	遺構・遺物なし
羽津城跡(202-336)	四日市市城山町	個人住宅	事業者	26	遺構・遺物なし
大講寺跡(202-89)	四日市市南いかるが町	下水管布設	事業者	326	遺構・遺物なし
浜田城跡(202-291)	四日市市安島	ガス管布設	事業者	50	遺構・遺物なし
浄裕遺跡(202-154)	四日市市中川原三丁目	個人住宅	事業者	1,245	遺構・遺物なし
茂福城跡(202-253)	四日市市茂福町	建物解体	事業者	240	遺構・遺物なし
貝野遺跡(202-124)	四日市市西坂部町	個人住宅	事業者	400	遺構・遺物なし
大矢知山畑遺跡(202-76)	四日市市大矢知町	個人住宅	事業者	173	遺構・遺物なし
北中寺遺跡(202-156)	四日市市石塚町	個人住宅	事業者	300	遺構・遺物なし
富田城跡(202-322)	四日市市富田一丁目	道路創備工事	事業者	30	遺構・遺物なし
赤堀城跡(202-290)	四日市市城東町	共同住宅	事業者	748	土師器皿片・須恵器・鉄釘出土
海皇学園内遺跡(202-189)	四日市市追分一丁目	下水管布設	事業者	226	遺構・遺物なし
吉祥寺遺跡(202-153)	四日市市久保田一丁目	下水管布設	事業者	69	遺構・遺物なし
北平子遺跡(202-565)	四日市市桜町	水道事業	事業者	293	遺構・遺物なし
下之宮遺跡(202-512)	四日市市下之宮町	共同住宅	事業者	873	遺構・遺物なし
貝野遺跡(202-124)	四日市市西坂部町	下水管布設	事業者	140	遺構・遺物なし
雲天遺跡(202-71)	四日市市大矢知町	下水管布設	事業者	383	遺構の可能性もある遺物包含層確認。弥生中期以降の土器多数出土。弥生中期～後期の遺跡が良好に残存していることが判明。
浜田城跡(202-291)	四日市市九の城町	建物解体	事業者	103	遺構・遺物なし
鈴原遺跡(202-460)	四日市市桜町	下水管布設	事業者	6	遺構・遺物なし
永井遺跡(202-137)	四日市市尾平町	下水管布設	事業者	406	遺構・遺物なし
小宮遺跡(202-514)	四日市市大字茂福	道路舗装付帯工事	事業者	100	遺構・遺物なし
上里遺跡(202-152)	四日市市久保田二丁目	排水路改良工事	事業者	6	遺構・遺物なし
四日市代官所跡(202-447)	四日市市北町	ガス管布設	事業者	18	遺構・遺物なし
宮ノ前遺跡(202-288) 隣接地	四日市市芝田一丁目	共同住宅	事業者	130	土師器甕・瓦、ロクロ土師器片が出土
下之宮南遺跡(202-513)	四日市市下之宮町	雨水路改良工事	事業者	120	遺構・遺物なし
宮の西遺跡(202-155)	四日市市中川原二丁目	宅地造成	事業者	40	遺構・遺物なし
西ヶ谷遺跡(202-126)	四日市市東坂部町	個人住宅	事業者	231	遺構・遺物なし
北中寺遺跡(202-156)	四日市市赤堀三丁目	造成・店舗工事	事業者	2,588	遺構・遺物なし
宮の西遺跡(202-155)	四日市市中川原二丁目	下水管布設	事業者	200	遺構・遺物なし
宮ノ前遺跡(202-288)	四日市市中川原二丁目	下水管布設	事業者	20	遺構・遺物なし
浄裕遺跡(202-154)	四日市市伊倉一丁目	下水管布設	事業者	65	遺構・遺物なし
四方天遺跡(202-496)	四日市市大矢知町	共同住宅	事業者	892	遺構・遺物なし
三本松遺跡(202-362)	四日市市水沢町	道路創備工事	事業者	7	遺構・遺物なし
下之宮南遺跡(202-513)	四日市市志町・下之宮町	下水管布設	事業者	300	遺構・遺物なし
永井遺跡(202-137)	四日市市尾平町	建物解体	事業者	256	遺物包含層確認
庚申塚遺跡(202-136)	四日市市生桑町	個人住宅	事業者	538	遺構・遺物なし
四方天遺跡(202-496) 隣接地	四日市市大矢知町	上下水道管理設	事業者	61	遺構・遺物なし

道跡名(道跡番号)	所在地	調査原因	費用負担者	立会調査面積(m <sup>2</sup> )	調査概要
八反縄道跡(202-70)隣接地	四日市市大矢知町	宅地造成	事業者	995	遺構・遺物なし
国分西道跡(207-837)	鈴鹿市国分町字東高木167-6、167-8	社宅新築	原因者(個人)	703	遺構・遺物なし
沢道跡(207-554)	鈴鹿市西條町字城之西461番1	個人住宅	原因者(事業者)	216	遺構・遺物なし
須賀道跡(207-166)	鈴鹿市須賀一丁目5-11	個人住宅	原因者(個人)	168	遺構・遺物なし
大門道跡(207-599)	鈴鹿市秋永町字大門2028	個人住宅	原因者(事業者)	314	遺構・遺物なし
部道跡(207-729)	鈴鹿市山辺町1055番地	社会福祉施設	原因者(事業者)	8,955	遺構・遺物なし
南山C道跡(207-1003)	鈴鹿市石薬師町字南山2632-5	個人住宅	原因者(個人)	810	遺構・遺物なし
北若松道跡(207-237)	鈴鹿市北若松町392-6	個人住宅	原因者(個人)	172	遺構・遺物なし
岸岡山三道跡(207-238)	鈴鹿市岸岡町	個人住宅	原因者(個人)	114	遺構・遺物なし
西ノ野道跡(207-160)	鈴鹿市国府町字西ノ野8227-3	個人住宅	原因者(個人)	119	遺構・遺物なし
西川道跡(207-675)	鈴鹿市郡山町下北野田	農地転用	原因者(個人)	1,500	遺構あり・遺物あり
神戸本多町道跡(207-416)	鈴鹿市神戸五丁目916-3	道路側溝工事	原因者(鈴鹿市)	30	遺構なし・遺物なし
天王屋敷道跡(207-364)	鈴鹿市岸岡町字石塚1251外	宅地造成	原因者(事業者)	3,200	遺構なし・遺物なし
白子代官所跡(207-1283)	鈴鹿市白子一丁目6125-70	個人住宅	原因者(個人)	200	遺構なし・遺物なし
稲生道道跡(207-1320)	鈴鹿市末広町字稲生道1番19	個人住宅	原因者(個人)	230	遺構なし・遺物なし
須賀道跡(207-166)	鈴鹿市矢橋三丁目284、285	宅地造成	原因者(事業者)	3,138	遺構なし・遺物なし
一番割道跡(207-958)	鈴鹿市伊船町地内	集落排水事業	原因者(鈴鹿市)	70	遺構なし・遺物なし
神戸道跡(207-1043)	鈴鹿市小社町地内	集落排水事業	原因者(鈴鹿市)	70	遺構なし・遺物なし
西川道跡(207-675)	鈴鹿市郡山町野口795-1	宅地造成	原因者(事業者)	1,600	遺構なし・遺物なし
国分北道跡(207-837)	鈴鹿市国分町地内	集落排水事業	原因者(鈴鹿市)	158	遺構なし・遺物なし
地塚道跡(207-1171)	鈴鹿市伊船町字北上ノ割・字東塚地内	開発事業	原因者(事業者)	142,448	遺構なし・遺物なし
国分西道跡(207-837)	鈴鹿市国分町地内	道路側溝工事	原因者(鈴鹿市)	79	遺構なし・遺物なし
国分道跡(207-838)	鈴鹿市国分町字北塚1301番1号の一部	個人住宅	原因者(個人)・一部鈴鹿市	310	遺構あり・遺物なし
西川道跡(207-675)	鈴鹿市郡山町野口824-7	個人住宅	原因者(事業者)	215	遺構なし・遺物なし
起A道跡(207-713)	鈴鹿市飯野寺町字起691-2、691-3	個人住宅	原因者(事業者)	717	遺構なし・遺物なし
赤鷲道跡(207-598)	鈴鹿市秋永町1678	個人住宅	原因者(個人)	93	遺構なし・遺物なし
岡田南道跡(207-1181)	鈴鹿市岡田一丁目26-11	個人住宅	原因者(個人)	173	遺構なし・遺物なし
三日市東道跡(207-1158)	鈴鹿市三日市一丁目399-2	個人住宅	原因者(個人)	210	遺構なし・遺物なし
北若松道跡(207-237)	鈴鹿市若松北三丁目338番	個人住宅	原因者(個人)	144	遺構なし・遺物なし
北若松道跡(207-237)	鈴鹿市若松北三丁目350番5	個人住宅	原因者(個人)	165	遺構なし・遺物なし
大門道跡(207-599)	鈴鹿市秋永町字大門2133番	個人住宅	原因者(個人)	505	遺構なし・遺物なし
徳田28号窯跡(207-413)	鈴鹿市三宅町字上松3210番地 外122番	に9・10建設	原因者(事業者)	199,184	遺構なし・遺物なし
筆城跡(210-a136)	亀山市川崎町字筆城	市道建設	亀山市	30	土原状の高まりが存在したが、断面観察の結果耕作に伴うものと判明。
御幣立道跡(210-a224)	亀山市川崎町字御幣立	分譲宅地造成	事業者	2	事業地は能登野王塚古墳に近い。近現代の陶磁器破片が出土。
地蔵僧道跡(210-a146)	亀山市川崎町字地蔵僧	事務所新築	事業者	8	事業地は昭和51・52年の発掘地点に近接するが遺構・遺物なし。
平子道跡(210-a251)	亀山市小下町	住宅建築	個人	300	現況は休耕田。現地表面下40cmで青灰色粘土層になる。常滑すり鉢1点出土。
飯ノ北永定道跡(登録不要)(201- )	津市白塚町字北永定	診療所建設	個人	240	遺構・遺物なし
平木道跡(201-599)	津市大字平田字平木	畑地造成	個人	8	遺構・遺物なし
里前道跡(201-761)	津市大字野田字東浦	電柱設置	中部電力㈱	遺構・遺物なし	
大古曾道跡(201-11)	津市一身田大古曾字山ノ口	電柱設置	中部電力㈱	遺構・遺物なし	
安濃津道跡群(201-832)隣接地(登録不要)	津市橋山津興	個人住宅	個人	10	遺構・遺物なし
中虎道跡(201-477)隣接地(登録不要)	津市大里産田町字中虎	個人住宅	個人	浄化槽部分のみ	遺構・遺物なし



遺跡名(遺跡番号)	所在地	調査原因	費用負担者	立会調査面積(m <sup>2</sup> )	調査概要
前ヶ谷遺跡(201-112)	津市一身田大古曾字 前ヶ谷	電柱設置	中部電力㈱		遺構・遺物なし
垂水A遺跡(201-482)	津市大字垂水	電柱設置	中部電力㈱		遺構・遺物なし
柱遺跡(384- )	安芸郡安濃町大字安濃	電柱建替え	中部電力(株)津営業所	1	電柱・柱支線の穴掘り時に立ち会う。
上野B遺跡(384- )	安芸郡安濃町大字田端上野	電柱建替え	中部電力(株)津営業所	1	電柱・柱支線の穴掘り時に立ち会う。
柱遺跡(384- )	安芸郡安濃町大字安濃	電柱建替え	中部電力(株)津営業所	1	電柱・柱支線の穴掘り時に立ち会う。
多倉田遺跡(384-534)	安芸郡安濃町大字川西	電柱建替え	中部電力(株)津営業所	1	電柱・柱支線の穴掘り時に立ち会う。
川南遺跡(384- )	安芸郡安濃町大字戸島	電柱建替え	中部電力(株)津営業所	1	電柱・柱支線の穴掘り時に立ち会う。
平塚B2号墳(384-660)	安芸郡安濃町大字戸島	電柱建替え	中部電力(株)津営業所	1	電柱・柱支線の穴掘り時に立ち会う。
平塚遺跡(384-662)	安芸郡安濃町大字戸島	電柱建替え	中部電力(株)津営業所	1	電柱・柱支線の穴掘り時に立ち会う。
井坪遺跡(384- )	安芸郡安濃町大字南神山	電柱建替え	中部電力(株)津営業所	1	電柱・柱支線の穴掘り時に立ち会う。
石名田遺跡(384- )	安芸郡安濃町大字内多	電柱建替え	中部電力(株)津営業所	1	電柱・柱支線の穴掘り時に立ち会う。
内多馬場A遺跡(384-578)	安芸郡安濃町大字内多	電柱建替え	中部電力(株)津営業所	1	電柱・柱支線の穴掘り時に立ち会う。
關ノ宮遺跡(404-54)	一志郡白山町大字川口	個人住宅		20	地下遺構に影響なし
關ノ宮遺跡(404-54)	一志郡白山町大字川口	倉庫建設		60	地下遺構に影響なし
多気北高氏遺跡(町屋地区)(406-150〔26-24〕)	一志郡美杉村上多気	電柱支線の埋設	中部電力株式会社	0.6	遺構・遺物なし
多気北高氏遺跡〔上沖B地区〕(406-155〔26-29〕)	一志郡美杉村上多気字市場	電柱建柱	中部電力株式会社	0.6	遺構・遺物なし
南瀬古遺跡(406-72)	一志郡美杉村八知老ヶ野地内	電柱建柱・支線の埋設	中部電力株式会社	2.4	遺構・遺物なし
南瀬古遺跡(406-72)	一志郡美杉村八知老ヶ野地内	電柱建柱	中部電力株式会社	0.6	遺構・遺物なし
西浦遺跡(442-243)	多気郡明和町大字行部字西浦	無線基地局電気通信設備新設	明和町	25	遺構・遺物なし
比村遺跡(461-221)・市本遺跡(461-222)隣接地(登録不履)	度会郡玉城町玉川	医院建設	原因者(個人)	約100	遺構・遺物なし
上野城下町遺跡(206-a1230)	伊賀市上野丸之内	鉄骨建造物建設	事業者		遺構・遺物なし

## 1 文化庁通知「文化財保護法の一部を改正する法律等の施行について」

16庁財第320号  
平成16年12月27日

各都道府県知事  
各都道府県教育委員会  
各指定都市市長  
各指定都市教育委員会  
各中核市市長  
各中核市教育委員会  
文化庁関係各独立行政法人の長

文化庁次長  
加茂川 幸夫

このたびの法改正は、以上のような主要な事項を含めて法律合体にわたる大規模なものであり、その実施運用にあたっては、以下の事項をご了知の上、漏網のないよう措置されたいとともに、関係機関及び域内の市(区)町村等に対して趣旨の徹底方につきよろしくお取り計らい願います。

なお、このたびの法改正等に伴う文部科学省令及び告示の整備等については、追って通知いたします。

### 記

#### 一省 略一

第8 その他  
1 施行期日

改正法及び整備政令の施行期日は、平成17年4月1日とすることとしたこと(改正法附則第1条及び整備政令附則第1条)。

#### 一中 略一

4 文化財保護法の本文の括番号の整理に伴う規定の整備

改正法において、文化財保護法の本文の括番号の整理を行ったことに伴い、当該変更があった条番号を引用している関係法律について、所要の規定の整備を行うこととしたこと(改正法附則第2条～第15条関係)。

また、当該変更があった条番号を引用している関係政令についても、所要の規定の整備を行うこととしたこと(整備政令第2条～第5条、第7条～第9条、第11条～第15条及び第17条関係)。

(注) 各地方公共団体の文化財保護に係る条例等において、文化財保護法の改正により変更が生ずることとなる条番号を引用している場合には、当該条例等の改正が必要であることに留意されたい。(参考資料を参照のこと)。

文化財保護法の一部を改正する法律等の施行について(通知)

文化財保護法の一部を改正する法律(以下「改正法」という。)(別紙1)が、第159回国会において成立し、平成16年5月28日、法律第61号をもって公布され、平成17年4月1日から施行されることとなりました。また、これに伴い、文化財保護法の一部を改正する法律の施行に伴う関係政令の整備に関する政令(以下「整備政令」という。)(別紙2)が、平成16年12月27日、政令第422号をもって公布され、平成17年4月1日から施行されることとなりました。

このたびの法改正は、平成14年12月に閣議決定された「文化芸術の振興に関する基本的な方針」や文化審議会の各中等における指針を踏まえ、社会の変化に対応した文化財保護の展開を目指して、国民の生活に密接に関連した文化的遺産を新たな保護対象分野としていくとともに、近世の文化財など保存及び活用のための措置が特に必要とされる分野へ対し、文化財保護手法の多様化を図っていくものであり、その主要な点は次のとおりです。

- 1 文化の普及の保護制度を設けたこと。
- 2 長谷文化財の定義に民間技術を新たに追加したこと。
- 3 建造物以外の有形文化財、有形の民俗文化財及び記念物にも登録制度を拡充したこと。

〔文化財保護法新旧対照表（埋蔵文化財関連部分のみ）〕

改正前	改正後
第4章 埋蔵文化財	第6章 埋蔵文化財
第57条	第92条
第57条の2	第93条
第57条の3	第94条
第57条の4	第95条
第57条の5	第96条
第57条の6	第97条
第58条	第98条
第58条の2	第99条
第59条	第100条
第60条	第101条
第61条	第102条
第62条	第103条
第63条	第104条
第63条の2	第105条
第64条	第106条
第64条の2	第107条
第65条	第108条
第6章 補則	第12章 補則
第104条	第189条
第105条	第190条
第105条の2	第191条
第7章 罰則	第13章 罰則
第107条の3	第197条
第107条の4	第198条
第107条の5	第199条
第110条	第202条
第111条	第203条

## 2 文化法通知「国立大学等の法人化に伴う埋蔵文化財に關する手続きの変更について」

15財記念第99号  
平成16年 3月25日

国立大学文化財財務担当課長  
各大学共同利用機関文化財事務担当課長  
各国立高等専門学校文化財事務担当課長  
各都道府県教育委員会文化財担当課長

殿

文化庁文化財部記念館課長  
永山 眞久

国立大学等の法人化に伴う埋蔵文化財に關する手続きの変更について（通知）

このたび、国立大学法人法（平成15年法律第112号）及び独立行政法人国立高等専門学校機構法（平成15年法律第113号）の施行に伴い、文化財保護法（昭和25年法律第214号）（以下「法」という。）第四章に定める埋蔵文化財の取扱いに關し、国立大学、大学共同利用機関及び国立高等専門学校に對する国の機関としての特別措置が適用されることになることとなります。

したがって、平成16年4月1日（以下「成立日」という。）以降、埋蔵文化財に關する手続き等が下記のとおり変更されることとなりますので、十分御了解の上、遺漏のないようにお取り計らいください。

記

1. 土木工事等の発掘に關する届出  
土木工事その他埋蔵文化財の調査以外の目的で得知の埋蔵文化財包蔵地を發掘しようとする場合は、都道府県又は指定都市の教育委員会に60日前までに届出を行うこと。（法第57条の2）
2. 遺跡の発見に關する手続き  
埋蔵文化財の調査以外の場合で遺跡と認められるものを發見したときは、都道府県又は指定都市の教育委員会に、遅滞なく届出を行うこと。（法第57条の5）

### 3. 所有者不明の出土文化財の所有権帰属

（1）法第63条第1項の規定により成立日より前に国庫に帰属した文化財は、成立日に当該文化財を保有する国立大学法人、大学共同利用機関法人又は独立行政法人国立高等専門学校機構に承継されること。

（2）（1）以外の文化財で、成立日より前に国立大学、大学共同利用機関又は国立高等専門学校が発見し、警察官法に差し出したものうち、成立日以後所有者が判明しなかつたものの所有権は、発見等に係る国立大学法人、大学共同利用機関法人又は独立行政法人国立高等専門学校機構に帰属すること。

（3）発掘により発見された（1）及び（2）以外の文化財で、所有者が判明しないもの所有権は、当該文化財の発見された土地を管轄する都道府県に帰属すること。（法第63条の2）

（注）上記1及び2に關し、法に規定する文化庁長官の権限に屬する事務は、文化財保護法施行令（昭和59年政令第267号）第5条第2項の規定により、都道府県又は指定都市の教育委員会が行うこととなっている。

### 3 文化庁通知「市町村合併に伴う文化財保護法に基づく届出等について」

事務連絡  
平成16年10月12日

別紙

市町村合併に伴う重要文化財等にかかる手続について

各都道府県教育委員会文化財行政担当者 殿

1. 市町村合併に伴う国指定重要文化財等の所有者又は管理責任者の名称又は住所の変更等について（文化財保護法第32条及び第34条）

市町村合併に伴う文化財保護法に基づく届出等について

標記については、各方面からの問い合わせを数多くいただいておりますが、このたび、別紙のとおりとりまとめました。  
今後は、これに基づき手続を進めていただきますよう、よろしくお願いいたします。

#### 1. 重要文化財

##### (1) 市町村が重要文化財の所有者の場合

市町村合併に伴い市町村名が変更になった場合には、重要文化財の所有者が変更されたものとして、文化財保護法（以下「法」という。）第32条第1項の規定による「所有者の変更」手続を行うことが必要である。

また、市町村合併により旧A市が新A市となる場合（市町村名が変更にならない場合）には同手続を行う必要がなく、当該合併により市町村名が変更となる市町村が所有者である重要文化財について手続を行うのがよい。ただし、前者の場合において、市役所等の移転に伴い市町村の所在地が変更となるときは、法第32条第3項の規定による住所変更の手続が必要である。

なお、同手続は、「国史、重要文化財又は重要有形民俗文化財の管理に関する届出書等に関する規則（昭和26年文化財保護委員会規則第1号）」（以下「規則」という。）第3条に規定する事項を記載した一覧表等によって行うことで差し支えない。

（注）同条第2項の「所有権の移転を証明する書類」とは、合併に関する官報告示と解する。  
（参考）「市町村の廃置分合の場合の国史・市町村の管理事務の引継等について」（昭和30年国史院第41号の2文化財保護委員会事務局長通知）では、市町村合併により新たに国指定文化財の所有者となった市町村は、法第32条第1項の規定による所有者変更の届出を行う必要があるとしている。この場合、同条第3項の規定による名称及び住所等の変更の届出の場合には該当しないとされているが、第34条等の「所在の変更」とは文化財そのものの所在を変更した場合であって、町村合併によって単に行政市町村の名称が変更になった場合は届出を要しないものとしている。また、管理団体の事務所、資産分割によって新たに生じた市町村が引継ぎ手続の有無にかかわらず自動的に引継ぎを了したものは継承するもの、としている。

#### 4 文化庁通知「行政目的で行う理蔵文化財調査の標準について」

の、としている。

(2) 住民が重要文化財の所有者の場合

① 住民が合併する市町村の住民である場合

住民が重要文化財を所蔵しているときに、居住する市町村に合併があり、市町村名が変更になった場合には、所有者の住所表示が変更されることとなるが、これは市町村合併に伴う住所表示の変更であり、法第32条第3項に規定する「所有者が住所を変更したとき」には当たらない。

② 住民が合併する市町村以外の住民である場合

住民が重要文化財を所有しているときに、居住する市町村には合併がないが、所有する重要文化財が所在する市町村に合併があり、市町村名が変更になった場合には、重要文化財の所在の場所の住所表示が変更されることとなるが、これは市町村合併に伴う住所表示の変更であり、法第34条に規定する「所有者が重要文化財の所在の場所を変更しようとするとき」には当たらない。

したがって、同条に規定する「重要文化財の所在の場所の変更の届出」手続は不要である。

#### 2. 重要文化財以外の文化財

重要文化財以外の文化財等についても、同様の解釈による。

(参考)

		市町村		市区	
		(注) 合併時		(注) 合併時	
項目	住所表示の変更 第 32 条第 1 項 (注 36 条第 1 項)	所有者の住所の変更 (注 32 条第 3 項) (注 33 条第 3 項)	所有権の移転の変更 (注 32 条第 3 項) (注 33 条第 3 項)	住所表示の変更 (注 31 条) (注 34 条)	住所表示の変更 (注 31 条) (注 34 条)
重要文化財	要	不要	不要	不要	不要
有形民俗文化財	要	不要	不要	要	要
無形民俗文化財	要	不要	不要	要	要
有形民俗文化財 の保存に関する 記録	要	不要	不要	要	要
歴史的建造物	要	不要	不要	要	要
文書	要	不要	不要	要	要
図画	要	不要	不要	要	要
彫刻	要	不要	不要	要	要
考古学的資料	要	不要	不要	要	要
その他の文化財	要	不要	不要	要	要

(注) 市役所等の移転に伴い、市町村の所在場所が変更となる場合の対応。

#### 行政目的で行う理蔵文化財調査の標準について (通知)

文化庁では、平成6年10月に「理蔵文化財発掘調査体制等に関する調査研究委員会」を設け、理蔵文化庁行政に関する基本的な事項について調査研究を行い、これまで、出土品の取扱い、理蔵文化財の判断基準等及び発掘調査の積算標準等に関する報告がなされておられます。各地方公共団体においては、これらの報告の趣旨を踏まえ、都道府県基準の策定等、所要の業務が実施されており、大きな成果が上げられているところです。

このたびは調査研究委員会から、別添のとおり「行政目的で行う理蔵文化財の調査についての標準」について報告を受けました。行政目的で行う発掘調査には、現状のまま保存を図ることができない理蔵文化財について、その記録を作成するため、記録保存のための発掘調査のほか、記録の保存・活用のために行う発掘調査等があります。理蔵文化財の適切な保護管理を講じるためには、発掘調査の目的と対象とする遺跡に、その内容や方法が適切でなければなりません。こうしたことから、同報告では、求められる理蔵文化財の調査の内容や方法のあり方について、標準として示しています。

また、同報告では、各都道府県において、記録保存の指示等の事務執行における基本的指針として、「基準」を定める必要があるとされており、各都道府県において、各地域における遺跡の特性等を考慮し、都道府県や地域ブロック単位でその内容をご検討いただきまますようお願いいたします。なお、従前の各都道府県の積算標準と本標準に基づいた積算標準とが異なる場合には、都道府県において従前の基準との差を認めるようお願いします。

については、同報告の趣旨を十分にご知の上、調査の標準を策定し、適切な理蔵文化財行政を推進するようお願いいたします。

また、域内の市町村教育委員会に対しては同報告の周知を図るとともに、調査の基準が十分に活用されるようご配慮願います。

## 5 「史跡等の現状変更の権限委譲及び現状変更の事務処理について」

管理のための計画（管理計画）策定にあたっての留意事項

事 務 連 絡  
平成16年12月28日

各都道府県教育委員会文化財行政主管課 御中

- 1 総論
- 1 管理計画とは
- (1) 趣旨

### 文化庁文化財部記念物課

史跡等の現状変更の権限委譲及び現状変更の事務処理について

内閣に設置されております地域何生本部が定めた基本方針に基づき、地域何生類型の第2次提案を募集したところ（平成16年6月1日～30日）、史跡等の現状変更の許可について、都道府県教育委員会又は市教育委員会への権限委譲を促進する観点から、「管理のための計画」（文化財保護法施行令第5条第4項第1号ヌ）を定めた都道府県教育委員会又は市教育委員会からの申出を受けて、文化庁長官がその適用区域を指定するための基準を明確にするよう要望を受けました。

これを踏まえ、別紙のとおり、「管理のための計画（管理計画）策定にあたっての留意事項」を送付しますので、事務の参考にしてください。

また、史跡等の現状変更の許可については、迅速に対応するよう要望を受けましたので、貴教育委員会におかれましては、申請書類を受領した後、意見を具して文化庁へ送達するまでの処理期間を可能な限り短縮するよう努めていただきますようお願いいたします。文化庁としても、都道府県教育委員会と連携しながら、事務処理のより一層の迅速化に努めますこととします。

### (2) 保存管理計画とその関係

- a 保存計画で定める現状変更等の許可の基準（許可基準）は、保存管理計画で定めている現状変更等の最低限の基準（保存管理基準等）と基本的に同じです。
- b ただし、管理計画は、保存管理計画には策定する意図・趣旨において異なる。管理計画は、あくまで権限委譲のために策定するものであり、現状変更許可・不許可のルールを定める限定的な役割しか持たない。管理計画が定められても既策定の保存管理計画は有効であり、管理計画とより包括的な計画である保存管理計画とが並立して、それぞれ役割を有することとなる。
- c 管理計画の策定者は、実際にそれを適用して現状変更等の許可等の事務を行うものでなければならぬため、政令上、権限委譲を受け都道府県又は市の教育委員会と定められている。これに対して、保存管理計画の策定者は、当該史跡名勝天然記念物の管理団体となっている教育委員会等、保存・管理が適切に行えるものであればよく、特別の定めもない。
- d その結果、管理計画と保存管理計画の策定者が異なる場合があり得るが、それ自体は問題がない。ただし、管理計画の許可基準を策定する際には、保存管理計画ですらに定められている許可基準と齟齬や矛盾が生じないように配慮する必要がある。
- e 保存管理計画が未策定の史跡名勝天然記念物についても、法律上は、管理計画を定めれば権限委譲が可能である。遺憾のないことが確認されている人家密集地等現状変更の申請件数は多いが史跡名勝天然記念物に対する影響がほとんどない区域では、保存管理計画がなくても権限委譲を行うこととしてよい。

権限委譲の際に、保存管理計画が尚残っていると先に先立って策定されることが望ましい。

## 2 手 続

管理計画の策定から実際の権限委譲までの手続は次のとおりである。  
(現況調査・市の教育委員会)



文化財保護法施行令第5条第4項第1号ヲ特  
別指定区域として指定する規定  
特別指定区域の許可手続に関する規程第6  
条

## 3 申出書類

(1) 文化庁長官への指定区域の申出には、次の書類が必要である。

- 1 申出書
- 2 管理計画
- 3 許可の基準の通用区域を示す図面【一般縦覧用】
- 4 (必要に応じ) 参考図【官報掲載用】
- 5 (必要に応じ) 関係資料

(2) 申出書

- a 申出書(おもて紙)は、文化庁長官宛に、指定区域の申出を行う都道府県・市の教育委員会教  
育長名で作成する。
- b 標題は、当該史跡名勝天然記念物の名称と文化財保護法施行令第5条第4項第1号アの指定  
区域の申出であることが一目でわかるように記す。

【例】史跡○○○に関する文化財保護法施行令第5条第4項第1号アの指定区域の申出について

- a 本文には、申出の理由等を簡潔に記す。

【例】(申出者が都道府県の場合)】

史跡○○○につき、別紙のとおり、文化財保護法施行令第5条第4項第1号アの管理のため  
の計画(○○○管理計画)を定めました。

ついで、○○○管理計画の通用区域である○○町及び××村の一部における同号アの指定区  
域の指定について申し上げます。

(3) 管理計画

- a 管理計画は、申出の日より前に、又は同日付けで、権限委譲を受けようとする教育委員会が定  
めておく必要がある。

(以下略)



## 6 県知事通知「三重県文化財保護条例等の一部を改正する条約」

三重県文化財保護条例等の一部を改正する条例をここに公布します。  
平成十七年三月二十八日

三重県条例第二十九号

三重県文化財保護条例等の一部を改正する条例

三重県知事 野呂昭彦

- (一) 三重県文化財保護条例の一部を改正する条例  
第一條 三重県文化財保護条例(昭和三十一年三重県条例第十七号)の一部を次のように改正する。  
第二十一條第一項及び第二十三條第五項中「第五十六條の三項」を「第二十一條」に改める。  
第二十七條第一項及び第二十八條第五項中「第五十六條の十項」を「第十八條」に改める。  
第三十五條第一項及び第三十五條第二項中「第六十九條第一項」を「第九九條第一項」に改める。  
第四十四條第一項及び第四十五條第四項中「第八十三條の七項」を「第四十七條第一項」に改める。  
第四十八條第一項中「第五十五條の二」を「第九十三條」に、「第九十七條の三」を「第九四條」に改める。  
第四十九條第一項及び第五十五條第一項及び第三項中「第六十三條の二項」を「第一百零二條」に改める。  
第五十一條中「第五十八條第五項」を「第九十九條第五項」に改める。  
(二) 三重県風致地区内における建築物等の規制に関する条例(昭和四十五年三重県条例第十七号)の一部を次のように改正する。  
別表第四第二項中「第五十六條の十項」を「第七十八條第一項」に、「第五十七條第一項」を「第九十二條第一項」に、「第六十九條第一項」を「第九九條第一項」に、「第七十條第一項」を「第一百零二條第一項」に改める。

(三) 三重県文化財保護審議会の設置(一部改正)

第一條 三重県文化財保護審議会(昭和五十一年三重県条例第十号)の一部を次のように改正する。

第一條中「第四十五條」を「第九十條」に改める。

附則

この条例は、平成十七年四月一日から施行する。

## 7 教育長通知「三重県文化財保護条例施行規則の一部を改正する規則」

三重県文化財保護条例施行規則の一部を改正する規則をここに公布します。  
平成十七年三月二十八日

三重県教育委員会令第二十一号

三重県文化財保護条例施行規則の一部を改正する規則

三重県教育委員長 竹下 誠

- 三重県文化財保護条例施行規則(昭和四十一年三重県教育委員会規則第十号)の一部を次のように改正する。  
第六條(第二項)第三号中「博物館法」を「博物館法(昭和十六年法律第百八十四号)」に改める。  
別表第一の(一)項中「文化財保護法及同法施行令」を「文化財保護法(昭和十六年法律第百八十四号)以下「法」といふ。及び同法施行令(昭和五十九年政令第百六十七号)」に改める。  
別表第一の(二)の項中「第八十條第三項」を「第二百十五條第三項」に改める。  
別表第一の(三)の項中「第五十六條の十六」を「第八十五條」に改める。  
別表第一の(四)の項中「第九十五條第五項」を「第七十五條第五項」に改める。  
別表第一の(一六)の項中「第五十七條第一項」を「第九十一條第一項」に改める。  
別表第一の(一七)の項中「第五十七條第三項」を「第九十一條第三項」に改める。  
別表第一の(一八)の項中「第五十七條の三項」を「第九十四條第三項」に改める。  
別表第一の(一九)の項中「第五十七條の三項」を「第九十四條第四項」に改める。  
別表第一の(二〇)の項中「第五十七條の五項」を「第九十六條第一項」に改める。  
別表第一の(二一)の項中「第五十七條の五項」を「第九十六條第二項」に改める。  
別表第一の(二二)の項中「第五十七條の五項」を「第九十六條第三項」に改める。  
別表第一の(二三)の項中「第五十七條の五項」を「第九十六條第四項」に改める。  
別表第一の(二四)の項中「第五十七條の五項」を「第九十六條第五項」に改める。  
別表第一の(二五)の項中「第五十七條の五項」を「第九十六條第七項」に改める。  
別表第一の(二六)の項中「第五十七條の五項」を「第九十六條第八項」に改める。  
別表第一の(二七)の項中「第五十七條の六項」を「第九十七條第一項」に改める。  
別表第一の(二八)の項中「第五十七條の六項」を「第九十七條第二項」に改める。  
別表第一の(二九)の項中「第五十七條の六項」を「第九十七條第三項」に改める。  
別表第一の(三〇)の項中「第五十七條の六項」を「第九十七條第四項」に改める。  
別表第一の(三一)の項中「第五十八條の二」を「第九十九條」に改める。  
別表第一の(三二)の項中「第八十條第一項」を「第一百五十五條第一項」に改める。  
別表第一の(三三)の項中「第八十二條」を「第一百零二條」に、「第九十五條第五項」を「第一百七十七條第五項」に改める。

第二十七号様式及び第二十八号様式中「文化財保護法(昭和十六年法律第百八十四号)以下「法」といふ。」を「文化財保護法(昭和十六年法律第百八十四号)以下「法」と改める。

第二十九号様式中「第九十條」を「第九十條」に改める。

附則

この規則は、平成十七年四月一日から施行する。

## 8 県内埋蔵文化財数

教育事務所	散布地	古墳	寺社跡	城館跡	古窯跡	その他	計
北勢	1,139	1,361	54	199	64	81	2,898
中勢	833	1,795	43	130	30	55	2,886
松阪	754	1,169	51	75	32	18	2,099
南勢志摩	708	794	21	108	14	235	1,880
上野	533	1,505	266	599	28	181	3,112
尾鷲	43	4	0	19	1	7	74
熊野	99	0	1	64	0	2	166
合計	4,109	6,628	436	1,194	169	579	13,115

平成17年3月31日現在

9 県・市町村別の発掘調査件数及び面積の実績

年度	三重県発掘文化センター担当										市町村担当										合計							
	農林水産 関係		県土 整備関係		県関係 その他		国土 交通多 関係		道路公 関係		国・公 関係 その他		小計		考古歴史 関係 担当		その他 関係 担当		市町村担当									
	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	土地改 良等	道路・ 河川等		ゴルフ 場	団地・ 個人住宅 造成地	工場 造成地	土取り 等	その他	小計	他機関 担当
平成 元年度	106	43,445.00	3	0.00	10	40,408.00	9	0.00	128	21	0	0.00	128	21	0	0.00	3	12	12	13	4	3	15	3	15	51	0	200
平成 2年度	61	8,696.00	15	2	7	10	6	95	111	0	0.00	124,867.00	11,471.00	0.00	1,800.00	15,900.00	3,400.00	3,000.00	30,500.00	6,800.00	2	20	10	5	13	68	0	174
平成 3年度	67	43,765.00	8,696.00	1	10	2	0	110	8	0	0.00	103,271.00	5,697.00	0.00	16,900.00	19,700.00	3,500.00	27,900.00	15,400.00	8,000.00	17	3	28	109	0	212	0	178,822.00
平成 4年度	59	29,210.00	7,388.00	8	17,485.00	0.00	0.00	65,288.00	5,531.00	0.00	13,700.00	10,100.00	10,200.00	51,800.00	12,400.00	0.00	0.00	15,400.00	45,200.00	5,000.00	17	3	35	101	0	230	0	154,965.00
平成 5年度	63	26,178.00	10,507.00	1,436.00	21,384.00	0.00	0.00	59,505.00	4,760.00	0.00	15,200.00	13,300.00	0.00	20,000.00	22,000.00	200.00	20,000.00	22,000.00	2,000.00	29	7	3	35	101	0	253	0	150,062.00
平成 6年度	75	32,256.00	11,475.00	2,000.00	31,178.00	0.00	0.00	77,225.00	3,770.00	0.00	24,347.00	8,651.00	0.00	13,788.00	830.00	440.00	20,511.00	68,567.00	0.00	31	3	8	37	103	0	259	0	140,612.00
平成 7年度	69	12,369.00	8,249.00	13	17	0	2	148	5	0	9	15	0	29	6	4	43	106	0	29	6	4	43	106	0	259	0	179,512.00
平成 8年度	70	15,293.00	19,252.00	18,176.00	30,054.00	160.00	0.00	82,935.00	3,986.00	0.09	21,293.00	7,669.00	0.00	43,038.00	842.00	1,325.00	19,324.00	92,591.00	0.00	157	3	6	40	239	0	431	0	187,394.00
平成 9年度	37	21,709.00	34,383.00	6,193.00	18,601.00	2,637.00	3,345.00	86,868.00	4,155.00	0.00	34,484.00	34,810.00	0.00	11,157.00	124.00	322.00	13,396.00	94,293.00	0.00	31	2	9	72	219	0	370	0	165,916.00
平成 10年度	30	19,088.00	36,400.00	2,558.00	9,241.00	26,771.00	3,677.00	97,735.00	2,025.00	48.00	5,123.00	18,432.00	0.00	29,527.00	5,605.00	5,788.00	23,111.00	87,586.00	0.00	114	4	5	99	256	0	413	0	163,943.00
平成 11年度	31	16,158.00	30,587.00	8,204.00	3,484.00	43,452.00	1,643.00	103,528.00	3,622.00	0.00	14,449.00	11,030.00	0.00	12,317.00	3,844.00	802.00	14,351.00	56,793.00	0.00	106	7	3	53	213	0	363	0	163,943.00
平成 12年度	21	11,775.00	16,845.00	0.00	14,150.00	40,871.00	2,168.00	85,809.00	2,115.00	0.00	12,104.00	14,379.00	0.00	62,810.00	4,153.00	3,230.00	35,215.00	117,602.00	0.00	98	6	4	120	238	0	370	0	205,526.00
平成 13年度	24	12,404.00	31,259.00	529.00	11,790.00	6,331.50	760.00	63,013.60	3,349.50	0.00	8,837.00	13,679.90	0.00	18,062.50	391.00	361.00	21,606.40	49,257.90	0.00	26	6	11	96	236	0	365	0	115,021.00
平成 14年度	26	13,836.00	20,568.00	1,412.00	9,644.00	534.00	70.00	46,064.00	2,007.00	0.00	7,040.00	48,017.20	0.00	13,859.50	292.00	407.00	14,431.00	84,046.70	0.00	85	5	7	41	207	0	310	0	132,117.00
平成 15年度	23	10,554.89	17,701.35	667.00	9,527.46	0.00	0.00	38,450.70	2,586.30	0.00	5,070.00	44,399.60	0.00	10,323.07	4,789.17	394.00	27,149.88	92,125.52	0.00	91	12	5	72	220	0	315	0	133,162.52
平成 16年度	12	14,673.50	11,224.00	1,617.70	58,422.00	0.00	1,408.00	87,345.26	3,345.86	0.00	1,508.00	25,001.70	0.00	79,921.93	1,492.00	32.00	388,906.03	476,461.66	200.00	135	3	2	90	260	1	341	0	567,752.66

## VI 付録

### 1 埋蔵文化財教職員研修

[平成17年度 実施要項]

#### 平成17年度 埋蔵文化財教職員研修実施要項

##### 1 目的

三重県の公立学校の教職員において、埋蔵文化財の発掘調査及び保存についての専門的知識と技術の習得に務めようとする者を対象として、三重県埋蔵文化財センターにおいて研修を実施することにより、埋蔵文化財保護行政の強化に資することを目的とする。

##### 2 主催

三重県教育委員会

##### 3 担当

三重県埋蔵文化財センター

##### 4 期間

平成17年4月1日～平成18年3月31日

##### 5 場所

- ・三重県埋蔵文化財センター 多気郡明和町竹川503
- ・県内各発掘調査現場等

##### 6 人員

原則3名（県立学校教職員1名、小中学校教職員2名）

##### 7 参加資格

- ① 県内の公立の小学校、中学校、高等学校、盲・聾・養護学校の教職員の内で、原則として大学において考古学・歴史学を専攻、もしくは発掘調査の経験のある者。
- ② 健康で現場作業に従事できる者で、原則として昭和43年4月以降生まれである者。

##### 8 研修内容

###### ① 講義

総論 ・文化財の保護

各論 ・文化財保護法

・史跡及び埋蔵文化財保護の現状

・発掘調査方法

調査計画、集落・墳墓・生産所・窯・宮殿・官衙・寺院跡の調査

・遺物調査方法

実測原理、土器・土製品・石器・木製品・瓦の観察と整理

人骨・動植物遺体の調査

・関係学概説

建築構造、測量、保存科学、文献史学

・報告書作成方法等

###### ② 実習

・発掘調査実習、測量実習、遺構実測実習、写真撮影実習、遺物保存処理実習

##### 9 講師

三重県埋蔵文化財センター職員ほか

##### 10 その他

- ① 研修者の出張旅費は、県の旅費規定にしたがって支給する。
- ② 研修期間中は、当該学校に対して常勤講師の補充がなされる予定である。
- ③ 研修を終了した者は、修了証書を交付する。

平成17年度 埋蔵文化財教職員研修 年間計画表

三重県埋蔵文化財センター

[平成17年度 年間計画表]

研修内容	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	研修場所
講義	文化財の保護												埋文センター
	文化財保護法												埋文センター
発掘調査	時代各論												埋文センター
	遺物各論												埋文センター
	基礎実習												埋文センター
	分布調査実習												県内各地
	範囲確認実習												県内各発掘現場
実習	本発掘調査実習												県内各発掘現場
	遺物整理実習												埋文センター
	報告書作成実習												埋文センター
	埋蔵文化財公開普及												埋文センター
公開普及	資料展示実習												展示会場
	展覧会解説実習												展示会場
実習	体験発掘指導実習												県内各発掘現場
	現地説明会実習												県内各発掘現場
学校教育実践	教材研究												埋文センター
	指導案作成												埋文センター
	研究授業												県内各学校等

## 2 埋蔵文化財市町村職員研修

[実施要項]

### 三重県埋蔵文化財発掘調査市町村職員研修実施要項

- 1 目的  
この研修は、各市町村において文化財保護行政を担当する者が、埋蔵文化財の保護実務と調査に関する知識や技術を習得し、文化財保護体制を強化することを目的とする。
- 2 主催  
三重県埋蔵文化財センター
- 3 対象者  
研修の対象者（以下「研修員」という）は、原則として市町村教育委員会の文化財保護行政の担当職員とする。
- 4 場所  
三重県埋蔵文化財センター及び県内各地の埋蔵文化財発掘調査現場等
- 5 実施時期  
実施時期（各講座の履修方法）は、研修員派遣機関と協議のうえ決定する（別表〔受講例〕参照）。
- 6 研修の内容  
研修の内容は、別表「研修内容」のとおりとする。
- 7 研修員の決定
  - (1) 市町村教育委員会教育長は、職員に研修を受けさせようとするときは、別紙様式の「研修希望調書」を三重県埋蔵文化財センター所長（以下「所長」という）に提出するものとする。
  - (2) 所長は、「研修希望調書」を受けた場合、その受け入れの可否を定め、研修を希望する市町村教育長に通知するものとする。
- 8 修了者  
所長は、研修員が全研修課程を修了し、発掘調査を担当する技術を習得したと認める時は、修了証書を交付する。
- 9 研修に要する費用
  - (1) 研修員の旅費は、研修員派遣機関において負担するものとする。
  - (2) 所長は、研修に必要な資料等の経費について、研修員派遣機関に実費負担を求めることができる。
- 10 その他  
前各項に定めるもののほか、研修の実施について必要な事項は、所長が別に定める。

（附則）

この要項は、平成12年7月3日から実施する。

この要項は、平成15年2月1日から改定する。

三重県埋蔵文化財発掘調査市町村職員研修 研修内容

講座名	期 間	研 修 内 容
講座Ⅰ	30日間程度	関連法令や調査手順等の実習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・関連法令等の概要</li> <li>・分布調査</li> <li>・範囲確認調査</li> </ul> ※研修期間中に実施できなかった場合は、その後随時研修を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・遺跡台帳の整備等</li> </ul>
講座Ⅱ a	2ヶ月程度	本調査実習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・基準測量や地区設定等</li> <li>・調査前や調査作業の撮影</li> <li>・土層の判断や遺構の検出</li> <li>・遺構の掘削</li> <li>・出土遺物の取り上げ方等</li> <li>・遺構の実測や撮影</li> <li>・遺物出土状況の実測や撮影等</li> </ul>
講座Ⅱ b	2ヶ月程度	基本的には講座Ⅱ a と同じ内容であるが、市町村職員が主体的に発掘調査をおこなう。
講座Ⅲ	2ヶ月程度	発掘調査資料の整理や保管の実習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・遺構図面や写真等の整理</li> <li>・出土遺物の分類整理</li> <li>・遺物実測等</li> </ul>
講座Ⅳ	2ヶ月程度	報告書作成作業の実習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・遺物写真撮影</li> <li>・遺構や遺物の図版作成</li> <li>・原稿執筆</li> <li>・レイアウト等</li> </ul>

【注】

- 1 講座Ⅰは、基本的に研修の当初に受講するものとするが、講座修了者と同等の知識と技術を有すると認める者については省略することができる。
- 2 各講座の取得方法及び実施時期および期間は、研修員派遣機関と協議のうえ決定する。

【参 考】

受講例

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
例1		I	II a		II b		III		IV										
例2		I		II a		II b								III			IV		

平成15年2月1日  
 三重県埋蔵文化財センター

〇〇〇第 〇〇〇号  
平成 〇年〇月〇日

三重県埋蔵文化財センター所長 様

〇〇市町村教育委員会教育長

印

### 研 修 希 望 調 書

三重県埋蔵文化財発掘調査市町村職員研修を次のとおり希望します。

希望する講座名			
研修希望期間		年 月 日から 年 月 日まで	
研修希望職員	ふりがな 職 氏 名		性別 男・女
	生年月日(年齢)	( 歳)	
	現職年数	年 ( 年 月 月以来)	
	最終学歴	学校名 ( 学部 学科)	
	発掘調査経験 (参加遺跡)	( 有 無 )	
過去に県埋蔵文化財センターで受けた 市町村職員研修	昭和 平成 年度 講座名		
その他希望事項			



### 3 三重県埋蔵文化財行政基礎講座

[実施要項]

#### 三重県埋蔵文化財行政基礎講座実施要項

- 1 講座の目的  
この講座は、各市町村において埋蔵文化財保護行政を担当する者が必要と思われる事務手続等の基礎的な業務を習得するために行う。
  - 2 講座の主催者  
三重県埋蔵文化財センター
  - 3 講座の場所  
三重県埋蔵文化財センターなど
  - 4 講座の対象  
講座の対象者（以下「受講者」という）は、以下の者とする  
(1) 市町村の埋蔵文化財専門担当者以外で、埋蔵文化財保護に携わる職員  
(2) 埋蔵文化財保護の実務経験が2年以内の埋蔵文化財専門担当者  
(3) 上記以外で参加を希望する者（文化財保護委員など）
  - 5 講座の内容  
・関連法令や通知、補助制度等の概要  
・調整協議の流れと各種書類の作成  
・遺跡台帳の整備
  - 6 実施時期・期間  
実施時期 春季と秋季に各1回  
実施期間 1日
  - 7 講座に要する費用  
(1) 受講者の旅費は、派遣機関が負担する。  
(2) 講座に必要な資料等の経費について、派遣機関に実費負担を求めることができる。
  - 8 その他  
前各項に定めるもののほか、講座の実施について必要な事項は、三重県埋蔵文化財センター所長が別途定める。
- (附則)
- この要項は、平成12年7月3日から実施する。  
この要項は、平成15年5月1日から改正する。

三重県埋蔵文化財センター

平成 16 年度  
三重県埋蔵文化財年報  
2005. 11

編集 三重県埋蔵文化財センター  
発行  
印刷 (有) 山文印刷